経済産業省　御中

令和２年度経済産業省デジタルプラットフォーム構築事業（Ｇビズポータルの実現に向けた調査等事業）

事業報告書

インフォシェア株式会社

令和３年３月３１日

改定履歴			
版	章	日付	変更内容
1.0	すべて	令和３年３月 31 日	初版

目次

１．本書について 5

２．3.1 ローコーディングツールを利用した開発・運用に必要な環境整備 5

３．G ビズフォーム（GBIZFORM）について 9

４．3.2 事業者向けの行政手続システムポータルの構築 14

５．3.3 事業報告書の作成及び定期的な報告 35

６．全体の実施スケジュール想定と実際の実施状況 36

７．各事業で作成した成果物について 37

８．調達したライセンスについて 59

９．GBIZID のレベルによるアクセス可能なエリアの違い 60

１０．プロジェクト実施の管理体制 61

１１．事業実施完了後の所感 62

１２．関連サイト URL 64

１３．[参考資料 1] デジタルプラットフォーム取引透明化法利用者マニュアル 65

１４．[参考資料 2] デジタルプラットフォーム取引透明化法省内担当者（管理者）マニュアル 74

１５．[参考資料 3] 事業再編計画利用者マニュアル 85

１６．[参考資料 4] 事業再編計画省内担当者（管理者）マニュアル 102

１７. [参考資料 5] Ｇビズポータルデザインガイドライン 114

１．本書について

本書は、令和２年度経済産業省デジタルプラットフォーム構築事業（Gビズポータルの実現に向けた調査等事業）実施事業結果概要および納品物をまとめた事業報告書である。本事業で実施を行っている事業は、以下の通り 3.1～3.3 までとなっている、それぞれの活動結果の概要を以下に記載する。

２．3.1 ローコーディングツールを利用した開発・運用に必要な環境整備

令和元年度経済産業省デジタルプラットフォーム構築事業（後援名義申請デジタル化等を例とした行政手続ＰａａＳ環境の導入実証・調査事業）において構築した環境（以下「Gビズフォーム」という。）上で、開発されたアプリケーションをベースにして、あらたな制度の電子化を実施した。開発アプリケーションに関しては当初１０種類程度を想定していたが、１シナリオの規模が想定よりも大きかったため、以下の５種類の手続きのアプリケーションの追加実装を行った。

■実装を行った手続き
１．デジタルプラットフォーム取引透明化法
２．事業再編計画（産業競争力強化法）
３．委託事業における物品の取得・管理登録
４．遺留分に関する民法の特例（経営承継円滑化法）認定申請
５．官公需適格組合申請

１．デジタルプラットフォーム取引透明化法

デジタルプラットフォームにおける取引の透明性を公正性の向上を図るために、「特定デジタルプラットフォームの透明性及び公正性の向上に関する法律」が令和２年５月 27 日に成立し、同年６月３日に交付された。
この手続きは、同法に関するデジタルプラットフォーム提供者による手続きとなっている。

デジタルプラットフォーム取引透明化法
https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/digitalplatform/index.html

２．事業再編計画（産業競争力強化法）

産業競争力強化法では、産業競争力の強化に関する施策として産業活動における新陳代謝を促進するための措置を講じることとしており、その一環として事業再編の円滑化を図ることとしている。

この手続は、生産性向上を目指し、事業再編を行う取組を事業再編計画として認定し、認定を受けた取組に対して税制優遇や金融支援等の支援措置を講じることで当該取組を後押しするための手続きとなっている。

産業競争力強化法
https://www.meti.go.jp/policy/jigyou_saisei/kyousouryoku_kyouka/

３．委託事業における物品の取得･管理登録

産業競争力強化法の中での委託事業における物品の取得･管理を行うための手続き部分
委託物品の登録がオンラインで実施できる。

４．遺留分に関する民法の特例（経営承継円滑化法）認定申請

経営継承円滑化法のうちの、遺留分に関する民法の特例措置をうけるための申請手続き
経営承継円滑法における手続きには主に３つあり、

（１） 税制支援（贈与税･相続税の納税猶予及び免除制度）の前提となる認定
（２） 金融支援（中小企業信用保護法の特例、日本政策金融公庫法等の特例）の前提となる認定
（３） 遺留分に関する民法の特例

（１）（２）は各都道府県で認定をおこなっているため、本アプリでは（３）のみの認定を行う。

経営承継円滑化法による支援
https://www.chusho.meti.go.jp/zaimu/shoukei/shoukei_enkatsu.htm

５．官公需適格組合申請

毎年度、官公需についての中小企業者の受注の確保に関する法律（官公需法）に基づき、中小企業者に関する国等の契約の基本方針を策定している。
この手続はその中の中小企業庁に対しての、官公需的確組合の証明申請手続きを担当する。

官公需施策
https://www.chusho.meti.go.jp/keiei/torihiki/kankoju.htm

[納品物一覧]

表 2-1.3.1 納品物一一覧

項番	項目	納品物想定	納品物実績	備考
3.1	(1)	ライセンス一式	･ライセンス追加手続きのみ	
	(2)	仕様検討補足資料	･METIDPT 透明化法申請仕様 2020 年度事業	
			･METI 産業競争力強化法申請仕様 2020 年度事業	
			･METI 産業競争力強化法申請仕様 2020 年度事業	
			･METI 遺留分民法特例申請仕様 2020 年度事業	
			･METI 官公需仕様 2020 年度事業	
		開発成果物一式	･0200003_DPT 透明化法申請アプリ	最大 10 アプリの作成を予定していたが、モデル駆動アプリと対応するポータルをセットで 1 アプリとして、5 アプリの作成となった。
			･G ビズフォーム DPT 透明化法申請	
			･（DPT 透明化法）_0200003_DPT_1_0_0_4_managed	
			･0200004_産業競争力強化法事業再編の促進アプリ	
			･G ビズフォーム事業再編計画申請	

			・（事業再編計画） _0200004_Sangyo_1_0_0_4_managed	
			・0200005_物品委託管理アプリ	
			・G ビズフォーム物品委託管理申請	
			・（物品委託管理） _0200005_Buppin_1_0_0_3_managed	
			・0200006_遺留分民法特例申請アプリ	
			・G ビズフォーム遺留分に関する民法の特例申請	
			・（遺留分に関する民法の特例） _0200006_legitime_1_0_0_2_managed	
			・0200007_官公需適格組合証明申請アプリ	
			・G ビズフォーム官公需適格組合証明申請	
			・（官公需適格組合証明） _0200007_PublicDemand_1_0_0_2_managed	
			・（METI ベース）METIBase_1_0_0_12_managed	各アプリのベースソリューションパッケージ
			・ポータル管理のレコード	各アプリのポータル機能のレコードパッケージ
		（追加）内部管理向けアプリ	・0300001_METI ナレッジ・フィードバック共有アプリ（アプリケーションマスター）	10 アプリの作成が 5 アプリになった分で、内部向けの各種管理機能を備えたモデル駆動アプリの作成や今後の展開を簡易化するキャンバスアプリの作成にに充てた。
			・0300001_METI ナレッジ・フィードバック共有アプリ（アプリ作成相談）	
			・METI ポータルページツール	
			・（METI ベース）METIBase_1_0_0_12_managed	モデル駆動アプリを含むソリューションパッケージ（開発物一式の同項目と同等）
		テスト計画書＆実施結果	・テスト_テスト項目書と実行記録(DPT 透明化法)	
		実務担当者向けマニュアル	・ガイド_DPT 透明化法省内担当者マニュアル	
			・ガイド_事業再編計画（産業競争力強化法）経済産業省内担当者マニュアル	
		（追加）利用者マニュアル	・ガイド_DPT 透明化法利用者マニュアル	
			・ガイド_事業再編計画（産業競争力強化法）利用者マニュアル	
		研修会実施資料	・各アプリの原課への仕様説明 MTG	
	(3)	システム運用実務担当者向けマニュアル	・ガイド_DPT 透明化法省内担当者マニュアル	3.1 (2) 実務担当者マニュアルと同等
			・ガイド_事業再編計画（産業競争力強化法）経済産業省内担当者マニュアル	

		職員からの Q&A 管理シート	・0300001_METI ナレッジ・フィードバック共有アプリ（フィードバック・ナレッジ共有）	3.1（追加）内部向け管理アプリと同等

3．Gビズフォーム（gBizForm）について

Gビズフォームは本事業を実施するにあたり構築を行った申請フォームの基盤であり、経済産業省が受け付ける各種申請を電子化し、迅速な審査や交付を可能にするサービスである。

https://form.gbiz.go.jp/

上記のURLで受け付けを行う。令和3年3月22日段階の画面を以下に示す。

図 3.1 Gビズフォームトップ画面

申請者はgBizIDにてログインするため、IDをもっていない場合には、gBizIDの取得が必要となる。

ID取得後に、本サイトにgBizIDのユーザーIDとパスワードでログインを行い、各種申請書の申請を行う。

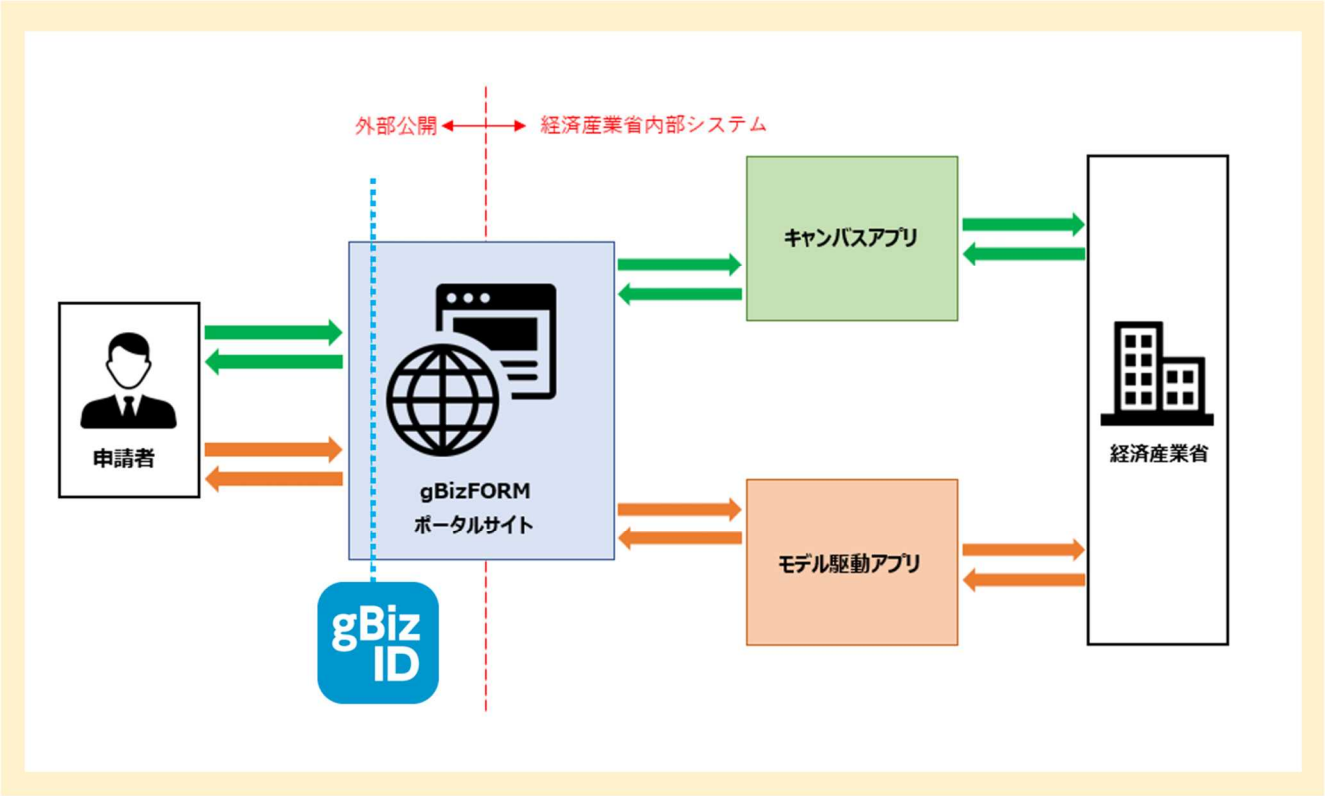
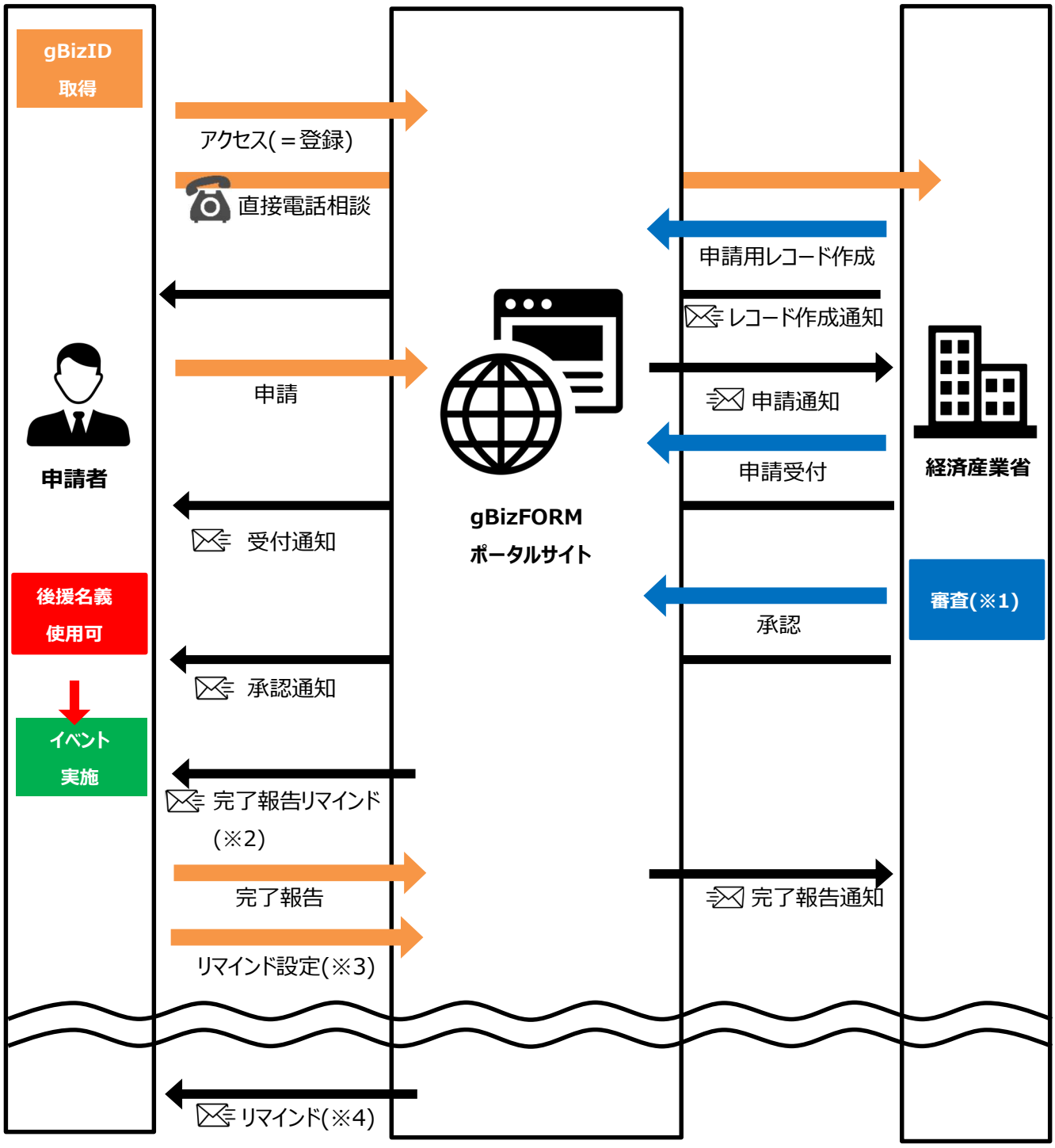


図 3.2　Ｇビズフォーム概観

上記がＧビズフォームの概観のイメージ図となる。ユーザー（申請者）の視点では単純なブラウザで操作するアプリケーションとなっているが、経済産業省のクラウドシステムとして、PowerApps のキャンバスアプリおよびモデル駆動アプリにて、省内の職員が受付業務等の操作ができるようになっている。

次に具体例としてこれらのシステムをどうつかっていくのか？を前事業のＧビズフォームのプラットフォームで最初に実装を行った「後援名義申請」を題材に処理フローを次頁に示す。

● **ポータルサイト利用イメージ例（後援名義申請）**



<凡例>

：申請者による手続き

：経済産業省担当者による手続き

：手続きにともなう通知

※1 審査が通らなかった場合は申請が差し戻され、申請者は再度申請手続きを実施する。

※2 完了報告リマインドは、完了報告が未完了の場合、イベント終了日の１日後、１週間後、１か月後に送信される。

※3 次回の同イベントのための後援名義申請の時期に合わせてリマインドを設定する。

※4 ※3 で設定されて時期にリマインドメールが送信される。

図 3.3　後援名義申請を例にした利用イメージ

前頁の内容は、前事業の後援名義申請を題材にしたポータルの利用イメージである。このように、本ポータルサイトを通して各種申請書および必要なドキュメント類を受け付け、審査を行うとともに、申請者に各種通知が行えるアプリケーション構成になっている。申請書毎に処理プロセスが異なるため、それぞれの申し込み受け付けの内容を実装する必要があるが、各種申請書に関して本サイトを窓口にすることにより、よりユーザー（申請者）にとって理解やすい、申し込みを行いやすいサイトとなるための枠組みを提供している。

尚、上記は Ｇビズフォームで最初に実装を行った制度であるが、内容的には比較的複雑な例となっている。

そのため、本事業ではより多くの制度の実装の雛形とすべく開発をおこなった、「特定高度情報通信技術活用システムの開発供給計画・導入計画・課税の特例基準適合確認申請手続き（５Ｇ・ドローン）のデジタル化」のために用意した簡易化した手続きの内容をひな形として本事業用のシナリオを実現している。

次頁にひな形として定義した事業のプロセスを図示する。

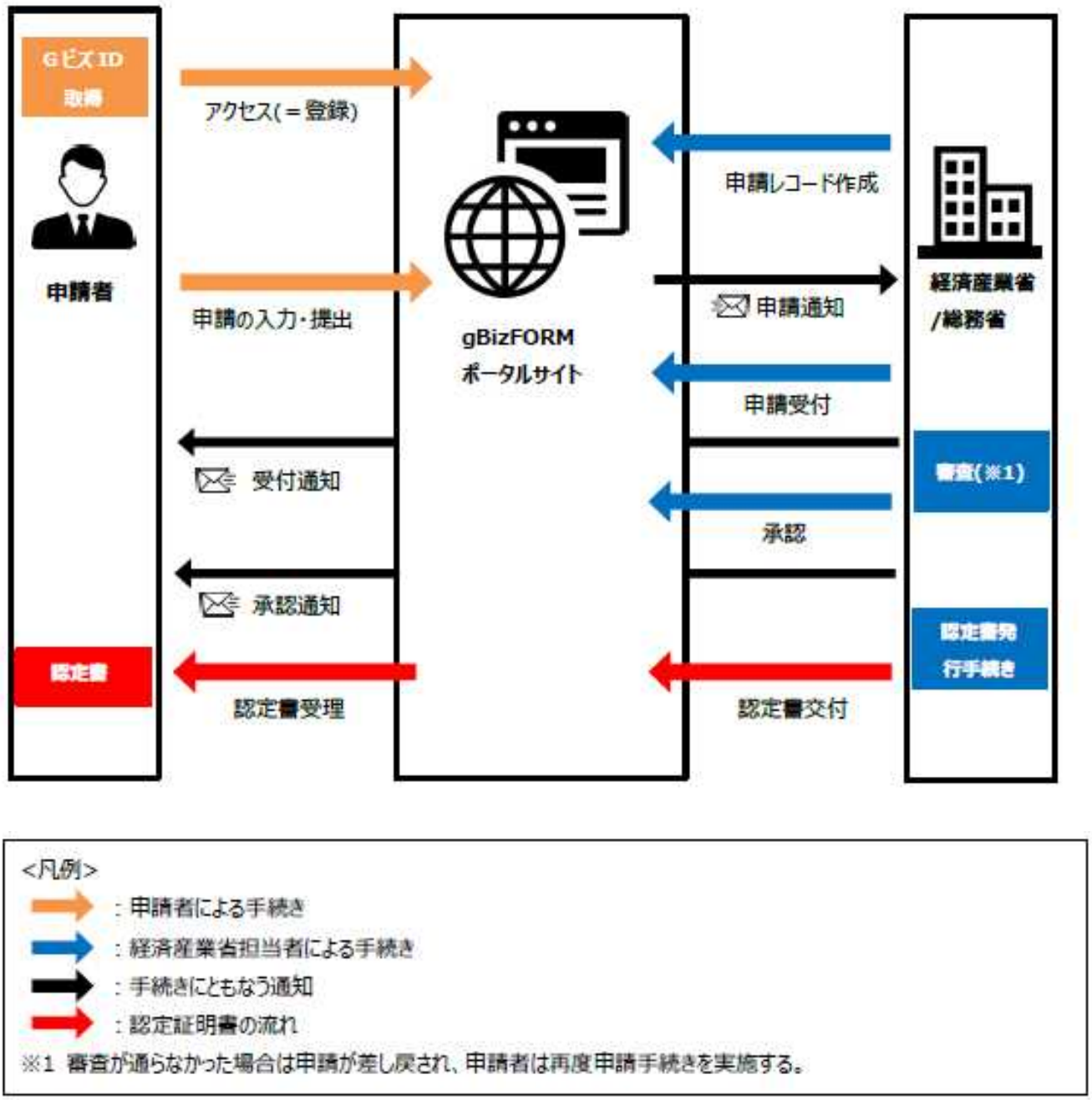


図 3.4　5Ｇドローンを例にした利用イメージ

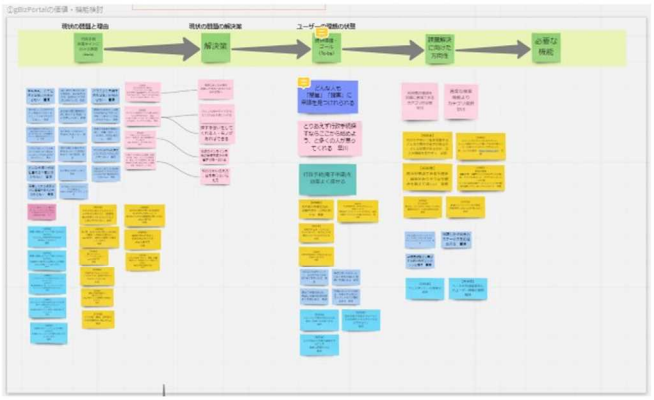
4．3.2　事業者向けの行政手続システムポータルの構築

当初名称は未決定のまま開発検討をおこなったが、その後本ポータルの名称を「G ビズポータル（gBizPortal）」と命名し、サイトのコンセプト、ターゲットユーザーなどの定義から新規のポータルサイト構築のための検討を実施した。

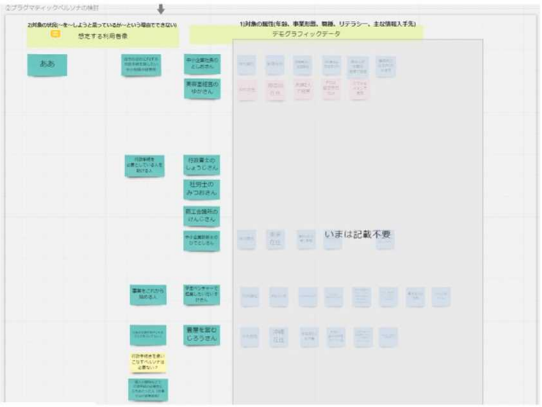
4．1 ポータルのコンセプト（デザインディスカッション）

デザインディスカッション開催概要

・日時：令和３年２月１６日　9:30～11:30
・場所：オンライン（Teams＋Miro）
・検討概要：各人の意見をブレインストーミング形式でもちよりディスカッション

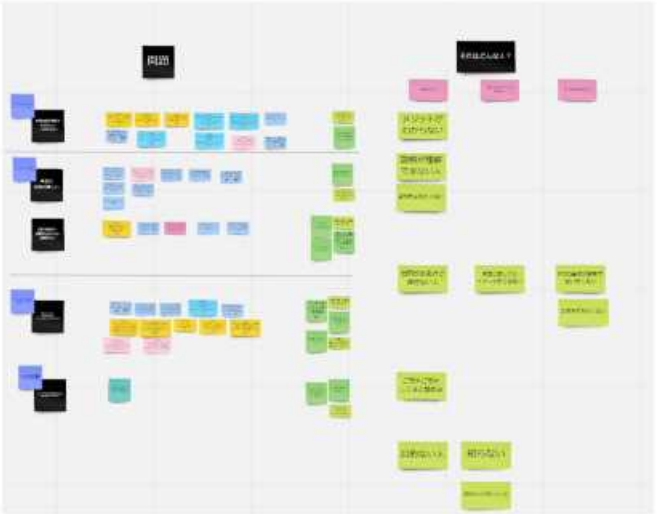


gBizPortalの価値・機能検討



プラグマティックペルソナの検討

デザインディスカッション開催概要②



ディスカッション結果

[ディスカッション結果としてわかったもの]

■現状の「申請・届出・登録」の課題について

大きく以下の３つのエリアが存在する

1．適切な「申請・届出・登録」自体にたどりつけない
2．「申請・届出・登録」の説明自体が難しい/自分が探しているものかわからない
3．「申請・届出・登録」自体の方法が複雑で手続きするのが厳しい

ポータルとしては、１番、２番に対して有効だが３番は全体の申請自体の抜本的かつ個別の対応が必要になる。

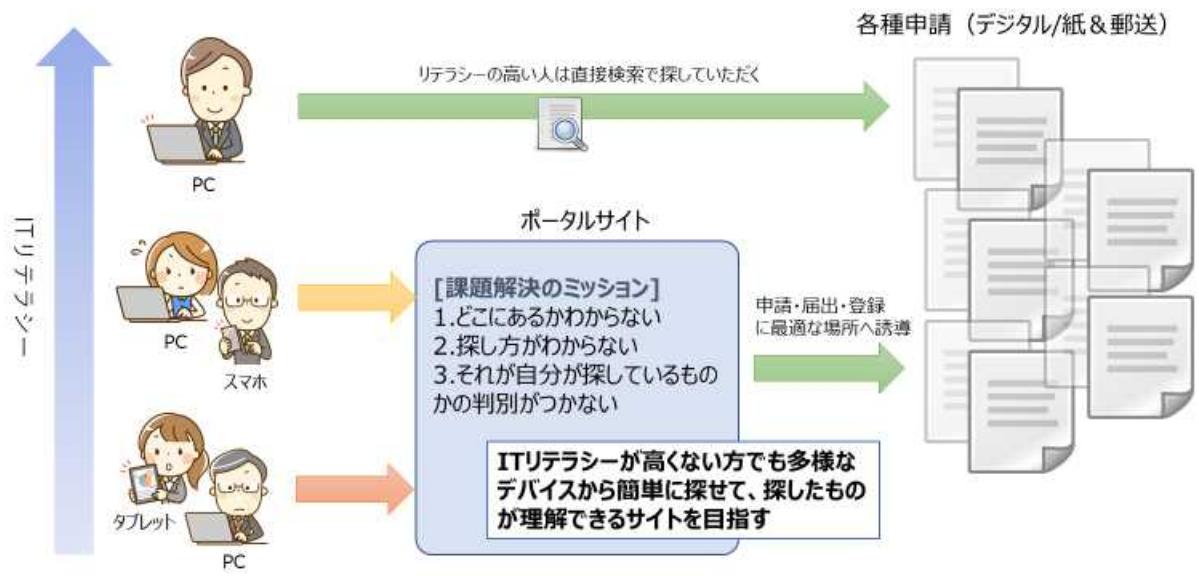
■利用ユーザーの属性、状況に起因する課題

大きく以下の４つのエリアが存在する

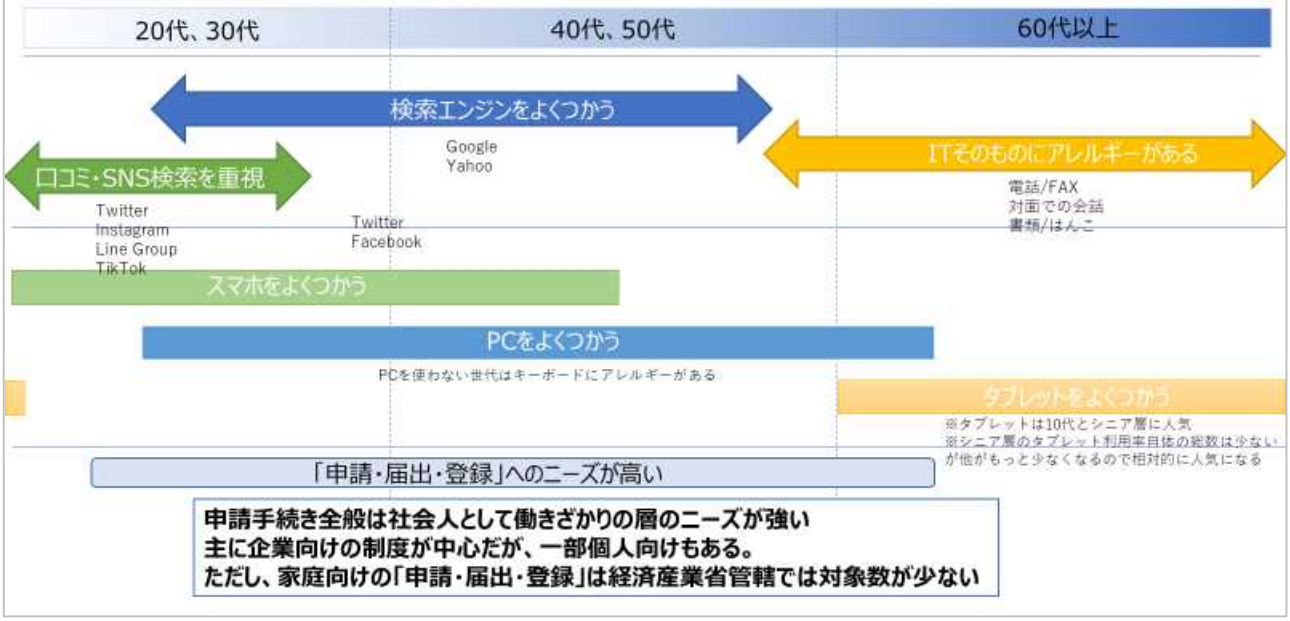
1．ITリテラシーの課題
2．所持しているデバイスの課題
3．世代等でのデジタルに対する意識の課題
4．「申請・届出・登録」行為への意識の課題

ポータルでは１番、２番を中心に対応するが、３番４番も意識をしてデザインする

ポータルのもつ役割と解決課題の対象



世代間でのデジタル意識差と「申請・届出・登録」へのニーズ



現状の課題の分布と対応

提供価値として頂戴した意見と課題解決に向けた方向性

※オレンジ色がポータルの「つくり」でも支援できそうな意見

[頂戴したご意見]

■「探す」に関連したご意見

1. どんな人も「簡単」「確実」に申請をみつけられる
2. とりあえず行政手続き探すならここはら始めよう、と多くの人が思ってくれる
3. 行政手続き（電子申請）を効率よく探せる
4. まだ紙の申請を含め、申請方法が一元的にわかる
5. その手続きをして何がうれしいか簡単にわかる
   （補助金だったらいくらもらえるのか、後援名義だったらどんな効果があるのかなど）
6. 行政のメニューにどんなものがあって、自分はどれをうけられそうなのかわかる
7. わざわざ探さなくても自分にあった手続きに気づける
8. カテゴリを絞っていくと自分がやるべき手続きが全て表示される

■「手続き自体」に関連したご意見

1. 手続の流れや気を付けておく事項を纏めて"簡単に"把握できる
2. 纏めて申請できるし、申請した後の状況がまとめて把握できる
3. 申請しないとダメな理由、申請すると得られるメリットなどが理解できる
4. どのくらい手間がかかるのか、事前に把握でき準備できる
5. 政府全体で手続きフォーマットの共通化とカスタマイズ化ができること
6. 入力や添付の手間が削減できることを事前に把握できる

探す方は、能動的に探せる機能と受動的に気づける機能にわかれる（受動的な方はユーザー各人の立場の情報が必要）
手続き自体の方は、一部の内容を救う事が可能だが、それぞれの個別の追加データが必要になる

「ポータルの作り」で解決できる領域と領域外の内容

「わからない」を「わかる」にするためには、ポータル作成のみにとどまらない様々な施策が必要

「わからない」の要因

A) 存在（認知していない）
B) 場所（情報への道筋、サイト自体）
C) 手続の仕方（プロセスやフロー）
D) 意味（説明、意図）
E) 価値（必要性、重要性）

① プロモーション
② SEO外部施策（外部サイト、メディアの被リンク、口コミ、話題性）
③ SEO内部施策（検索エンジン対策、EAT対応など）
④ Bに関しては、申請書への誘導における「検索」のしくみ（UI、インタラクション、ロジック）

⑤ コンテンツの見直し（言葉、説明）
⑥ プロモーション（冊子、動画、ブログ、解説サイト）
⑦ 問い合わせの強化と対応履歴の分析からの改善
⑧ 今後、ユーザーの分析を進めた後、リコメンドやサジェストのしくみ導入

ポータルの第一弾を作成後は上記のようなポータル外の施策も必要になってくるが、第一段としては将来的な発展ができるように以下の対応を実施することが必要

第一段の施策想定：
A)とB)への対応施策のうち**「サイトの作りでできる」**ものにフォーカス
具体的には「③内部構造、SERPs対策 ④流入後の誘導の仕組み」を工夫
さらにユーザーの動向情報をGAで定量的に分析すると同時にサイト利用の定性的な分析（ご意見フォームと月ごとのNPS分析）をすることで改善課題を検討し、次回以降の改善につなげる

ディスカッションまとめ

[メインターゲットとなるユーザーの方向性]

ITリテラシーは「低」から「中」程度 自分でネット検索してみつけづらく検索したものが該当するか判断できない方	1番PC, 2番スマホを使う社会人世代。性別での区別なし 主に検索エンジンを使う世代だが一部SNS世代も含まれる	主に企業内の社員もしくは事業を営んでいるビジネスユーザーまたは特定条件下での個人

[全体コンセプトとしての方向性]

行政手続きの難易度を下げる 手順を統一し、分かりやすく「申請・届出・登録」しやすくする	行政手続きの利用率を上げる 手続きに気が付き、正しく認識してもらう	行政手続きの価値や必要性を理解してもらう

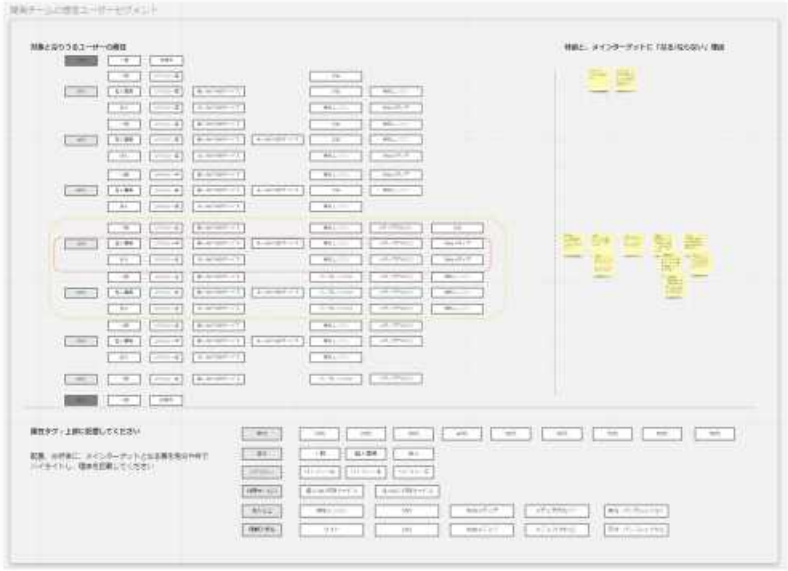
[上記コンセプトを踏まえてポータルとして提供可能な価値]

「みつからない」と「みわけられない」の課題を解決	「能動的に探せる」と「自分から気が付く」事を促進

「リテラシーが高くない人」かつ「PCとスマホ」向けに左記のワンストップサービスを提供する事がGビズポータルの役割になります

4.2 想定をおこなったプラグマティックペルソナ

ターゲットユーザーの想定



年代、ITリテラシー、情報検索の傾向等等を元に今回のポータルのターゲット像を検討を実施。

各種申請系のニーズが高い50代の上位管理職レベルをメインターゲットとサブターゲットとして60代の中小企業の経営層をまぜた形のターゲットユーザーが良いのではと判断した

- 企業ユーザーの場合には実際の申請手続きについてはもっと若い部下が行う事を想定。
- 個人事業主に近い中小企業の経営者では自分自身で対応するもしくは外注する事を想定

上記の両者の場合でも、
1．手続きの資料をさがして指示をする。
2．手続きがあることに気が付き、申請を行うもしくは指示をする。
形でのポータル利用を想定している

プラグマティックペルソナの想定：メインターゲット

氏名：田中 太郎
年齢：55歳、既婚
- 大卒
- 入社32年目
- 中堅製造業　業務執行役員
- 労働時間（フルタイムで残業多め）

年収：1000万円
居住地域：神奈川県横浜市
使用デバイス：会社支給でノートPC、iPhone　SEを使用。自宅でもノートPCがある
ITリテラシー：中

■概要情報
上位管理職として経営に携わっており、申請や情報を活用しなければならないが、目的を導くための情報（検索キーワードなど）が閃かず、またメディアもアナログ媒体を主に利用しているため、取得スピードやキッカケがつかめない。
- PCを一般的な事務作業レベルで使える。メール、ブラウザ、Officeアプリをメインで使用
- 情報収集手段：ビジネスメディア、インターネット検索も多少使用
- 主な情報収集先：ニュース、新聞（従来メディア）Line News、Facebook
- SNS利用：Facebook、Line

プラグマティックペルソナの想定：サブターゲット

氏名：佐藤 次郎
年齢：61歳、既婚
- 高卒
- 先代からの41歳のときに中小企業を引継ぎ、100人規模の会社を経営20年目
- 小規模製造業　代表取締役社長
- 労働時間（フルタイムで残業少なめ）

年収：1500万円
居住地域：東京都大田区
使用デバイス：会社でデスクトップPCを利用、ガラケーを使用。
（孫を見るためにタブレットももっているがふだんはほぼ使用していない）
ITリテラシー：低

■概要情報

中小企業の経営に長年携わっている代表取締役社長。後継者問題に悩む。各種申請を行う場合には主に紙で処理しており、必要な情報は契約している会計士や中小企業診断士から情報をもらう程度。メディアもアナログ媒体を主に利用している。Webは案内されたものを見る程度

- PCを仕事の一部で使うがWebでの情報収集はあまり行わない。
  Officeアプリ、ブラウザをたまに利用する。メールは読む事中心であまり書かない。
- 情報収集手段：ビジネスメディア(従来メディア)
- 主な情報収集先：ニュース、新聞（従来メディア）
- SNS利用：利用していない

プラグマティックペルソナの想定：サブサブターゲット

氏名：山田 春香
年齢：24歳、独身
- 大卒（私立文系）
- 社会人２年目の総合職、総務部に所属
- 大手製造業　担当
- 労働時間（フルタイムで残業少なめ）

年収：400万円
居住地域：東京都世田谷区
使用デバイス：会社でノートPCを利用、私用ではiPhone 12 を活用
ITリテラシー：中

■概要情報

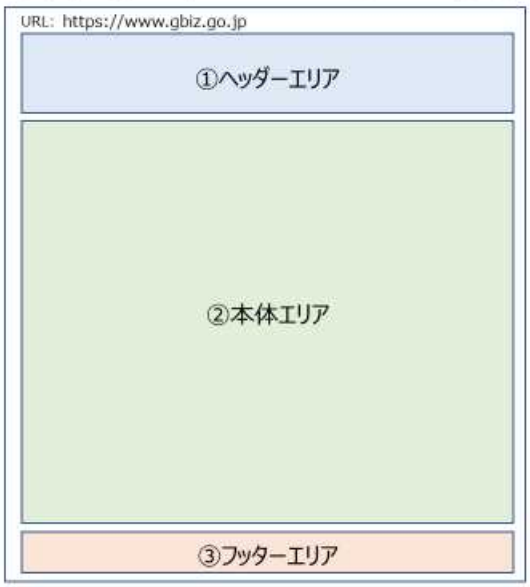
社会人２年目のバックオフィスの部署に配属されている２年目社員。上長の指示された内容を元に手続きをさがす等の業務を実行しており、ITリテラシーはそれなりにあるが行政手続き自体についてはちんぷんかんぷん。
PCはNote PCを貸与されており、会社ではNotePCをつかっているが、自宅にはPCはなくテレビもあまり見ない。
プライベートのIT関連のほぼすべてはスマホで行っている。PCではOfficeアプリ、ブラウザ、メールを使用するほか、社内ポータル等のクラウドシステムもつかって作業している。
PCではキーボードで文字を入力するよりもスマホのフリック入力の方が得意。そのため、調査作業をスマホで行う事が多い

- 情報収集手段：SNS検索、Line Group、Instagram、TikTok、Blog、Youtube
- 主な情報収集先：SNS上の口コミ、友人関係からの情報共有、YouTube
- SNS利用：Line、Twitter、Instagram、TikTok

上記の３名のプラグマティックペルソナを設定して、サイトのデザインを実施。

4.3 初期バージョンの要件、実装想定機能

機能要件①（ユーザー向け機能）



[ヘッダーエリア]
- サイト名/ロゴ等
- ページナビゲーション

[本体エリア]
- **キーワード検索** ※メインコンテンツ
- **カテゴリー検索** ※メインコンテンツ
- **検索結果表示**
- 新着情報
- お知らせ

[フッターエリア]
- 使い方ガイド
- 利用規約
- プライバシーポリシー
- ブラウザサポート環境
- ご意見/御要望
- サイトマップ

※付帯情報へのリンクが主体

機能要件②（管理者向け機能）

[ユーザー向けのコンテンツ編集]
- 検索対象データインポート：ExcelもしくはCSVもしくはGoogle スプレッドシートからの取り込み
  - ・リンク先管理
  - ・カテゴリー設定
  - ・検索タグ等（キーワード検索関連設定）

[自動インポート]
- APIによるデータの自動取り込み
  （取り込み対象：制度ナビ）

[操作内容分析]
- 操作内容分析のための操作内容記録
- GTMタグ対応

実装イメージ：詳細は設計フェーズで確定

非機能要件①

[プロトコル系]
・https対応（TLS1.2以上対応）※TLS1.0/1.1に関しては非対応
・http/2対応　※http /3は将来的に検討

[マルチデバイス/ブラウザサポート]
・マルチデバイスサポート/レスポンシブフォーム対応：
　　PC、スマートフォン、タブレットからのアクセスに対応
・マルチブラウザサポート
　　PC用とスマートフォン用の複数のブラウザをサポート（詳細は「想定画面、デバイスの項目参照」）

[その他]
・SEO対策：内部施策のみの検討（サイトの知名度をあげるなどの外部向け施策は開発対象外）
・Webアクセシビリティ（WCAG 2.0対応等）：AもしくはAA想定
　※miChacker等のアクセシビリティ評価ツールを利用してのチェックも検討
・対応言語：日本語のみ

非機能要件②　Webサーバー側で用意されている機能の利用

- アクセス集中対策
  コンテンツブースト対応（CDN）
  https://www.sakura.ne.jp/function/contentboost/
  リソースブースト
  https://www.sakura.ne.jp/resourcesboost.html
- セキュリティ対策（WAF）
  https://help.sakura.ad.jp/360000338401463/
- バックアップ＆ステージング
  https://www.sakura.ne.jp/function/backup_staging.html
- サイトのアクセスログ
  https://help.sakura.ad.jp/360000208561/
- サイトリソース情報確認
  https://help.sakura.ad.jp/360000208521/

性能要件

一般的なWebサイトとして利用できる範囲として以下を定義する。

・一般的なWebページの表示：平均 3 秒以内（１秒以内が望ましい）
・検索等の動的コンテンツのイニシャルレスポンス（画面レスポンス）：平均 4 秒以内（１秒以内が望ましい）

□計測前提
・計測環境：中小企業の光回線を利用（ベストエフォートでの1GBps程度の回線）
・計測時間：一般的企業の就業時間中（9:00～17:00）
・計測デバイス：一般的なPCでの有線接続（1000Base-TX、CAT6以上の有線での接続）

□測定箇所
・ページ表示：トップページおよびよく利用すると想定するページを指定してブラウザでのURL指定からページ表示環境までの時間を計測
・動的コンテンツのイニシャルレスポンス：単一キーワードでの検索文字を入れ、検索ボタンを押下してから、検索が実行されているもしくは検索結果が表示された最初の段階までの時間を計測

□計測回数
・各箇所10回計測し、平均値を出す。
・検索対象データは1000レコード程度のデータを想定

想定画面、デバイス

本サイトはレスポンシブUIを採用し、PC、スマートフォンでの動作検証を想定

□PC画面：対応ブラウザ
・Chrome
・FireFox
※どちらも最新バージョンで動作検証を行う。動作検証を行うOSはWindows10とする
■Mac版Safariについて：対応ブラウザには含めるが、動作テストは「Sanity Check」レベルとする。

□モバイル画面：対応ブラウザ
iOS: Safari
Android: Chrome
※どちらも、最新バージョンで動作検証を行う。
※本バージョンでは、別途アプリ対応は行わない。（スマートフォンのブラウザでの動作検証を実施）

□タブレット：対応ブラウザ
iOS:Safari
■Androidタブレットについて：対応ブラウザには含めるが、動作テストは「Sanity Check」レベルとする。

※Ｇビズポータル機能要件から抜粋

4.4 実装物

全体的なサイトコンセプトや検討を行ったデザイン等を元に POC としてサイトを構築した。

URL: https://gbizportal.sakura.ne.jp/

上記以外にも以下の URL にステージング環境を用意し、[開発環境]→[ステージング環境]→[本番環境]という形で、事前更新の動作確認を行い、本番環境にあげられるような形式をとっている。

ステージング環境 URL

URL: https://gbizportal-stg.xii.jp/

図 4-1.G ビズポータルサイトトップイメージ

本ポータルはプラグマティックペルソナのターゲット層であるシニア層にもわかりやすい検索を行えるサイトを目指している。

そのため、上記の画面のように 2 種類のかんたん検索を設置している。

どちらも、手入力で文字を入力せずにクリックもしくはタップ操作でかんたんに目的のものにたどりつけるように配慮している。

以下に主な機能を示す。

■かんたん検索：質問に答えて探す

上記は簡単な質問に回答をしていく形で、実際のさがしたい制度を見つけるための検索 UI である。

最初に検索をおこなっているユーザーの状況を回答し、

次に探したい制度に対してチェックを行っていくと、対象件数を絞り込む事ができる。

絞込みの結果として、画面下部の「該当件数：ＸＸ件」という数字が表示されているため、この数字でユーザー自身が確認できそうな数字になった段階で、[この条件で検索]をクリックすることにより

検索結果を表示することができる。

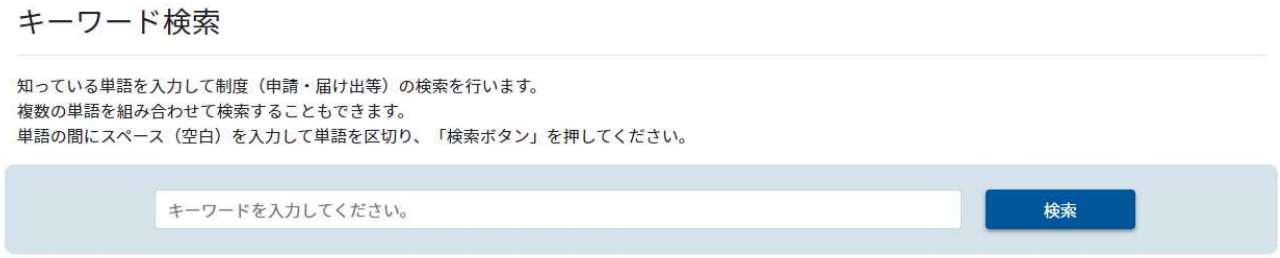
■かんたん検索：条件を選んで探す

第２のかんたん検索は「条件を選んで探す」検索となっている。こちらも探したいもののイメージが表示されている条件に近い項目を選択していくことで、探したい制度にたどりつけるようになっている。

上記のように探したい制度の目的をクリックすることで、該当件数が表示される。こちらもユーザーのタイミングがいいところで「この条件で検索」をクリックすることで、

検索結果を表示することができる。

■キーワード検索



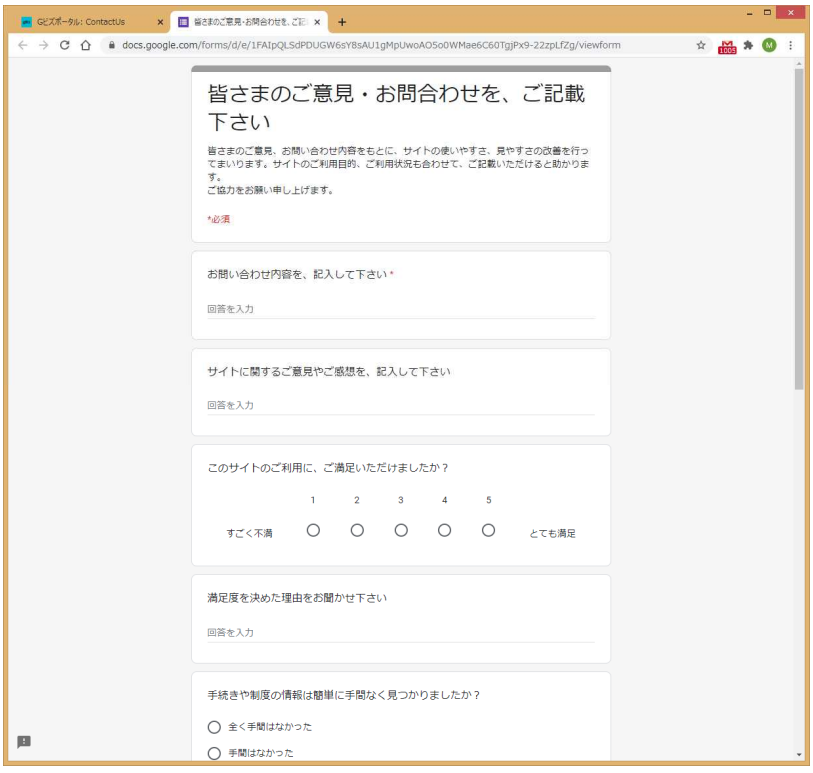
第３の検索としては「キーワード検索」が利用できる。こちらは単語の間にスペース（空白）を入力して単語を区切り、複数キーワードで検索することができる。

このように、キーワードで結果を表示することができる。結果表示にもキーワードをいれるテキストボックスが表示されるため、この画面上で再度キーワードをいれなおして再度検索をかけることができる。

■サイト改善のためのデータ収集

本サイトはユーザーからのフィードバックを受け付けられるようになっており、

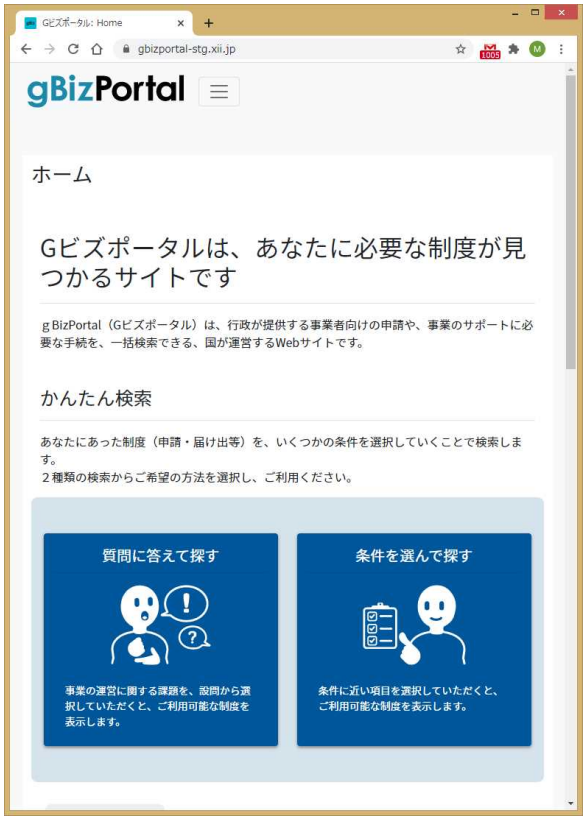
ご意見・お問合せの送信の欄で、プライバシーポリシーに同意し、「ご意見・お問合せフォームを開く」をクリックすることで



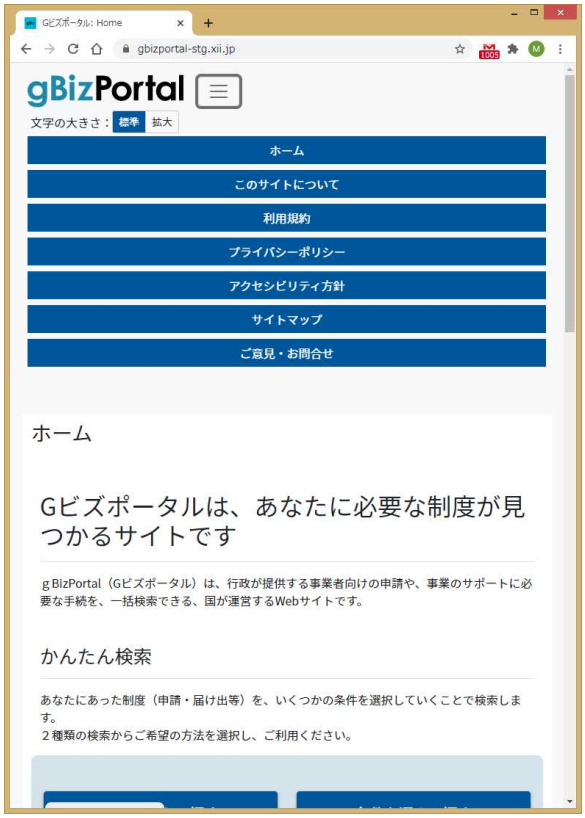
上記のようなフォームでフィードバックをあつめられ、あつめた内容は Google フォーム上で集計結果や各コメントを閲覧することができる。これにより定性的なフィードバックをあつめられるようになっている。

■レスポンシブデザイン

本サイトはレスポンシブ UI に対応しており、モバイル画面でも同様に利用ができる。



上記のように、モバイル画面を想定した縦画面でも操作でき、メニューがモバイル用の「ハンバーガーメニュー」に切り替わる。



ハンバーガーメニューをクリックすると上記のようにメニューが表示され、モバイル画面でのタップで利用できるようになっている。

■その他の機能

管理系の機能として以下の機能ももっている。

１．制度ナビ（https://seido-navi.mirasapo-plus.go.jp/）からのデータの取り込み機能

２．手動での検索対象データの追加機能

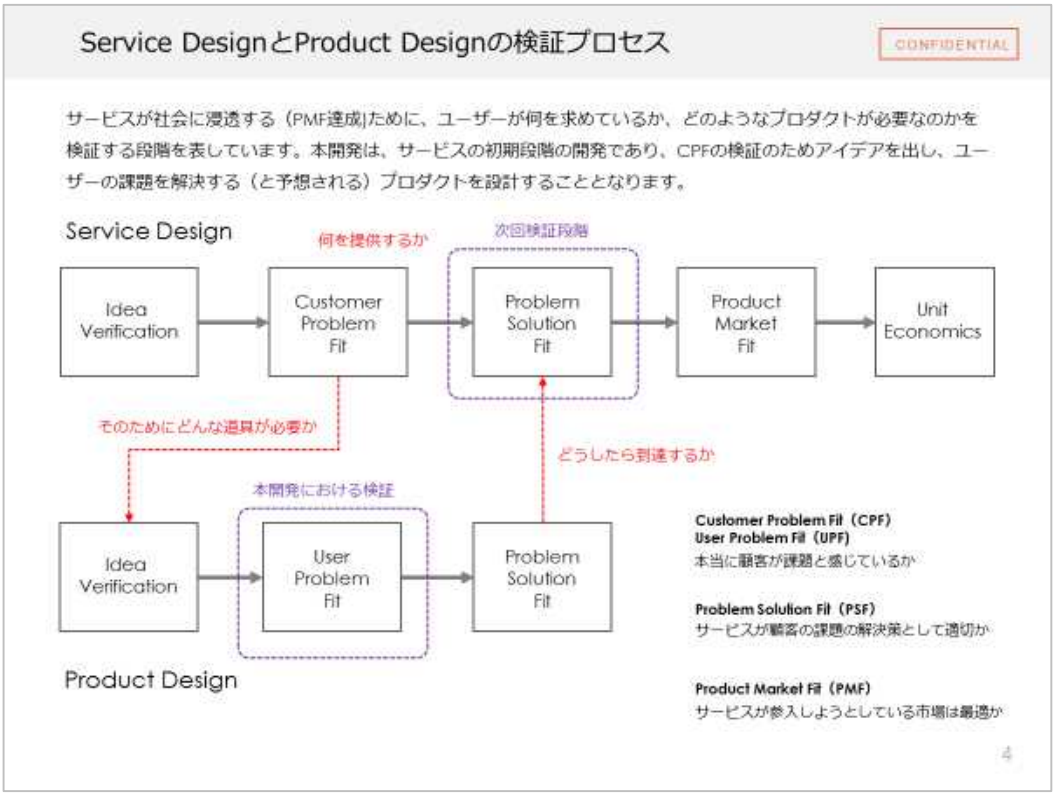
３．カテゴリー編集用のマスター機能

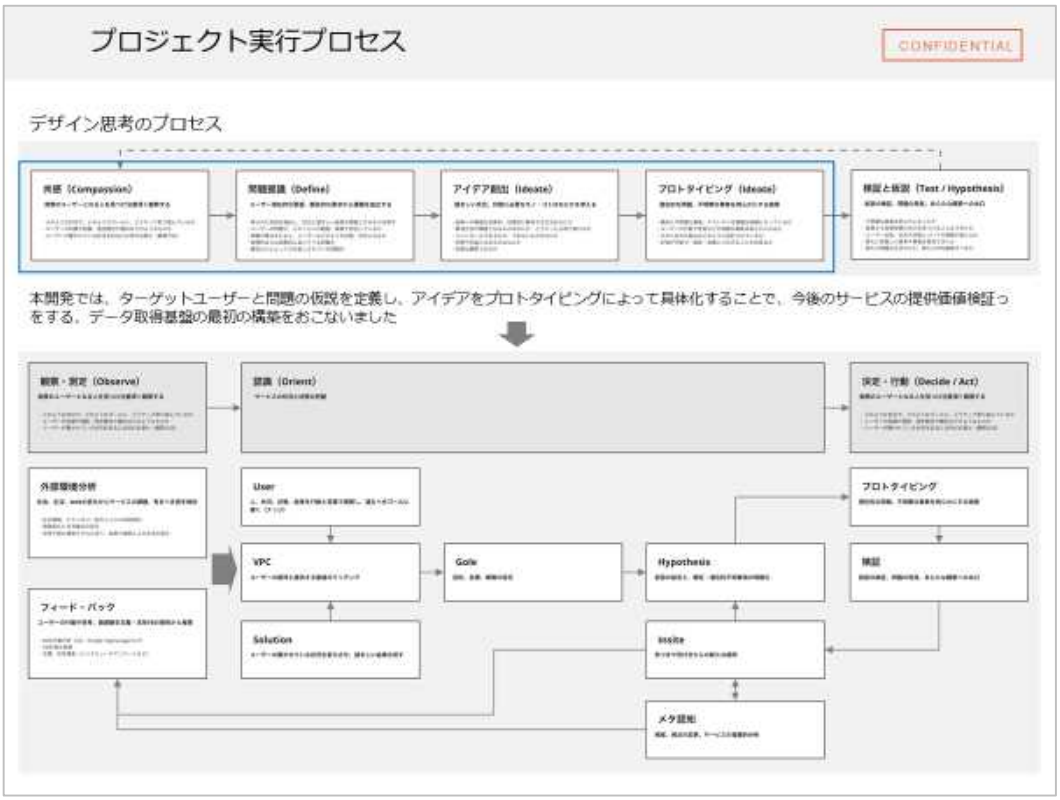
４．ユーザーが検索した内容やクリックした内容の統計情報をとることにより、今後のサイト改善に役立つデータを収集することができる。（Google Analytics のエンジンを利用している）こちらの機能により、定量的なデータもあつめられるようになっている。

4.5 デザインガイドライン

POC サイトの設置を通して、サイトのデザインガイドラインの作成もあわせて行った。

UX の部分と UI の部分でのデザインガイドラインを策定している。





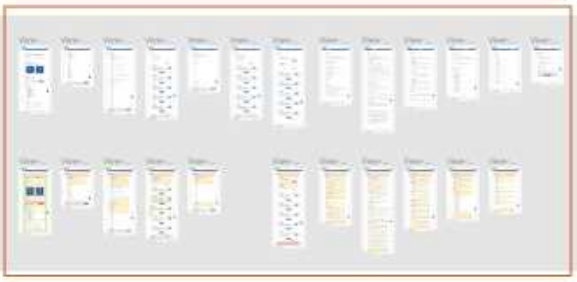
UX デザイン定義

画面設計図

CONFIDENTIAL

本開発はBootstlapをベースとし、エレメントのカスタマイズを行っている。
詳細は、Figmaのファイルを参照して下さい。

Elements（Assets、Components）



画面デザイン一覧、及び画面設計図

今後のｇBizシリーズを構築して行く際は、共通のエレメントの拡充と利用、基本画面構成（レイアウトパターン）コンテンツ構造化のルールを構築していくことにより、Serviceのビジュアル・アイデンティティ、ユーザビリティ、アクセシビリティの有効性が共有され、Serviceブランドの発展につながることとなる。
本開発は、サービスブランド強化の構築第一歩としてのPoC開発とも言える。

画面設計方針

CONFIDENTIAL

本サイトは、リキッドデザインを採用しPCとモバイル端末ともに視認性、活用性の有効化をめざした。

SCPを意識した画面設計
【Simple】最小限の要素で、必要な情報を適切に提示する
【Clean】色、文字、余白を整えるなど、情報の識別がしやすい工夫
【Powerful】すぐ理解できるだけでなく、利用のMotivationの喚起を促す

JIS X8341-3を基準とした設計
日本工業規格JIS X8341シリーズ|高齢者・障害者等配慮設計指針-情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス)のガイドラインを基に設計を行う。
基本的概念
ウェブコンテンツは、可能な限り高齢者・障害者が操作又は利用できるように配慮する
ウェブコンテンツは、できるだけ多くの利用環境に配慮する
企画から運用に至るプロセスで情報アクセシビリティを常に確保し、更に向上するように配慮する

ユーザビリティ　行動喚起をユーザーに促す仕掛け
ユーザーが、制度検索を行うMotivationと、検索項目を選択することで、検索結果の絞り込みが可能となり、必要な制度を発見しやすくなることをナビゲートする仕掛け。更に継続的な利用による操作学習の向上を促し、キーワード検索等を利用して、特定の制度情報に素早くアクセスできるようになる仕掛けの設計

UI デザイン定義

以上が３． ２事業の内容を及び成果物である。

成果物の詳細を以下に示す。

[納品物一覧]

表 4-1. 3.2 納品物一覧

項番	項目	納品物想定	納品物実績	備考
3.2	(1)	ライセンス一式	・ライセンス追加手続きのみ	
		要件定義書（検討資料一式）	・G ビズポータル機能要件_20210203 提出	
		コンセプト資料	・G ビズポータルコンセプト 20210219	
		開発物一式	・gBizPortal	ZIP にまとめてある
		設計書/テスト関連資料一式	・設計書	複数フォルダにわかれている
	(2)	実務担当者向けマニュアル	・ガイド_G ビズポータル利用者マニュアル	
		システム運用実務担当者向けマニュアル	・ガイド_G ビズポータル管理者マニュアル	_
		デザインガイドライン（スタイルガイド） CSS 等の関連ファイル含む	・GbizPortal_DesignGide_0330	

5.3.3 事業報告書の作成及び定期的な報告

本事業の遂行にともない、

・週１回の定期ミーティング

を実施し、進捗確認や課題解決のための協議を実施した。また、本ドキュメントを事業報告書として、全体の事業の内容をまとめ、全体事業の報告書の作成を行った。

[納品物一覧]

表 5-1. 3.3 納品物一覧

項番	項目	納品物想定	納品物実績	備考
3.3	全項目対応	定期的報告関連ドキュメント	・3.1 関連作業報告書（週次）	チーム構成の都合上、前案件の「行政手続ＰａａＳ環境の導入実証・調査事業」の定例と抱き合わせて定例会の実施と報告書の作成を行った。
			・3.2 関連作業報告書（週次）	
		プロジェクト最終報告書	・事業報告書 20210331	

6．全体の実施スケジュール想定と実際の実施状況

本事業全体においては、以下のようなスケジュールでの実施を想定していた。

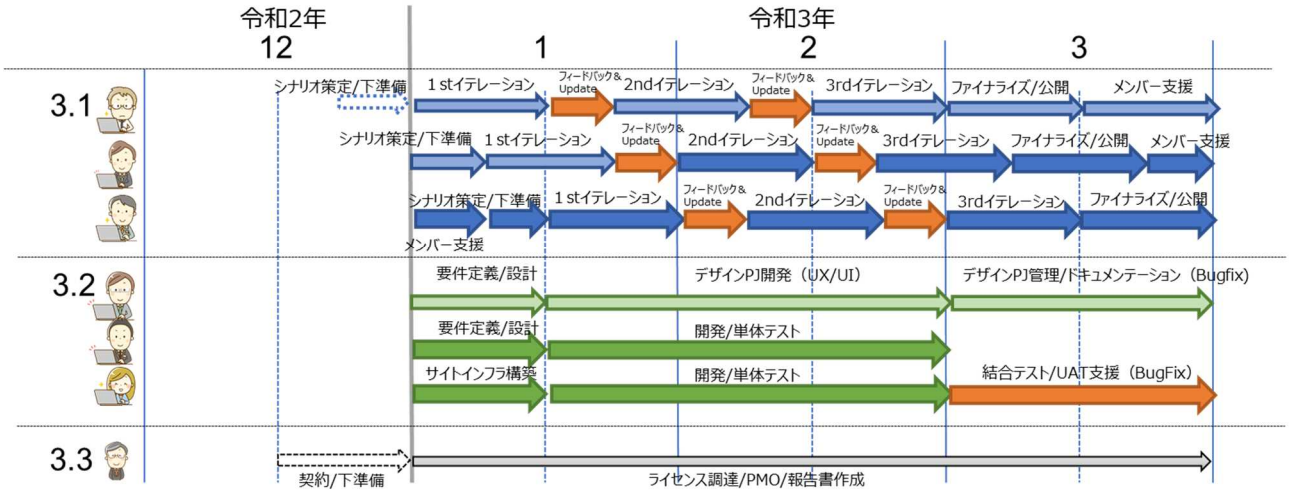


図 6.1 当初計画を行った全体スケジュール

３ヶ月の非常に短いスケジュールでの実装であったこと、また事業開始時には実装するシナリオなどが確定していなかったこともあり、ほぼスケジュール通りにはならず、できるところから並列して作業を行うといった状況での事業実施となった。

全体の工数についての増減はないものの、大きくわけて以下の内容で当初想定と乖離があった。

3.1

１．追加シナリオの確定遅れ

3.1 の事業は追加する申請書の決定が遅れると開始がそのまま送れるため、これが実際の実施状況との乖離の主原因となった。ただし、もともとの事業自体は 10 アプリを想定していたものの、あくまで想定であり、１つのアプリの規模や複雑さなどで実装期間がかわってしまうため、この内容は想定内とも考えられる。

3.2

１．サイトのコンセプト策定、プラグマティックペルソナの定義、RFI の定義のための工数を見積もっていない

サイトを構築の要件定義に入る前の段階のサイト作成のコンセプト検討のフェーズを当初考慮にいれていなかった。開始自体も２週間遅れて開始され、サイトのコンセプト策定、プラグマティックペルソナの定義、RFI/要件定義のフェーズで約１ヶ月かかってしまったため、できるところの事前準備はおこなっていたものの、実質的な開発開始が２月の中旬にずれ込み、３月末の最終日まで開発を行う状況になった。

2．想定を超える機能の実装がプロジェクト開始後に判明した

当初機能として想定していなかった、他サイトからのデータの自動取り込みやサイトのユーザー動向分析、レスポンジブ UI によるマルチブラウザ、マルチデバイス対応、アクセシビリティ対応などの機能の実装が加わったため、実装のための想定工数以上の実装工数がかかった。これらの機能に関しては、プロジェクト開始後に判明した内容のため、当初の計画には盛り込むことができなかった。

今後同様な事業を実施する際には、少なくともサイトコンセプト、ターゲットユーザー、RFI については、実装工数の正確な見積もりができないため、プロジェクト開始前に確定させる必要があると考える。

7．各事業で作成した成果物について

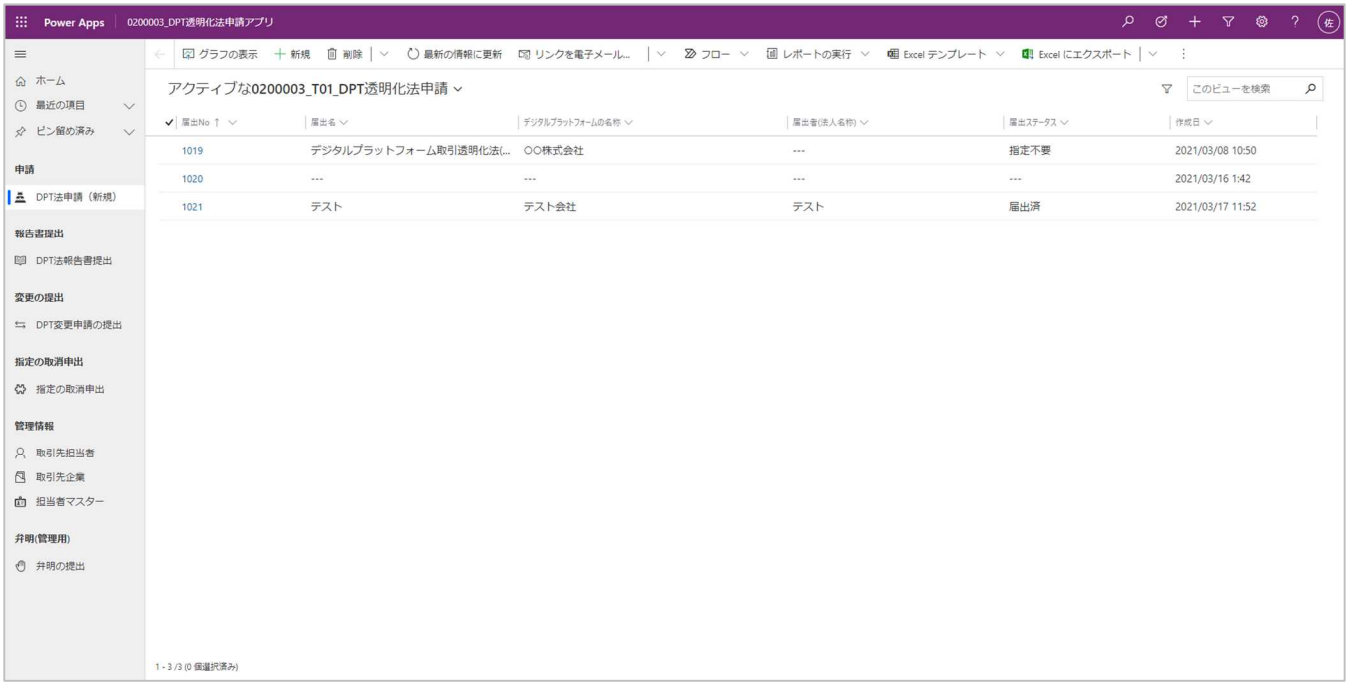
3.1 ローコーディングツールを利用した開発・運用に必要な環境整備

１．デジタルプラットフォーム取引透明化法

ポータル画面

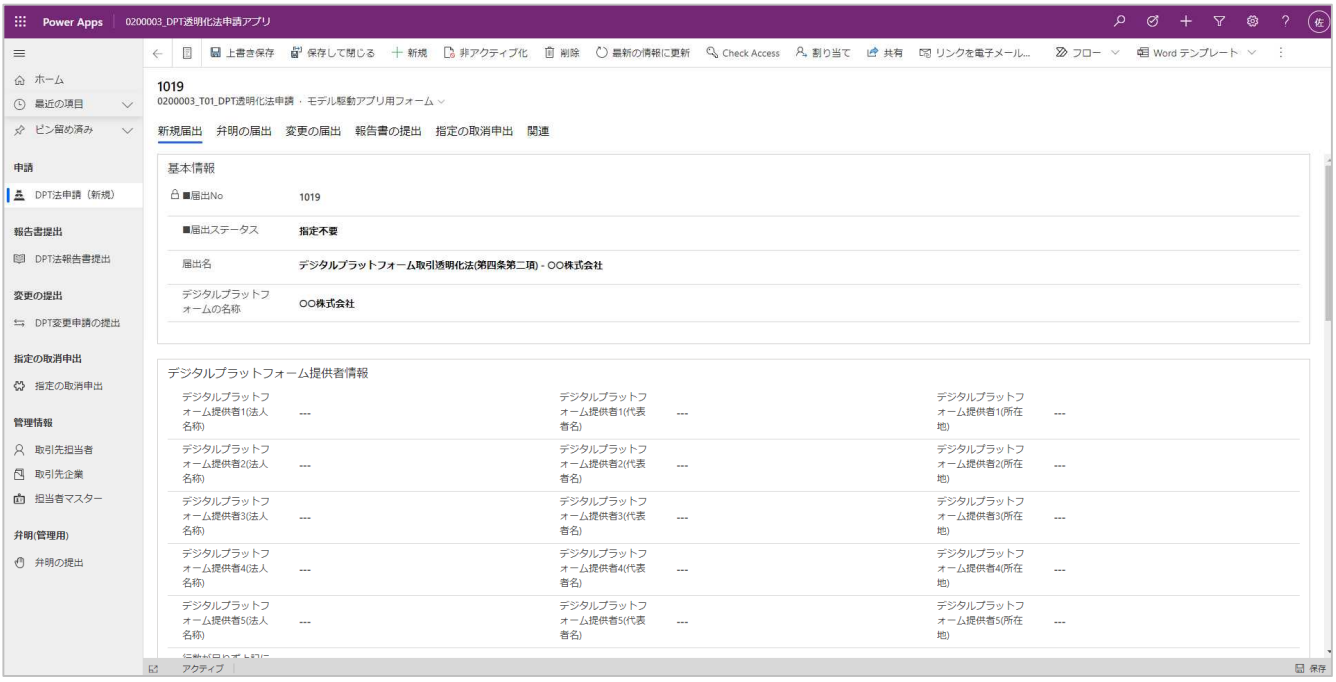
gBizFORM
ホーム
FAQ・利用ガイド
省庁担当者メニュー
佐々木 宏彰
ホーム > DPT透明化法届出ホーム > DPT透明化法届出一覧 > 届出（新規フォーム）
届出（新規フォーム）
新規届出
基本情報
■届出No
—
■届出ステータス
—
届出名
※記入例：デジタルプラットフォーム取引透明化法(第四条第二項) - ○○株式会社
デジタルプラットフォームの名称
デジタルプラットフォーム提供者情報
デジタルプラットフォーム提供者1(法人名称)
デジタルプラットフォーム提供者1(代表者名)
デジタルプラットフォーム提供者1(所在地)
デジタルプラットフォーム提供者2(法人名称)
デジタルプラットフォーム提供者2(代表者名)
デジタルプラットフォーム提供者2(所在地)
デジタルプラットフォーム提供者3(法人名称)
デジタルプラットフォーム提供者3(代表者名)
デジタルプラットフォーム提供者3(所在地)
デジタルプラットフォーム提供者4(法人名称)
デジタルプラットフォーム提供者4(代表者名)
デジタルプラットフォーム提供者4(所在地)
デジタルプラットフォーム提供者5(法人名称)
デジタルプラットフォーム提供者5(代表者名)
デジタルプラットフォーム提供者5(所在地)
行数が足りず上記に書ききれない提供者を記入すること。
※記入例：提供者・○○株式会社　代表者名：○○　所在地：○○県○○市○○　○○ビル　○○室

フォーム画面（一部）


Power Apps
0200003_DPT透明化法申請アプリ
ホーム
最近の項目
ピン留め済み
申請
DPT法申請（新規）
報告書提出
DPT法報告書提出
変更の提出
DPT変更申請の提出
指定の取消申出
指定の取消申出
管理情報
取引先担当者
取引先企業
担当者マスター
弁明(管理用)
弁明の提出
グラフの表示
新規
削除
最新の情報に更新
リンクを電子メール...
フロー
レポートの実行
Excel テンプレート
Excel にエクスポート
アクティブな0200003_T01_DPT透明化法申請
このビューを検索
届出No
届出名
デジタルプラットフォームの名称
届出者(法人名称)
届出ステータス
作成日
1019
デジタルプラットフォーム取引透明化法(...
〇〇株式会社

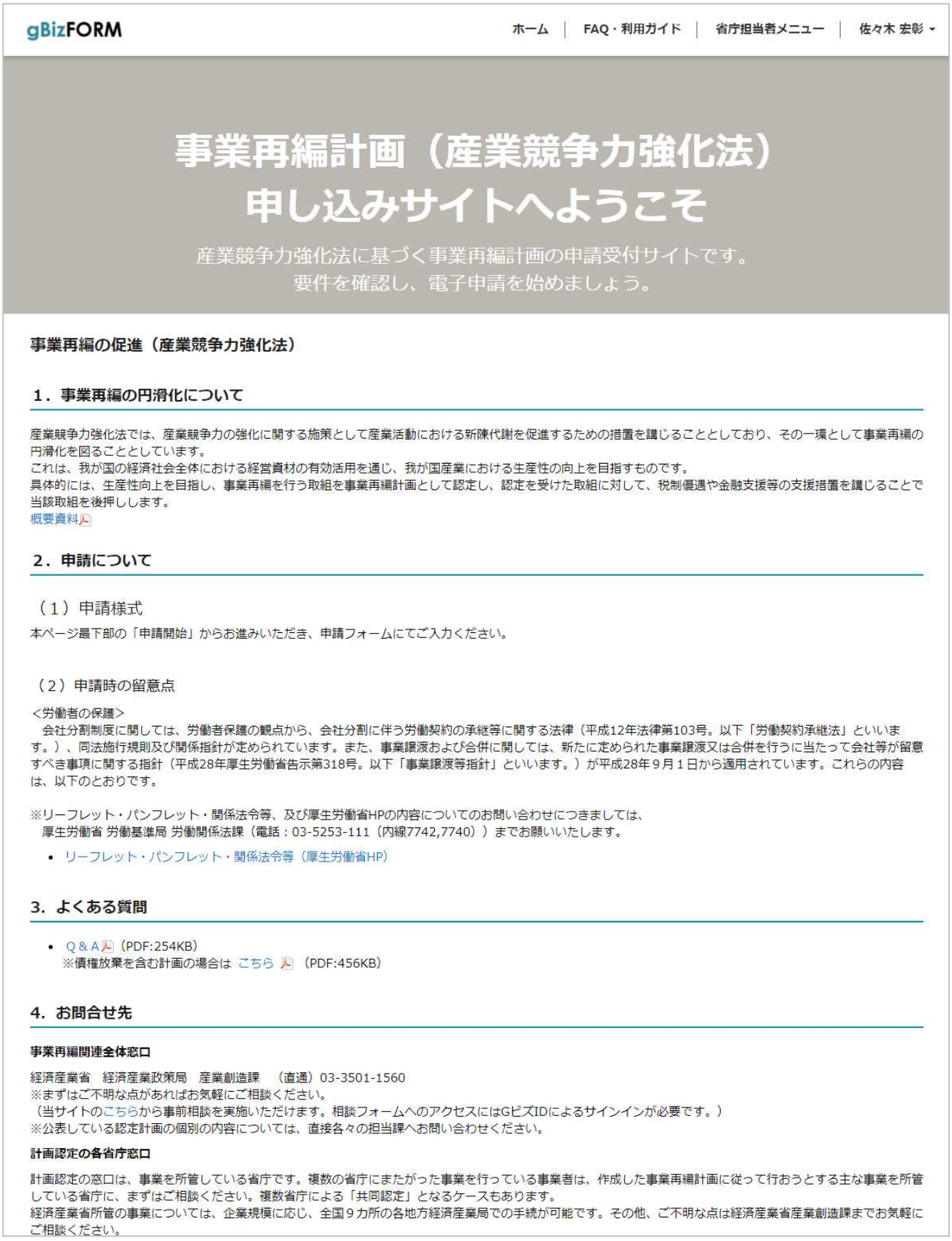
指定不要
2021/03/08 10:50
1020

2021/03/16 1:42
1021
テスト
テスト会社
テスト
届出済
2021/03/17 11:52
1 - 3 / 3 (0 個選択済み)


Power Apps
0200003_DPT透明化法申請アプリ
上書き保存
保存して閉じる
新規
非アクティブ化
削除
最新の情報に更新
Check Access
割り当て
共有
リンクを電子メール...
フロー
Word テンプレート
1019
0200003_T01_DPT透明化法申請 ・ モデル駆動アプリ用フォーム
新規届出
弁明の届出
変更の届出
報告書の提出
指定の取消申出
関連
基本情報
■届出No
1019
■届出ステータス
指定不要
届出名
デジタルプラットフォーム取引透明化法(第四条第二項) - 〇〇株式会社
デジタルプラットフォームの名称
〇〇株式会社
デジタルプラットフォーム提供者情報
デジタルプラットフォーム提供者1(法人名称)
デジタルプラットフォーム提供者1(代表者名)
デジタルプラットフォーム提供者1(所在地)
デジタルプラットフォーム提供者2(法人名称)
デジタルプラットフォーム提供者2(代表者名)
デジタルプラットフォーム提供者2(所在地)
デジタルプラットフォーム提供者3(法人名称)
デジタルプラットフォーム提供者3(代表者名)
デジタルプラットフォーム提供者3(所在地)
デジタルプラットフォーム提供者4(法人名称)
デジタルプラットフォーム提供者4(代表者名)
デジタルプラットフォーム提供者4(所在地)
デジタルプラットフォーム提供者5(法人名称)
デジタルプラットフォーム提供者5(代表者名)
デジタルプラットフォーム提供者5(所在地)
アクティブ
保存

モデル駆動アプリ画面

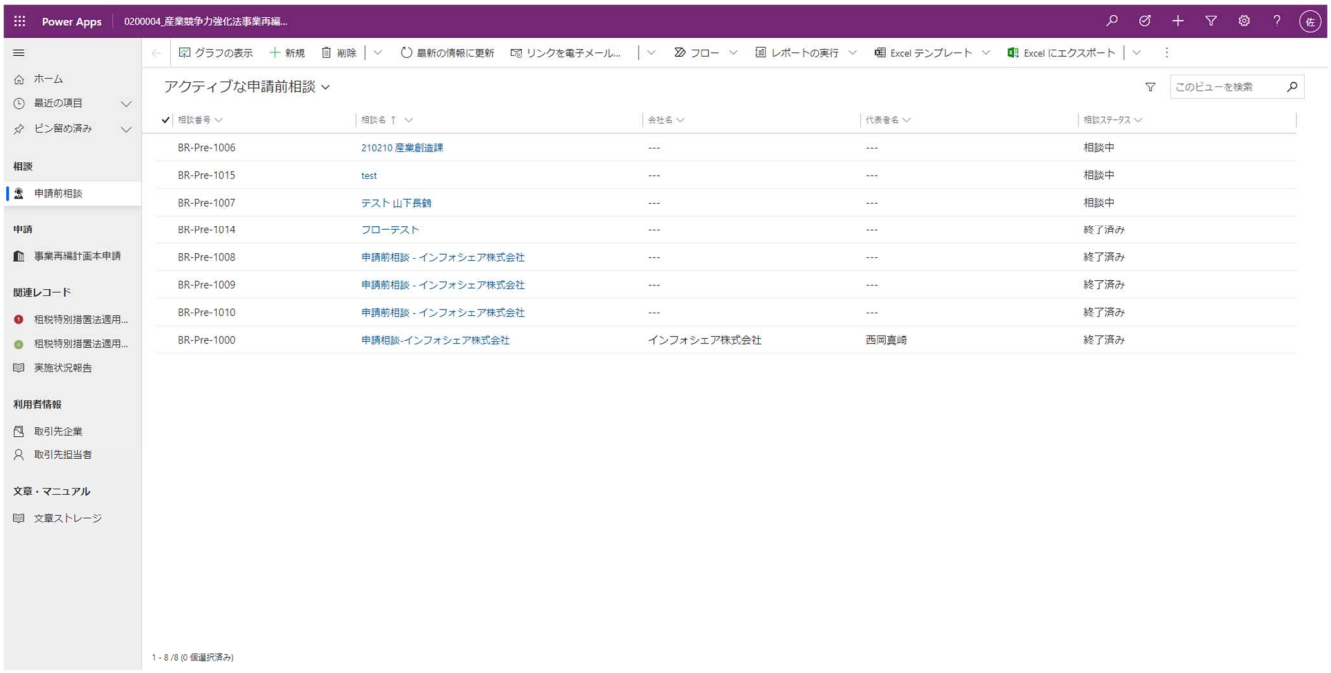
２．事業再編計画（産業競争力強化法）

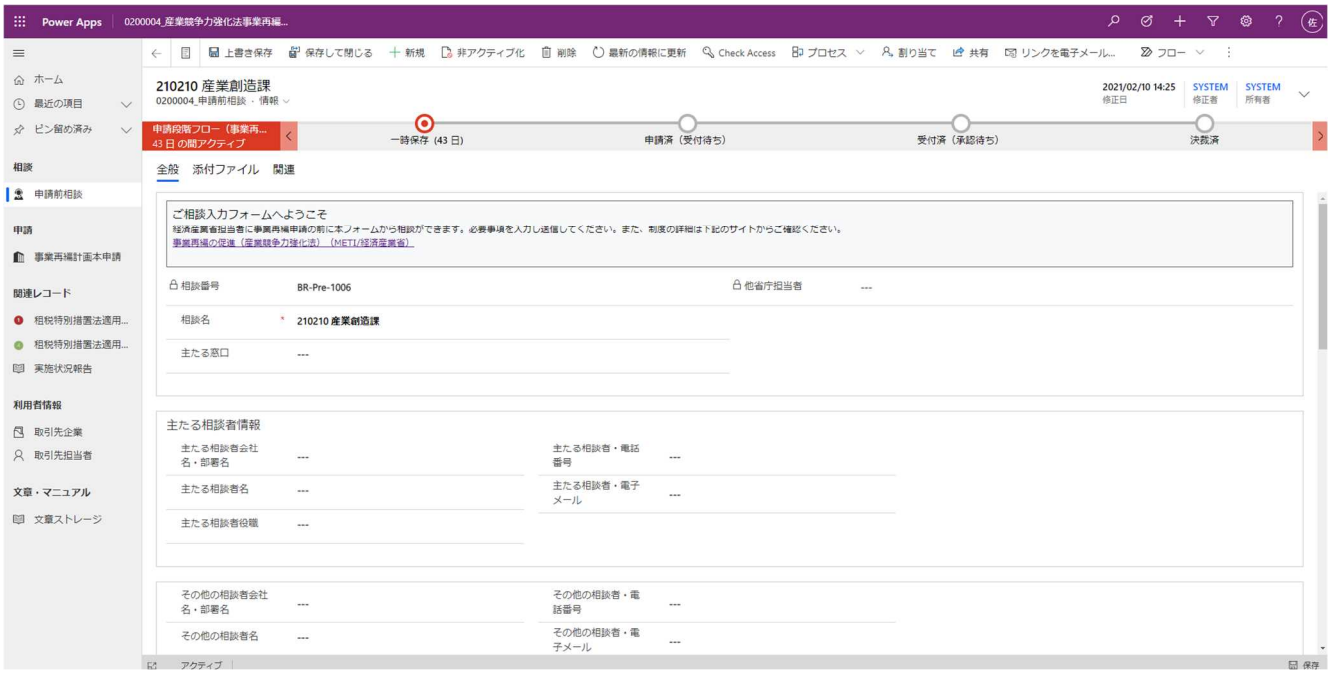


ポータル画面（一部）

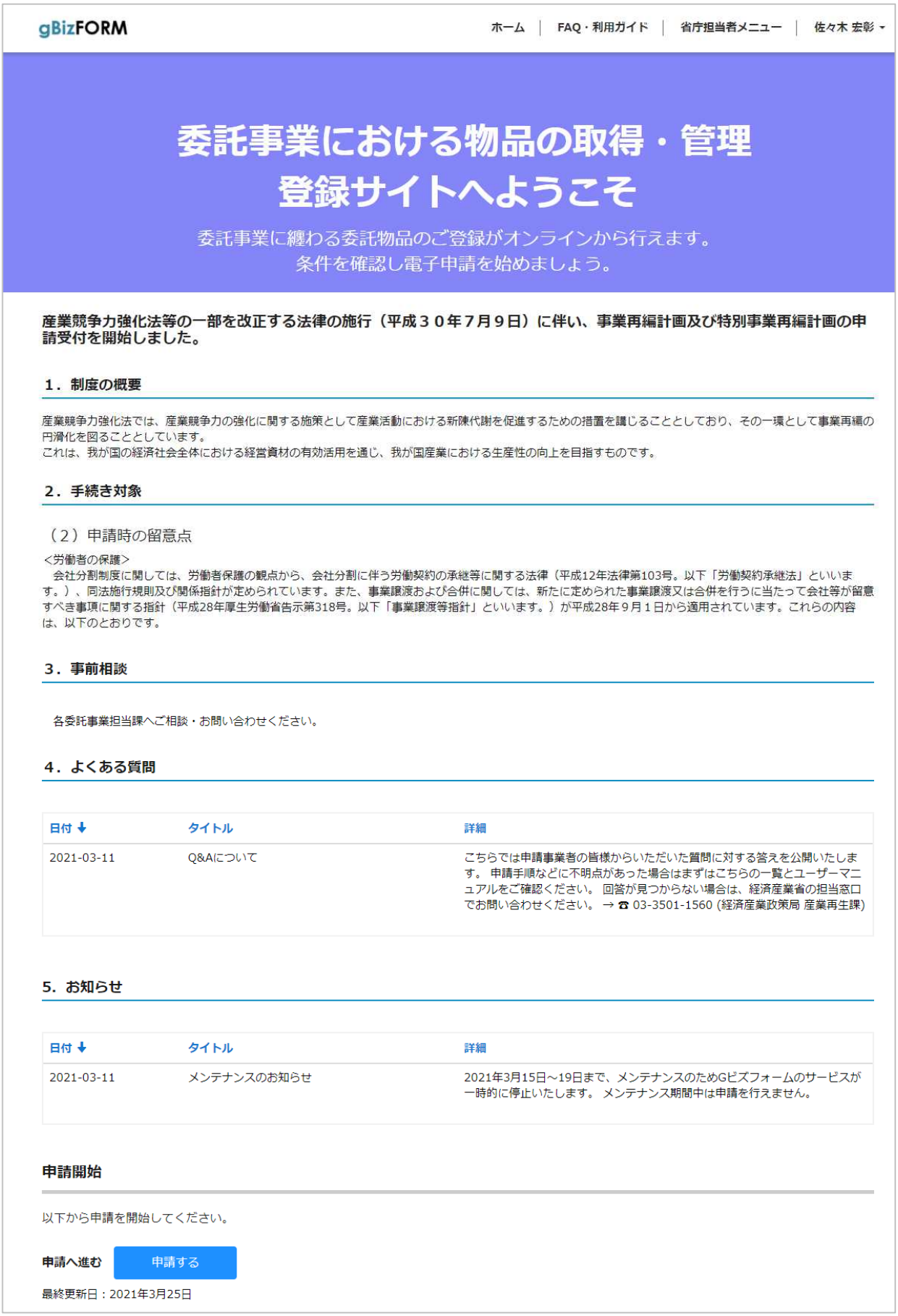
gBizFORM
ホーム | FAQ・利用ガイド | 省庁担当者メニュー | 佐々木 宏彰
ホーム > 事業再編計画ホーム > 事業再編計画 窓口 > 事業再編計画　申請一覧 > 本申請（新規フォーム）
本申請（新規フォーム）
申請情報
申請番号
—
申請ステータス
—
申請名（記入例：事業再編計画認定申請 - ○○○○株式会社） *
申請日
申請会社名
代表取締役社長名
申請会社住所
申請者名
※申請に関する通知などの連絡先として使用されます。
申請者メールアドレス
※申請に関する通知などの連絡先として使用されます。
申請先大臣名
記入例：経済産業大臣　梶山弘志　※複数名記入する場合は改行すること。
1．事業再編の目標
(1)事業再編に係る事業の目標
(2)生産性及び財務内容の健全性の向上を示す数値目標

フォーム画面（一部）


Power Apps
0200004_産業競争力強化法事業再編...
グラフの表示
新規
削除
最新の情報に更新
リンクを電子メール...
フロー
レポートの実行
Excel テンプレート
Excel にエクスポート
ホーム
最近の項目
ピン留め済み
相談
申請前相談
申請
事業再編計画本申請
関連レコード
租税特別措置法適用...
租税特別措置法適用...
実施状況報告
利用者情報
取引先企業
取引先担当者
文章・マニュアル
文章ストレージ
アクティブな申請前相談
このビューを検索
相談番号
相談名
会社名
代表者名
相談ステータス
BR-Pre-1006 210210 産業創造課 --- --- 相談中
BR-Pre-1015 test --- --- 相談中
BR-Pre-1007 テスト 山下長鶴 --- --- 相談中
BR-Pre-1014 フローテスト --- --- 終了済み
BR-Pre-1008 申請前相談 - インフォシェア株式会社 --- --- 終了済み
BR-Pre-1009 申請前相談 - インフォシェア株式会社 --- --- 終了済み
BR-Pre-1010 申請前相談 - インフォシェア株式会社 --- --- 終了済み
BR-Pre-1000 申請相談-インフォシェア株式会社 インフォシェア株式会社 西岡真崎 終了済み
1 - 8 /8 (0 個選択済み)


Power Apps
0200004_産業競争力強化法事業再編...
上書き保存
保存して閉じる
新規
非アクティブ化
削除
最新の情報に更新
Check Access
プロセス
割り当て
共有
リンクを電子メール...
フロー
210210 産業創造課
0200004_申請前相談 · 情報
2021/02/10 14:25
修正日
SYSTEM
修正者
SYSTEM
所有者
申請段階フロー（事業再...
43 日の間アクティブ
一時保存 (43 日)
申請済（受付待ち）
受付済（承認待ち）
決裁済
全般
添付ファイル
関連
ご相談入力フォームへようこそ
経済産業省担当者に事業再編申請の前に本フォームから相談ができます。必要事項を入力し送信してください。また、制度の詳細は下記のサイトからご確認ください。
事業再編の促進（産業競争力強化法）（METI/経済産業省）
相談番号
BR-Pre-1006
他省庁担当者
相談名
210210 産業創造課
主たる窓口
主たる相談者情報
主たる相談者会社名・部署名
主たる相談者・電話番号
主たる相談者名
主たる相談者・電子メール
主たる相談者役職
その他の相談者会社名・部署名
その他の相談者・電話番号
その他の相談者名
その他の相談者・電子メール
アクティブ
保存

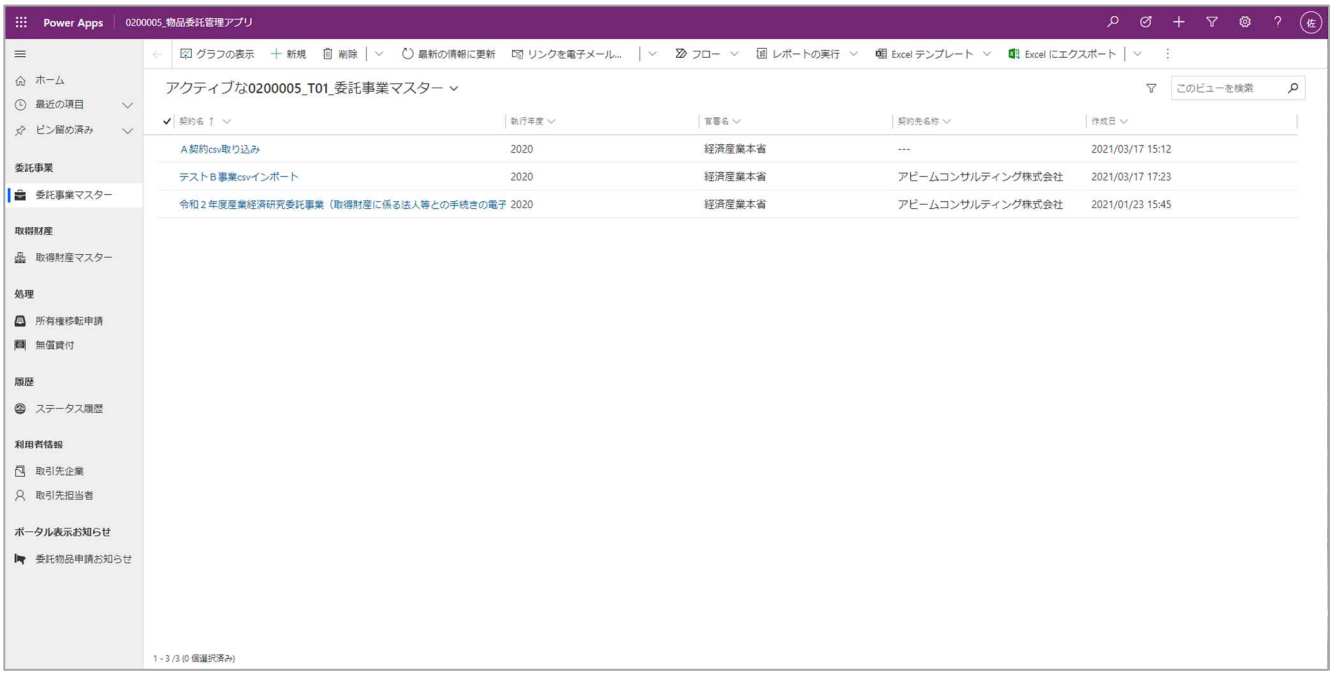
モデル駆動アプリ画面

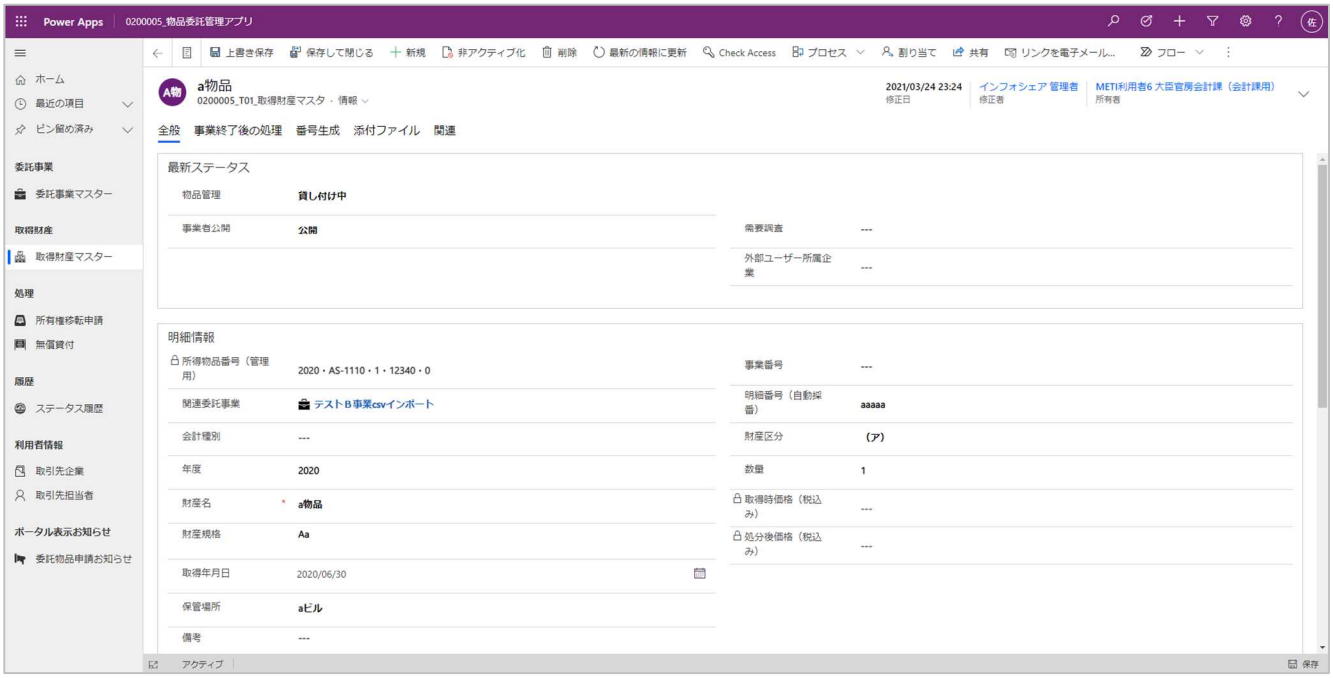

gBizFORM
ホーム | FAQ・利用ガイド | 省庁担当者メニュー | 佐々木 宏彰
委託事業における物品の取得・管理
登録サイトへようこそ
委託事業に纏わる委託物品のご登録がオンラインから行えます。
条件を確認し電子申請を始めましょう。
産業競争力強化法等の一部を改正する法律の施行（平成３０年７月９日）に伴い、事業再編計画及び特別事業再編計画の申請受付を開始しました。
1．制度の概要
産業競争力強化法では、産業競争力の強化に関する施策として産業活動における新陳代謝を促進するための措置を講じることとしており、その一環として事業再編の円滑化を図ることとしています。
これは、我が国の経済社会全体における経営資材の有効活用を通じ、我が国産業における生産性の向上を目指すものです。
2．手続き対象
（2）申請時の留意点
<労働者の保護>
会社分割制度に関しては、労働者保護の観点から、会社分割に伴う労働契約の承継等に関する法律（平成12年法律第103号。以下「労働契約承継法」といいます。）、同法施行規則及び関係指針が定められています。また、事業譲渡および合併に関しては、新たに定められた事業譲渡又は合併を行うに当たって会社等が留意すべき事項に関する指針（平成28年厚生労働省告示第318号。以下「事業譲渡等指針」といいます。）が平成28年９月１日から適用されています。これらの内容は、以下のとおりです。
3．事前相談
各委託事業担当課へご相談・お問い合わせください。
4．よくある質問
日付
タイトル
詳細
2021-03-11
Q&Aについて
こちらでは申請事業者の皆様からいただいた質問に対する答えを公開いたします。 申請手順などに不明点があった場合はまずはこちらの一覧とユーザーマニュアルをご確認ください。 回答が見つからない場合は、経済産業省の担当窓口でお問い合わせください。 → ☎ 03-3501-1560 (経済産業政策局 産業再生課)
5．お知らせ
日付
タイトル
詳細
2021-03-11
メンテナンスのお知らせ
2021年3月15日～19日まで、メンテナンスのためGビズフォームのサービスが一時的に停止いたします。 メンテナンス期間中は申請を行えません。
申請開始
以下から申請を開始してください。
申請へ進む
申請する
最終更新日：2021年3月25日

ポータル画面

gBizFORM
ホーム
FAQ・利用ガイド
省庁担当者メニュー
佐々木 宏彰
ホーム > 物品委託管理ホーム > 委託事業一覧 > 物品委託管理　取得財産新規フォーム
物品委託管理　取得財産新規フォーム
移転申請番号
取得財産番号
—
関連委託事業
—
区分
規格
財産名 *
数量
関連所有権申請
単価（税込み）
全額（税込み）
取得年月日
事業者名
事業者連絡先（担当者・電話）
保管場所
備考
最新ステータス
最終更新日
—
文章番号
担当部局課室名

フォーム画面（一部）


Power Apps
0200005_物品委託管理アプリ
ホーム
最近の項目
ピン留め済み
委託事業
委託事業マスター
取得財産
取得財産マスター
処理
所有権移転申請
無償貸付
履歴
ステータス履歴
利用者情報
取引先企業
取引先担当者
ポータル表示お知らせ
委託物品申請お知らせ
グラフの表示
新規
削除
最新の情報に更新
リンクを電子メール...
フロー
レポートの実行
Excel テンプレート
Excel にエクスポート
アクティブな0200005_T01_委託事業マスター
このビューを検索
契約名
執行年度
官署名
契約先名称
作成日
A契約csv取り込み 2020 経済産業本省 --- 2021/03/17 15:12
テストB事業csvインポート 2020 経済産業本省 アビームコンサルティング株式会社 2021/03/17 17:23
令和２年度産業経済研究委託事業（取得財産に係る法人等との手続きの電子 2020 経済産業本省 アビームコンサルティング株式会社 2021/01/23 15:45
1 - 3 /3 (0 個選択済み)


Power Apps
0200005_物品委託管理アプリ
上書き保存
保存して閉じる
新規
非アクティブ化
削除
最新の情報に更新
Check Access
プロセス
割り当て
共有
リンクを電子メール...
フロー
a物品
0200005_T01_取得財産マスタ · 情報
2021/03/24 23:24
修正日
インフォシェア 管理者
修正者
METI利用者6 大臣官房会計課（会計課用）
所有者
全般
事業終了後の処理
番号生成
添付ファイル
関連
最新ステータス
物品管理 貸し付け中
事業者公開 公開
需要調査 ---
外部ユーザー所属企業 ---
明細情報
所得物品番号（管理用） 2020・AS-1110・1・12340・0
関連委託事業 テストB事業csvインポート
会計種別 ---
年度 2020
財産名 a物品
財産規格 Aa
取得年月日 2020/06/30
保管場所 aビル
備考 ---
事業番号 ---
明細番号（自動採番） aaaaa
財産区分 (ア)
数量 1
取得時価格（税込み） ---
処分後価格（税込み） ---
アクティブ
保存

モデル駆動アプリ画面

４．遺留分に関する民法の特例（経営承継円滑化法）認定申請

gBizFORM　ホーム | FAQ・利用ガイド | 省庁担当者メニュー | 佐々木 宏彰

遺留分に関する民法の特例
経営承継円滑化法の認定申請サイトへようこそ

遺留分に関する民法の特例措置を受けるための申請がオンラインから行えます。
条件を確認し、電子申請を始めましょう。

中小企業の事業承継を総合的に支援する「中小企業における経営の承継の円滑化に関する法律」(経営承継円滑化法)においては、遺留分に関する民法の特例、事業承継資金等を確保するための金融支援や事業承継に伴う税負担の軽減(事業承継税制)の前提となる認定が盛り込まれています。

経営承継円滑化法の認定を受けると・・・

経営承継円滑化法においては以下の支援を措置しています。

(1)　税制支援(贈与税・相続税の納税猶予及び免除制度)の前提となる認定
(2)　金融支援(中小企業信用保険法の特例、日本政策金融公庫法等の特例)の前提となる認定
(3)　遺留分に関する民法の特例

(1)税制支援、(2)金融支援については各都道府県において認定を行っています。
(3)遺留分に関する民法の特例については中小企業庁において確認を行っています。

- 経営承継円滑化法の概要 (PDF形式：290KB)

【関連条文】
- 中小企業における経営の承継の円滑化に関する法律(PDF形式：199KB) (令和2年1月17日更新)
- 中小企業における経営の承継の円滑化に関する法律施行令(PDF形式：107KB) (令和2年1月17日更新)
- 中小企業における経営の承継の円滑化に関する法律施行規則(PDF形式：958KB) (令和2年1月17日更新)

遺留分に関する民法の特例

後継者が、遺留分権利者全員との合意及び所要の手続を経ることを前提に、以下の遺留分に関する民法の特例の適用を受けることができます。

遺留分に関する民法の特例について

- 遺遺留分に関する民法特例のポイント(会社向け)(PDF形式:569KB) (令和3年2月26日更新)
- 遺留分に関する民法特例のポイント(個人事業者向け)(PDF形式:590KB) (令和3年2月26日更新)

遺留分に関する民法の特例の概要

事業承継を円滑に行うための遺留分に関する民法の特例
(PDF形式:1,295KB) (令和3年2月26日更新)

お問い合せ先

経済産業省　中小企業庁　事業環境部　財務課
◆住所　〒100-8912 東京都千代田区霞が関１丁目３番１号
◆電話　03-3510-1511（代表）
　　03-3501-5803（直通）

※まずはご不明な点があればお気軽にご相談ください。
※公表している認定計画の個別の内容については、直接各々の担当課へお問い合わせください。

申請開始

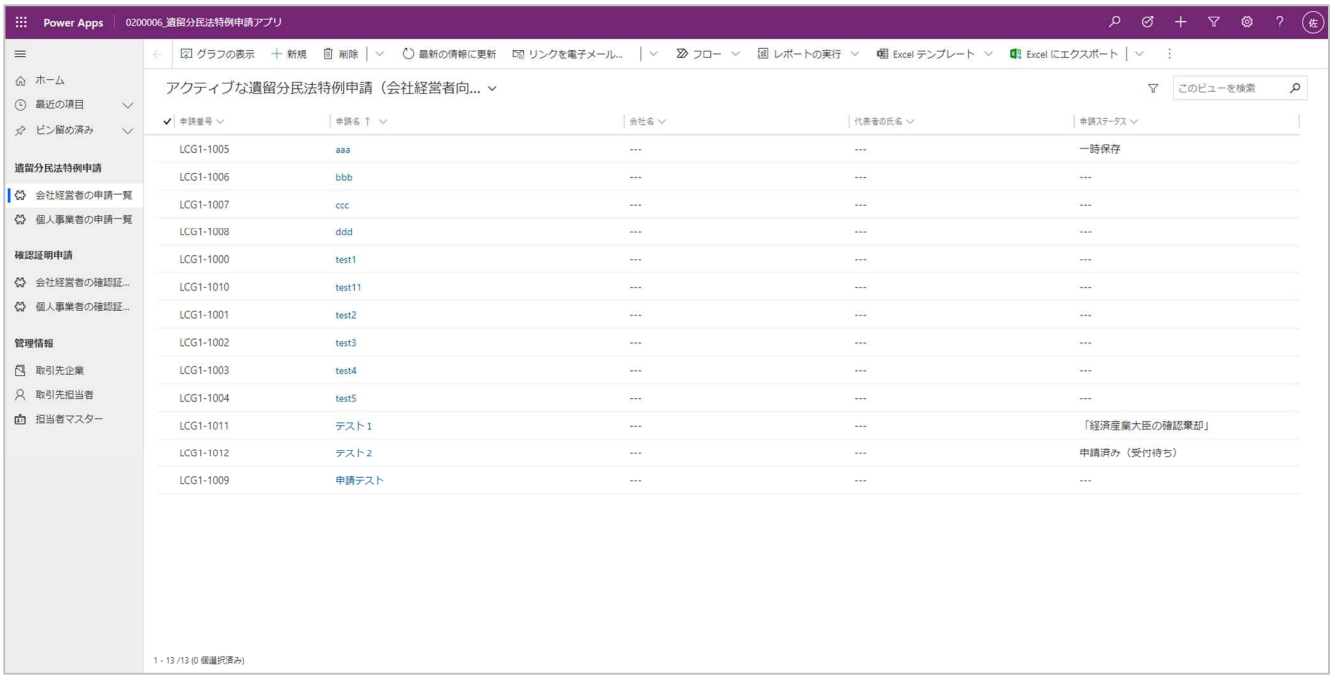
以下から申請を開始してください。

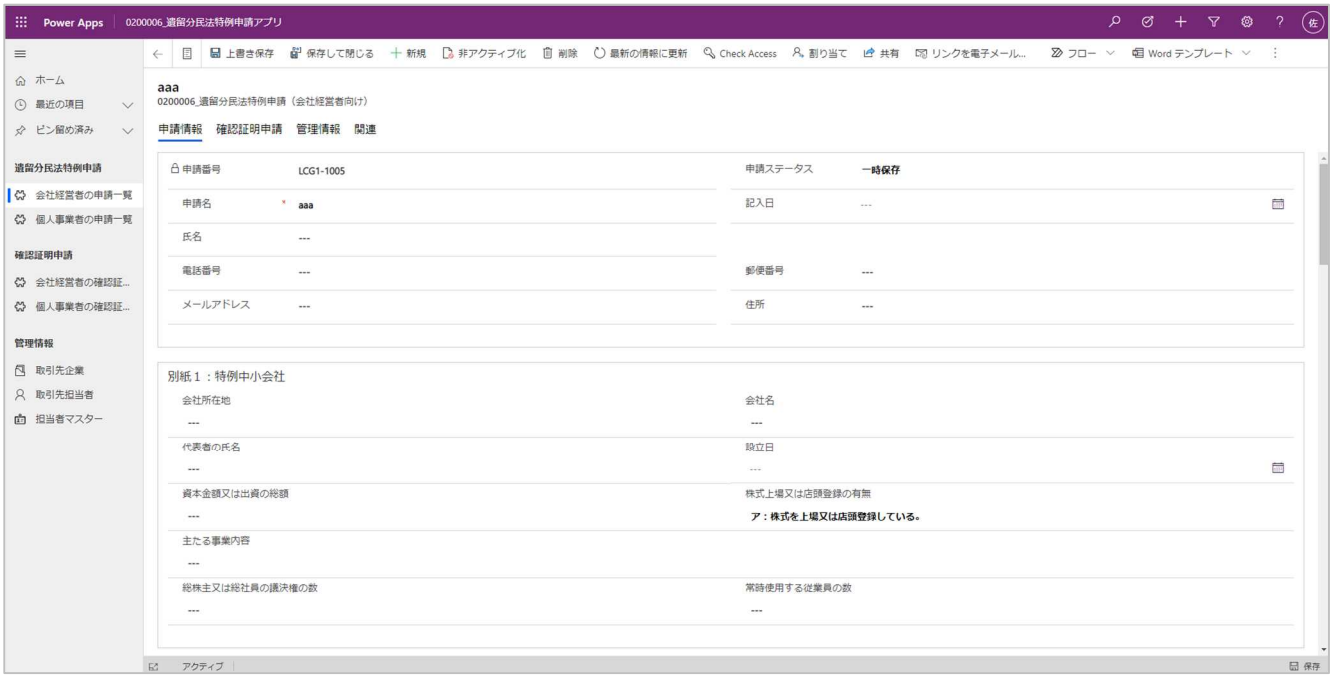
申請へ進む　申請する

ポータル画面

gBizFORM
ホーム | FAQ・利用ガイド | 省庁担当者メニュー | 佐々木 宏彰
ホーム ＞ 遺留分に関する民法の特例ホーム ＞ 遺留分に関する民法の特例窓口 ＞ 遺留分に関する民法の特例 会社経営者向け一覧
＞ 遺留分に関する民法の特例申請　新規フォーム
遺留分に関する民法の特例申請　新規フォーム
申請情報
申請番号
—
申請ステータス
—
申請名（例：遺留分に関する民法の特例申請 - ○○株式会社[企業名]） *
記入日
氏名
電話番号
郵便番号
メールアドレス
住所
別紙１：特例中小会社
会社所在地
会社名
代表者の氏名
設立日
資本金額又は出資の総額
株式上場又は店頭登録の有無
ア：株式を上場又は店頭登録している。
主たる事業内容
総株主又は総社員の議決権の数
常時使用する従業員の数
別紙１：旧代表者
氏名
住所
代表権の有無
○ あり ◉ なし
退任日（代表権の有無が「なし」のとき記入）
別紙１：会社事業後継者
氏名
住所
電話番号
旧代表者との続柄
保有議決権数及び割合
合意の対象とした株式等を除いた保有議決権数及び割合

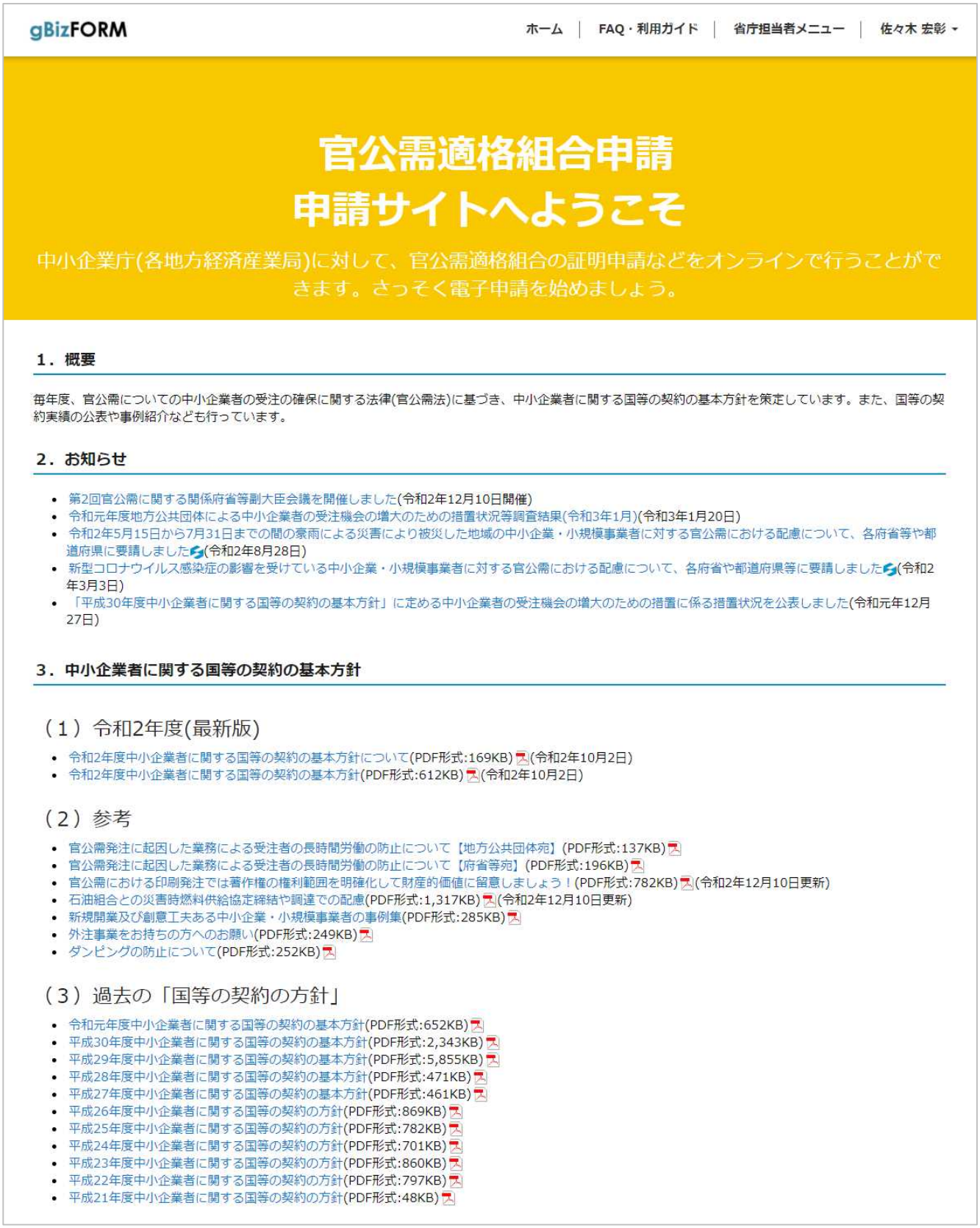
フォーム画面（一部）


Power Apps
0200006_遺留分民法特例申請アプリ
ホーム
最近の項目
ピン留め済み
遺留分民法特例申請
会社経営者の申請一覧
個人事業者の申請一覧
確認証明申請
会社経営者の確認証...
個人事業者の確認証...
管理情報
取引先企業
取引先担当者
担当者マスター
グラフの表示
新規
削除
最新の情報に更新
リンクを電子メール...
フロー
レポートの実行
Excel テンプレート
Excel にエクスポート
アクティブな遺留分民法特例申請（会社経営者向...
このビューを検索
申請番号
申請名
会社名
代表者の氏名
申請ステータス
LCG1-1005 aaa --- --- 一時保存
LCG1-1006 bbb --- --- ---
LCG1-1007 ccc --- --- ---
LCG1-1008 ddd --- --- ---
LCG1-1000 test1 --- --- ---
LCG1-1010 test11 --- --- ---
LCG1-1001 test2 --- --- ---
LCG1-1002 test3 --- --- ---
LCG1-1003 test4 --- --- ---
LCG1-1004 test5 --- --- ---
LCG1-1011 テスト1 --- --- 「経済産業大臣の確認業却」
LCG1-1012 テスト2 --- --- 申請済み（受付待ち）
LCG1-1009 申請テスト --- --- ---
1 - 13 /13 (0 個選択済み)


Power Apps
0200006_遺留分民法特例申請アプリ
上書き保存
保存して閉じる
新規
非アクティブ化
削除
最新の情報に更新
Check Access
割り当て
共有
リンクを電子メール...
フロー
Word テンプレート
aaa
0200006_遺留分民法特例申請（会社経営者向け）
申請情報
確認証明申請
管理情報
関連
申請番号 LCG1-1005
申請ステータス 一時保存
申請名 aaa
記入日
氏名
電話番号
郵便番号
メールアドレス
住所
別紙１：特例中小会社
会社所在地
会社名
代表者の氏名
設立日
資本金額又は出資の総額
株式上場又は店頭登録の有無
ア：株式を上場又は店頭登録している。
主たる事業内容
総株主又は総社員の議決権の数
常時使用する従業員の数
アクティブ
保存

モデル駆動アプリ画面

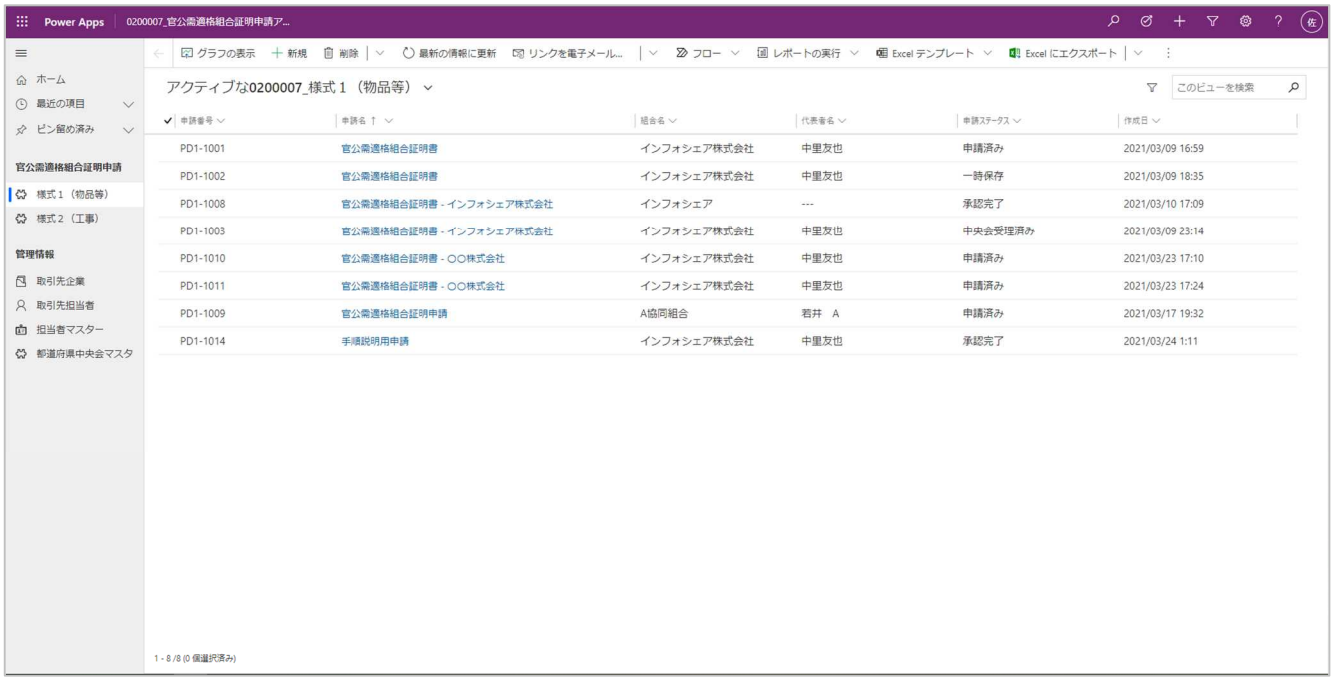
5．官公需適格組合申請

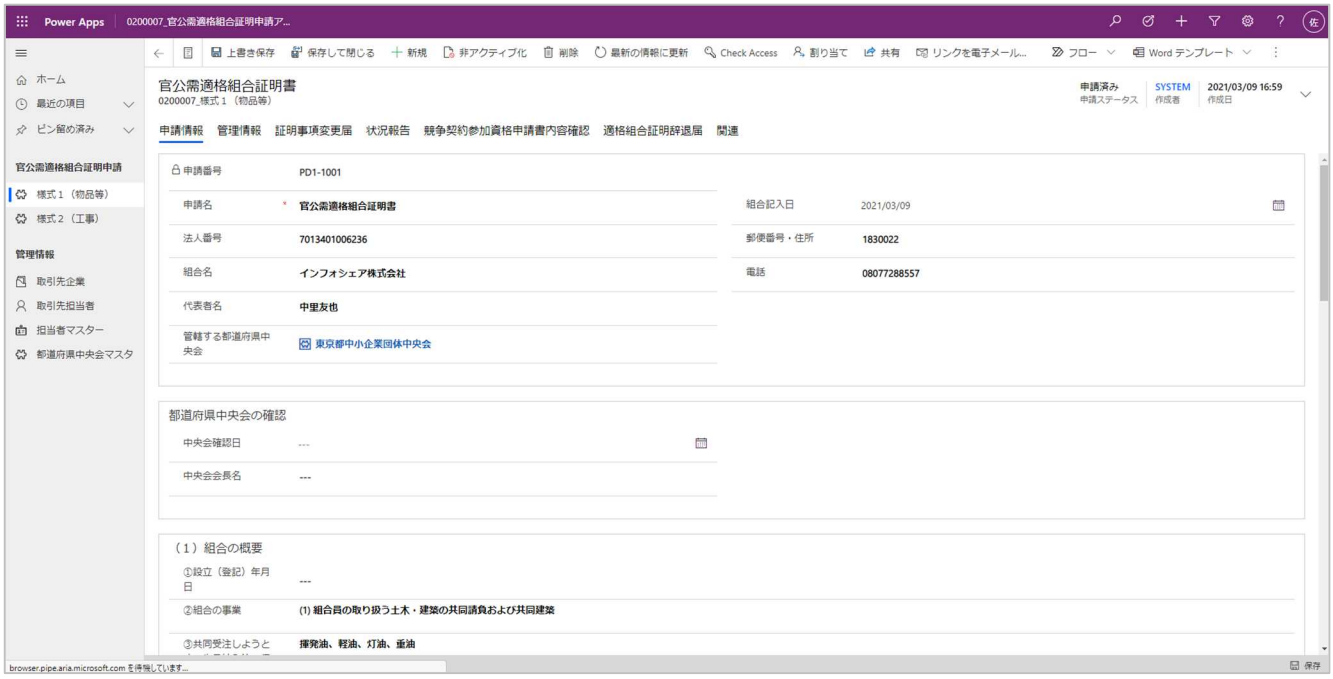


ポータル画面（一部）

gBizFORM
ホーム | FAQ・利用ガイド | 省庁担当者メニュー | 佐々木 宏彰
ホーム > 官公需適格組合申請ホーム > 官公需適格組合申請窓口 > 官公需適格組合申請組合一覧 > 官公需適格組合証明申請書 新規フォーム（組合向け）
官公需適格組合証明申請書 新規フォーム（組合向け）
申請情報
申請番号
—
申請ステータス
—
申請名 *
官公需適格組合証明書 - ○○株式会社
組合記入日
法人番号
郵便番号・住所
組合名
電話
代表者名
管轄する都道府県中央会
都道府県中央会の確認
中央会確認日
—
中央会会長名
—
（1）組合の概要
①設立（登記）年月日
②組合の事業
③共同受注しようとする物品納入等の種類
④組合の地区
⑤第1回官公需適格組合証明取得年月日
⑥組合員の資格、組合員数及び理事数

フォーム画面（一部）


Power Apps
0200007_官公需適格組合証明申請ア...
ホーム
最近の項目
ピン留め済み
官公需適格組合証明申請
様式１（物品等）
様式２（工事）
管理情報
取引先企業
取引先担当者
担当者マスター
都道府県中央会マスタ
グラフの表示
新規
削除
最新の情報に更新
リンクを電子メール...
フロー
レポートの実行
Excel テンプレート
Excel にエクスポート
アクティブな0200007_様式１（物品等）
このビューを検索
申請番号
申請名
組合名
代表者名
申請ステータス
作成日
PD1-1001 官公需適格組合証明書 インフォシェア株式会社 中里友也 申請済み 2021/03/09 16:59
PD1-1002 官公需適格組合証明書 インフォシェア株式会社 中里友也 一時保存 2021/03/09 18:35
PD1-1008 官公需適格組合証明書 - インフォシェア株式会社 インフォシェア --- 承認完了 2021/03/10 17:09
PD1-1003 官公需適格組合証明書 - インフォシェア株式会社 インフォシェア株式会社 中里友也 中央会受理済み 2021/03/09 23:14
PD1-1010 官公需適格組合証明書 - ○○株式会社 インフォシェア株式会社 中里友也 申請済み 2021/03/23 17:10
PD1-1011 官公需適格組合証明書 - ○○株式会社 インフォシェア株式会社 中里友也 申請済み 2021/03/23 17:24
PD1-1009 官公需適格組合証明申請 A協同組合 若井 A 申請済み 2021/03/17 19:32
PD1-1014 手順説明用申請 インフォシェア株式会社 中里友也 承認完了 2021/03/24 1:11
1 - 8 / 8 (0 個選択済み)


Power Apps
0200007_官公需適格組合証明申請ア...
上書き保存
保存して閉じる
新規
非アクティブ化
削除
最新の情報に更新
Check Access
割り当て
共有
リンクを電子メール...
フロー
Word テンプレート
官公需適格組合証明書
0200007_様式１（物品等）
申請済み
申請ステータス
SYSTEM
作成者
2021/03/09 16:59
作成日
申請情報
管理情報
証明事項変更届
状況報告
競争契約参加資格申請書内容確認
適格組合証明辞退届
関連
申請番号 PD1-1001
申請名 官公需適格組合証明書
法人番号 7013401006236
組合名 インフォシェア株式会社
代表者名 中里友也
管轄する都道府県中央会 東京都中小企業団体中央会
組合記入日 2021/03/09
郵便番号・住所 1830022
電話 08077288557
都道府県中央会の確認
中央会確認日 ---
中央会会長名 ---
（１）組合の概要
①設立（登記）年月日 ---
②組合の事業 (1) 組合員の取り扱う土木・建築の共同請負および共同建築
③共同受注しようと 揮発油、軽油、灯油、重油
保存

モデル駆動アプリ画面

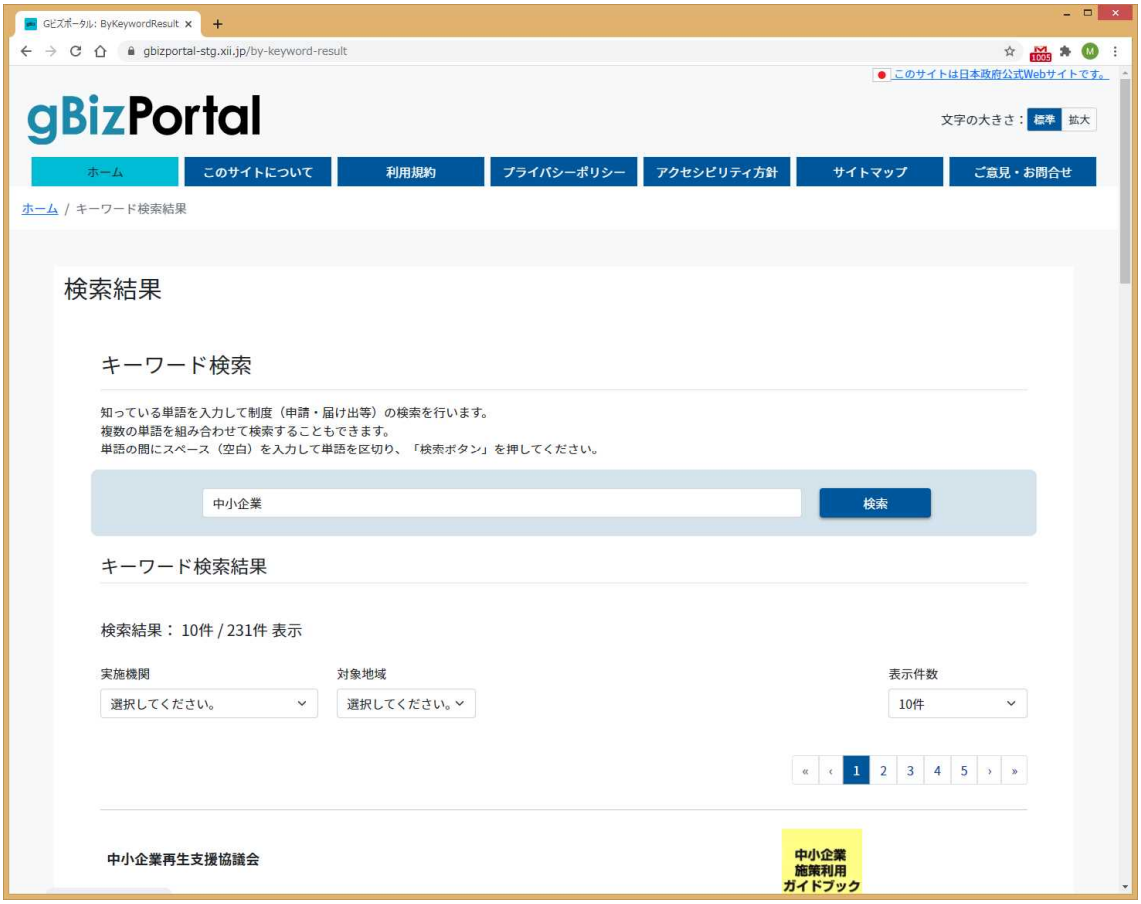
Gビズポータル

トップ画面

モバイルトップ画面

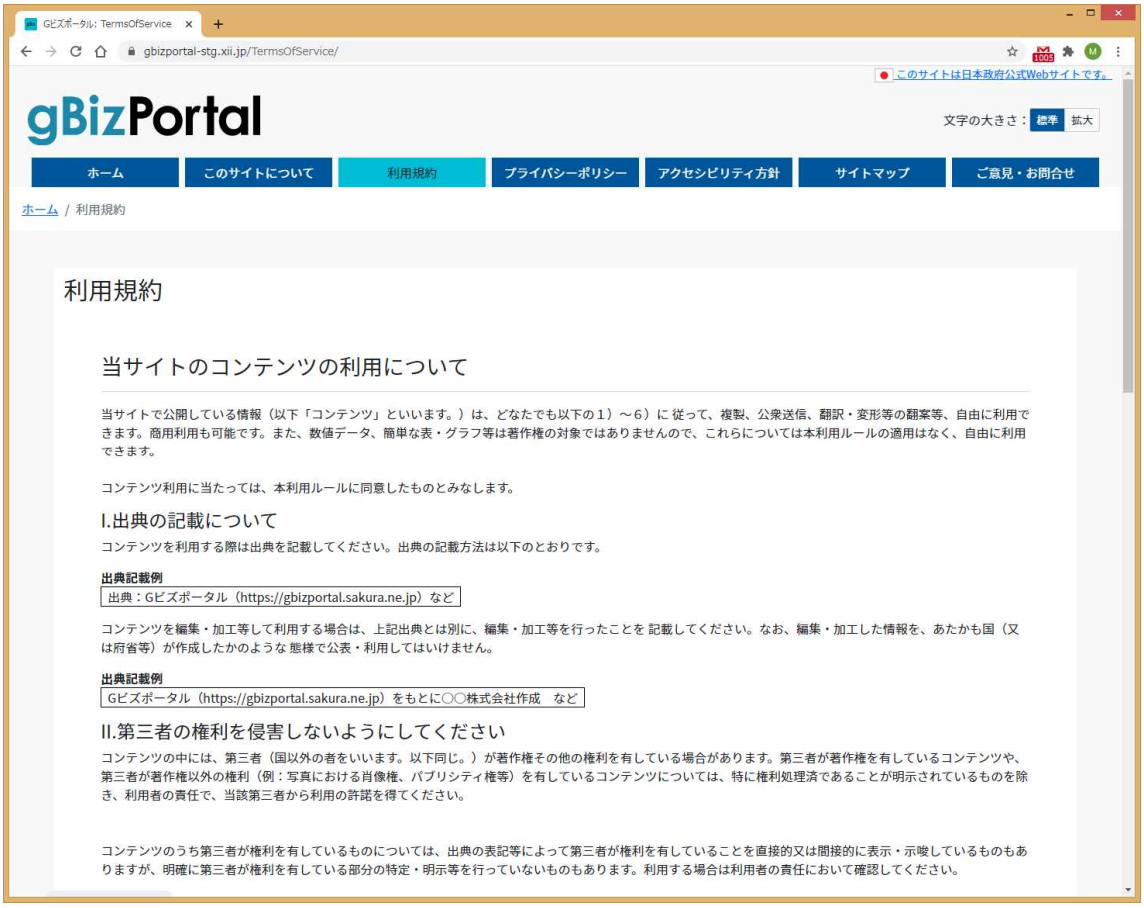
かんたん検索：質問にこたえて探す

かんたん検索：条件を選んで探す



キーワード検索

このサイトについて



利用規約

プライバシーポリシー

アクセシビリティ方針

サイトマップ

ご意見･お問合せ

問い合わせフォーム

以上、成果物に関してのイメージ図を掲載した。Gビズポータル以外は

・ポータル上の説明画面
・申請フォーム
・モデル駆動アプリ（一覧、フォーム）

の構成となっており、基本となる雛形をベースに書く制度への申込みのコンテンツを変更するかたちで新しい申請シナリオを構築する形になっている。
G ビズポータルは、本事業で 0 からスクラッチ開発を行ったポータルのコンセプト評価のためのサイトとなっているため、すべての画面をこの事業のためにデザイン設計を行い、その内容をデザインガイドラインに落とし込みをおこなっている。

8. 調達したライセンスについて

本事業では以下のライセンス調達を行った。3.1 の事業では一部前事業の G ビズフォームのプラットフォームでのライセンスを再利用しつつ、今回の事業用に以下のライセンスを追加購入している。

3.1 事業で追加調達したライセンス

追加購入ライセンス一覧（CSP で購入）

項番	ライセンス内容	数量
1	PowerApps 200 ユーザーアプリライセンス（本番用）	200
2	PowerApps 5 ユーザーライセンス（検証環境用）	5
3	PowerApps ポータル（ログイン回数） (検証環境用 100/本番用追加 100）	2
4	PowerApps ポータル（PV アクセス）（検証環境用）	1
5	Office 365 E1（本番環境用 10）	10

3. 2 事業で調達したライセンス

3.2 の事業では PHP による一般の Web サイトを POC として構築したため以下のライセンスを調達した。

[Web サーバーを運営するためのライセンス]

SAKURA internet ビジネスプロプラン SLA99.99%

https://www.sakura.ne.jp/pro.html

My SQL 対応 転送量 260GB/日 （コンテンツブースト機能あり）

尚、さくらインターネット側の制限により、自社のレンタルサーバーであとから、独自ドメインを適用する場合、既存の独自ドメインの DNS の設定を全部クリアする必要があることがわかり、他のすでに運用しているサイトへの影響が大きすぎる事から、今回さくらインターネットの Web サイトでの独自ドメインの適用を断念した。そのため、当初予定していた以下のライセンスは不要となった。

[SSL 証明書費用]

FUJI SSL

https://www.fujissl.jp/certificate/prelusion/

9．gBizID のレベルによるアクセス可能なエリアの違い

3.1 の Ｇビズフォームのシステムは、gBizID にてログインを行うが、gBizID のレベルによりアクセスできるエリアが限られており、ユーザ（申請者）によってレベル分けがされている。（以下の図は一部のページアクセスレベルと例として図示）

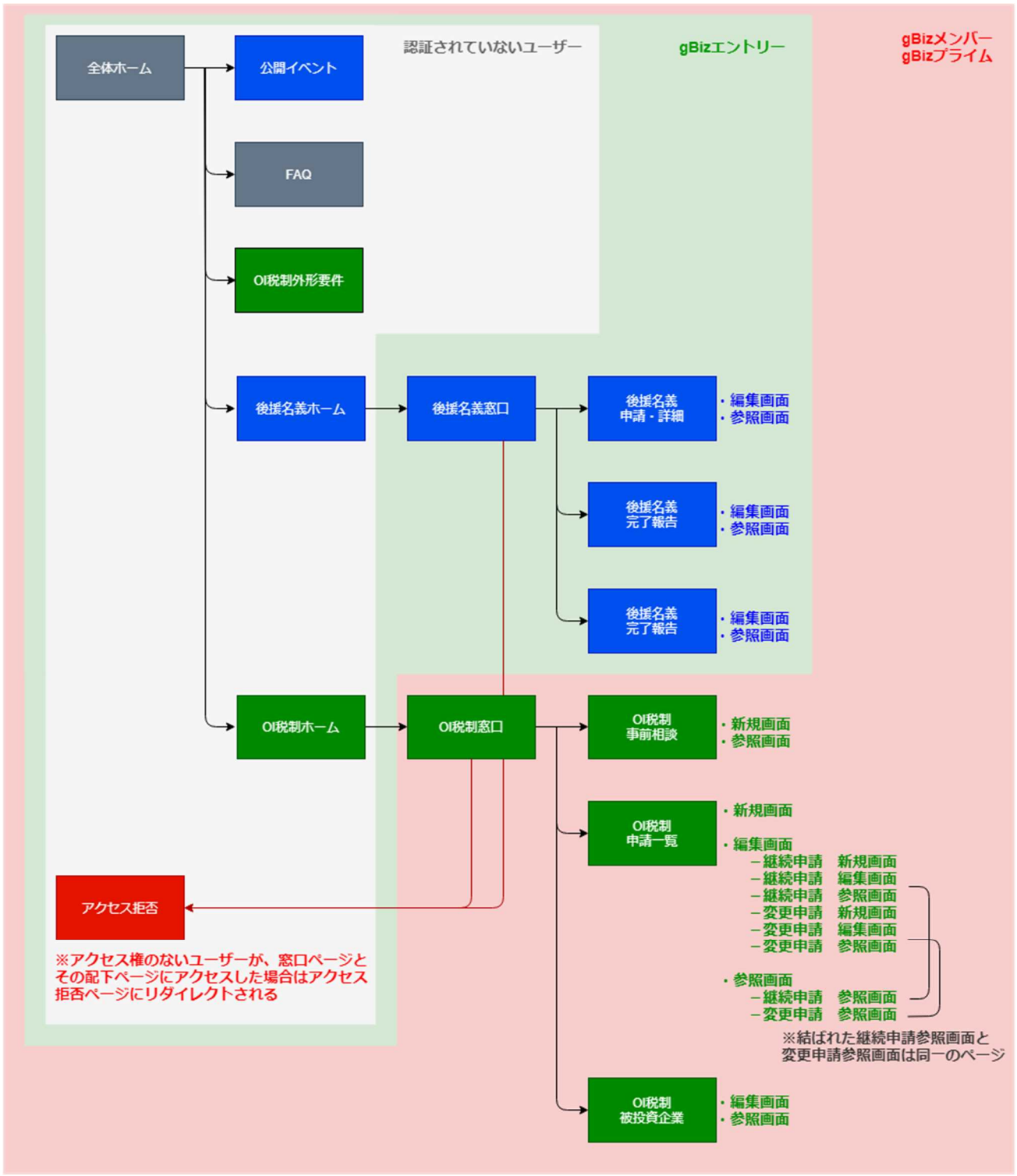


図 6-1.ユーザー（申請者）の gBizID のレベルによるアクセス許可エリアの違い

これにより、アクセス権がないユーザーが窓口ページとその配下ページにアクセスした場合にはアクセス拒否ページリダイレクトされる仕組みとなっており、適切な権限により運用できるよう配慮されている。

１０. プロジェクト実施の管理体制

本プロジェクトは、コロナ禍の中で円滑なプロジェクト運営を行うべく、すべての情報を Microsoft Teams で管理する体制を構築し、プロジェクト運営を実施した。

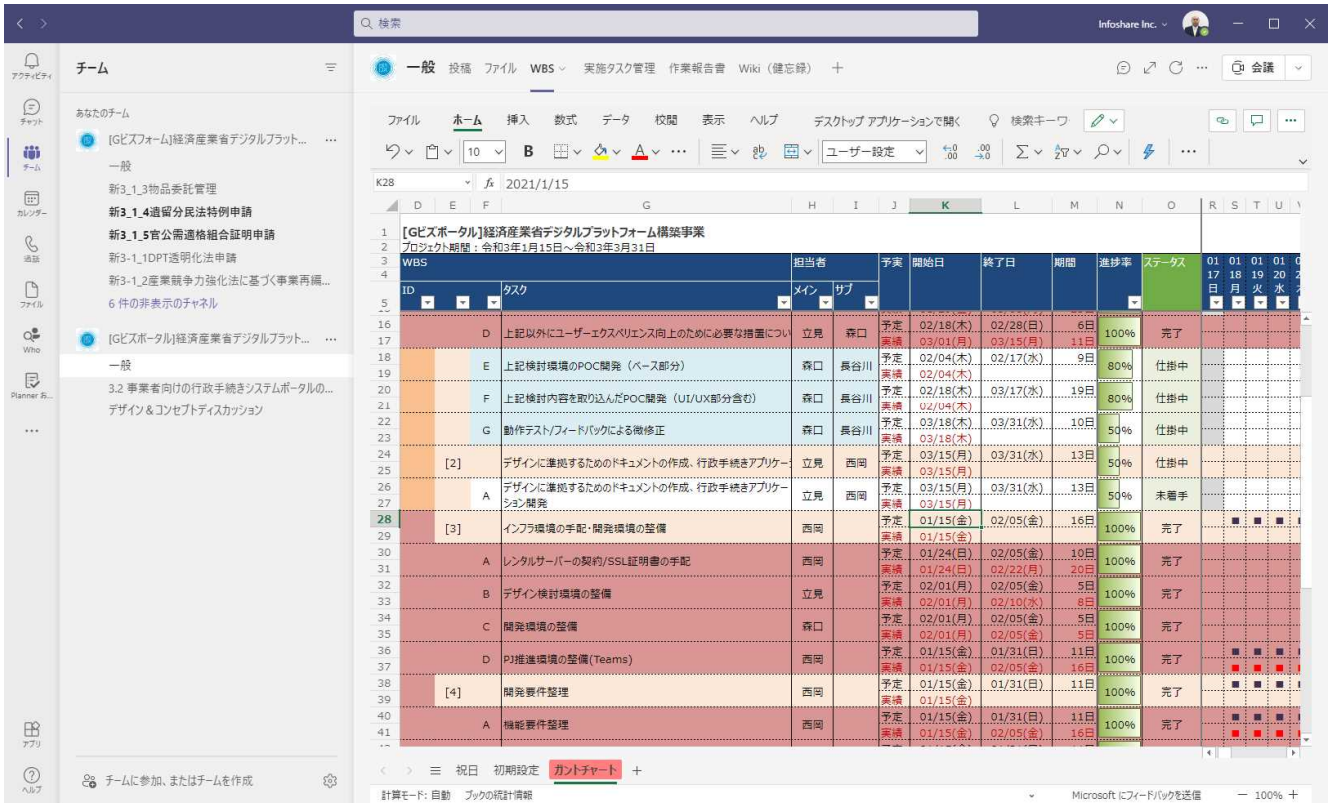


図 7.1 Microsoft Teams でのチームサイトの画面（一部機密内容をマスクしている。）

上記で、

- WBS の管理
- 週次での進捗報告
- 議事録
- 成果物の管理
- 各人へのタスク管理

といったプロジェクト全体の管理を実施しつつ

- 各開発物の課題管理
- アジャイル開発に関連した各種チャットベースでのコミュニケーション
- オンラインでの定期ミーティングの実施

といったリモートでのシステム開発に必要な内容をワンストップで対応できるような環境で、プロジェクト運営を行った。
こちらにより、コロナ禍の状況でも適切なプロジェクト運営が可能になっているほか、プロジェクトに関連した情報の散逸を防ぎ、新しく加入した人員も内容のキャッチアップを容易にすることを実現した。

１１．事業実施完了後の所感

今回実施をおこなった、3.1 から 3.3 の事業を通して、全体的に以下の内容の実現ができた。

3.1 の事業について：

- Ｇビズフォームの基盤を利用し、短期間で複数の申請書が実装できるようになり、プラットフォームの成長にはずみをつけることができ、DX 推進の基盤を整えることができた。
- 制度申請を行うためのサイトは、e-Gov，jGrants 等もあるが、DX での制度申請・届出を行える基盤としては、経済産業省のサイトとしては初めての基盤と考えている。
  前事業、本事業をとおして、PowerPlatform での DX でのアプリ開発基盤を成長させることができ、単独ベンダーおよび関連職員間での制度の電子化の量産体制が確立できた。

しかしながら、本事業で想定していたすべての計画の実施がうまくいったわけではなく、事業実施を通していくつかの課題も感じている。その内容を以下に示す。

課題１．職員すべてがこのサイト上の制度を自身で電子化する事は現段階では難しい

今回の事業で利用している Power Platform の生産性は非常に高く、短期間である程度の複雑性をもった制度も電子化することが可能となっている。しかしながら、IT のリテラシーがあまり高くない職員がすぐに自由につくれるようになっているかというとそうではない。感触としては、最低限の Excel のマクロ（VBA）の構築ができるレベルの IT リテラシーが必要となるため、各職員の要望をうけつけて、申請書をつくる拠点（CoE）をつくり、そこが請け負って作成する仕組みの構築が必要であると感じている。

課題２．現段階の機能セットでは申請書の完全なテンプレート化＆再利用が難しい

これは、Power Platform の現状の機能の問題でもあるが、複数の制度を電子化する場合、今回実施したようにこれまでつくった申請書の成果物の流用はきくものの、開発として流用が効くレベルであり、作成したものの完全なテンプレート化とテンプレートをベースとして簡易な配布に関しては現状実現できるプラットフォームではない。

令和３年の３月段階では、配布のための仕組みが一部構築されつつあるため、時間的に今後解決していく可能性があるが、現段階では申請書をつくる拠点が開発物を管理し、その成果物を知見として新しい制度の電子化に役立てるレベルでの再利用で申請書を増産していく必要がある。

課題３．マルチベンダーでの開発の際にルール作り、仕組みづくりが必要

現状は、インフォシェア株式会社の人員が職員と連携し、Ｇビズフォームのベース部分や各申請書を一手に引き受けて作成をおこなっているが、プラットフォームが拡大していくと、マルチベンダーでの申請書開発になってくることが想定される。

その場合には

- 開発のための検証環境をベンダー毎に設置できるようにする
- 各ベンダーが開発、本番環境に展開した際に、作成したベンダー以外のベンダーが作成した部分を壊さない、動きに影響を与えないようにするためのルールを確立
- ライセンス管理に関しても、各事業で追加したライセンスについての管理体制をどうするかを検討

することになる。

今後本プラットフォームをより成長させるためには、マルチベンダーでの機能拡張が必要となってくるため、今後は申請書の追加を実施しながら、Ｇビズフォームをマルチベンダーでの開発基盤として必要な内容を強化するための事業が必要になってくると考える。

3.2 の事業について：

- ユーザーターゲットを定義しそれにそった検索方式、カテゴリーの定義ができた。
- Gビズシリーズのロゴをはじめ、サイトデザインのガイドラインを作成することができた。
- 短期間でまったく新規のサイトを第一段階の公開レベルまで立ち上げることができた。
- 今回のサイトのコンセプトを確認するための POC としての位置づけの初期段階のサイトを構築することができた。
- サイトの利用状況の分析、データ連携の自動化などのロジックも一部組み込むことができた。

しかしながら、本事業で想定していたすべての計画の実施がうまくいったわけではなく、事業実施を通していくつかの課題も感じている。その内容を以下に示す。

課題４．制度へのリンクや関連情報を自動的に取り込めるようにするためには、各サイトで API 連携ができるようにするための対応が必要となる。

今回の事業では手作業でのデータ入力以外には、制度ナビからのデータの自動取り込みを実装したが、他の候補のサイトでは API がなくデータ取り込みの実装ができなかった。

事例・制度ナビ Data API (外部公開向け)
https://app.swaggerhub.com/apis/JPSMEA/api-search-case-and-assistance-data/3.0

e-GOV、jGrants、gBizForm など制度申請をおこなうためのサイトは、経済産業省、中小企業庁でも複数存在しているため、Gビズポータルでの各サイトのデータの自動取り込みを実現するためには、各サイトでの Data API の整備が必須となってくる。

課題５．今後機能を強化し、ユーザーに公開して情報を収集してサイトを育成していかないとサイトの品質の急激な向上は難しい。

今回は、スクラッチ開発としては３ヶ月弱の開発期間で、サイトコンセプト、ターゲットユーザー、RFI の定義、RFP 化、設計、開発、テスト、デザインガイドラインの作成を実施したため、実質のサイトの開発期間（コーディング/テストの期間）が１ヶ月程度しか実装期間が確保できなかった。そのため、コンセプト定義と RFI＆RFP の作成が同時並行、サイトデザインの定義を実装が同時並行になる形の本来のウォーターフォール開発ではない、アジャイルに近い形でのコーディングを行うことになったため、UI デザイン変更での手戻りなど、開発ロスが大きい形での開発をせざるをえない状況が発生した。
今後は、サイトのユーザービリティの向上、機能向上をめざして開発を行うことになるため、今回のような混乱は発生しないと想定されるが、今後同様の Web サイトをスクラッチ開発する場合には、コンセプト、ターゲットユーザー、RFI を最初に決定する期間を設け、その後に RFP、設計、開発という流れが定義できる期間を設けたほうが高品質なサイトを構築できると考える。

課題６．限定的に公開し、公開後の PDCA を回す部分の定義と運用設計が追加で必要

今回作成したサイトは、サイトのコンセプト、ターゲットユーザーに対しての仮定を行った上でサイトを構築している。
そのため、その仮定が正しいかどうかは今後の利用状況をみながら、情報を集め、サイトを更新していく PDCA をしばらくまわしていく必要がある。今回の事業の範囲ではサイトの構築までであり、運用設計などまで実施できていないため、実際に公開を行う前に、外部公開前の省内職員からの情報収集や内容改善をおこないつつ、運用設計などを行った後で、サイトを公開したほうがよいと考える。

１２. 関連サイト URL

（１） Ｇビズフォーム
https://form.gbiz.go.jp/

（２） ミラサポ Plus（制度ナビ）
https://seido-navi.mirasapo-plus.go.jp/

（３） jGrants
https://www.jgrants-portal.go.jp/

（４） e-Gov
https://www.e-gov.go.jp/

（５） Ｇビズ ID
https://gbiz-id.go.jp/top/

（６） PowerApps Portal
https://powerapps.microsoft.com/ja-jp/portals/

（７） PowerApps
https://powerapps.microsoft.com/ja-jp/

（８） Office 365（Microsoft 365）
https://www.microsoft.com/ja-JP/microsoft-365

（９）METIDX 経済産業省デジタルトランスフォーメーション特設サイト
https://www.meti.go.jp/policy/digital_transformation/index.html

１３. [参考資料 1] デジタルプラットフォーム取引透明化法利用者マニュアル

1. はじめに

この文書は、経済産業省所管のデジタルプラットフォーム取引透明化法上の手続を Ｇ ビズフォームポータルサイト（https://form.gbiz.go.jp ）で行う事業者向けの利用者ガイドです。デジタルプラットフォームにおける取引の透明性と公正性の向上を図るために、「特定デジタルプラットフォームの透明性及び公正性の向上に関する法律」が令和２年５月 27 日に成立し、同年６月３日に公布されました。同法に関連するデジタルプラットフォーム提供者は、このガイドの手順に則り手続を行ってください。手続の対象となるのは下記の条件に当てはまる事業者です。

- 物販総合のオンラインモールを運営する事業者（前年度の国内売上額が 3,000 億円以上）
- アプリストアを運営する事業者（前年度の国内売上額が 2,000 億円以上）

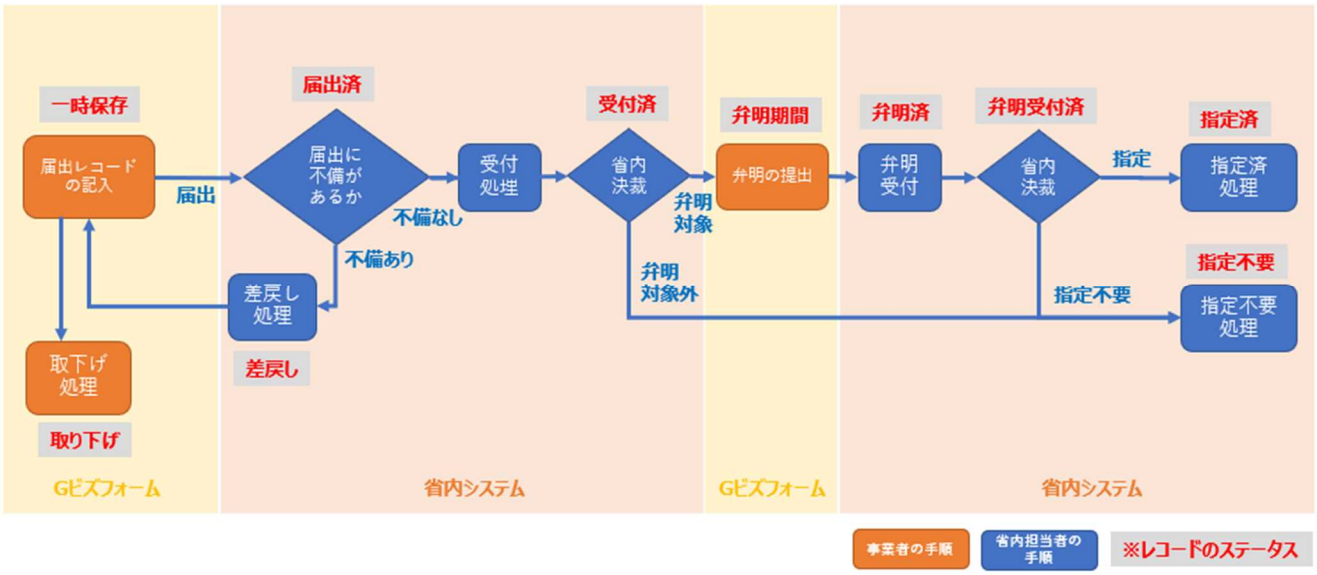
本文書では、Ｇ ビズフォームポータルサイトを使用する上で知っておく必要がある認証方法や操作手順を手続の概要とともにステップバイステップで説明します。

2. 概要

2-1.手続の流れ

手続を開始する前に電話等で省内担当者に連絡を取り、事業者が同法の手続き対象であるかをご相談いただけます。デジタルプラットフォーム取引透明化法の電子手続に進むには Ｇビズ ID を取得し、Gビズフォームポータルサイトにサインインする必要があります。

手続開始から決裁までは下記の流れで行われます。



1. **新規届出の提出**

   事業者はまず、Ｇビズフォームポータルサイトから届出を提出します。提出された届出は経済産業省内システムで受付処理され、決裁へ進みます。決裁の結果、弁明対象外となった場合は、指定不要のステータスとなり、手続きはクローズとなります。

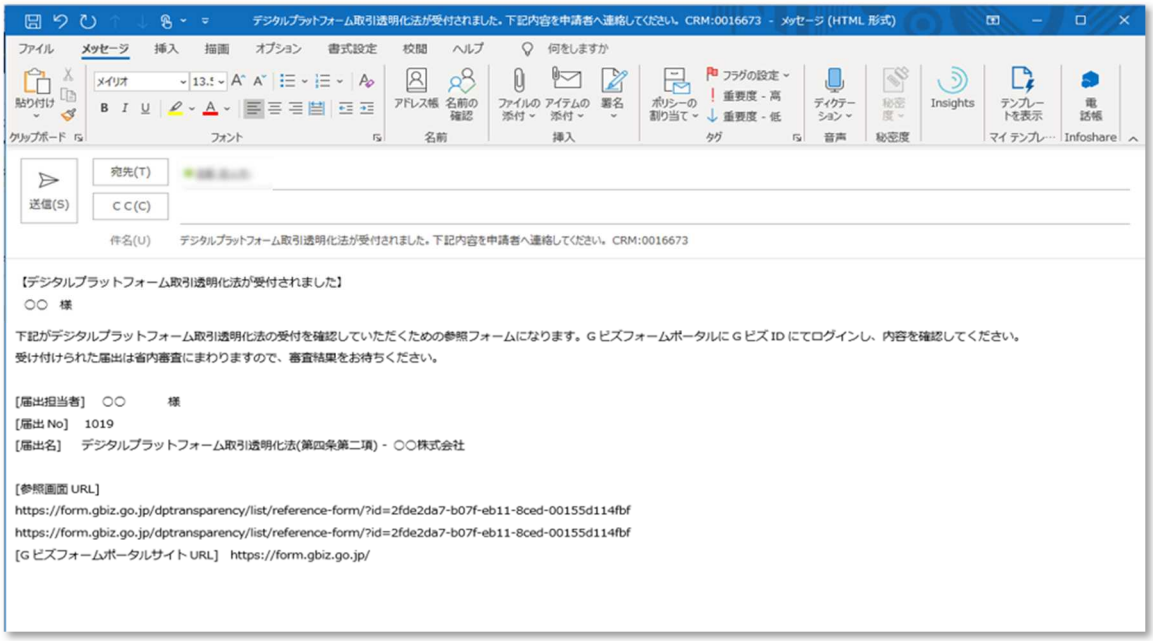
2. **弁明の提出**

   弁明対象とされた場合には、事業者は再度 Ｇビズフォームポータルサイトにアクセスし、届出に係る弁明の提出を行います。提出された弁明は届出と同様に経済産業省内システムで受付処理され、決裁へ進みます。

2-2.事業者への通知

本システムにおける届出では、届出レコードのステータスが多段階に変更されます。届出ステータスが更新されるたびに事業者にメール通知が届きます。また、事業者はいつでもポータル上で届出ステータスを確認でき、届出の処理の進捗を把握することができます。

通知メールの例



<ポータル上のステータス>

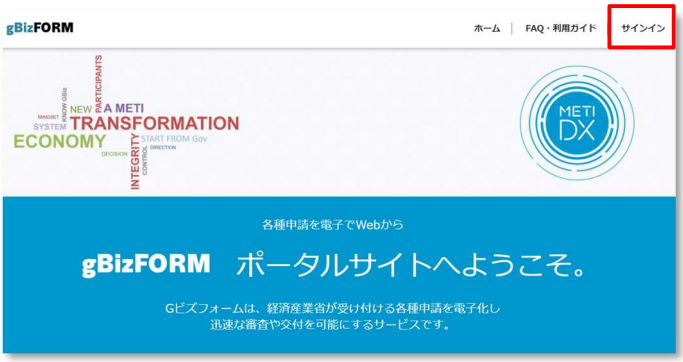
ポータル上での届出レコードでは、ステータス列に下記のいずれかが表示され、届出の処理段階を確認することができます。

一時保存
届出済
受付済
差戻し
弁明期間
弁明済
弁明受付済
指定済
指定不要
取下げ

3. 新規届出の提出

手続の準備が整ったらＧビズフォームポータルサイトにアクセスし、届出を開始します。

1. Ｇビズフォームポータルサイトにアクセスし、Ｇビズ ID でサインインする。（ワンタイムパスワードの入力を求められます。）



2. 「電子申請を開始する」→「デジタルプラットフォーム取引透明化法上の手続」→「手続する」と進み、届出の一覧画面で、「＋作成」をクリックする。

3. 新規フォームを開いたら、届出に必要な項目を入力し、必要なファイルを添付する。

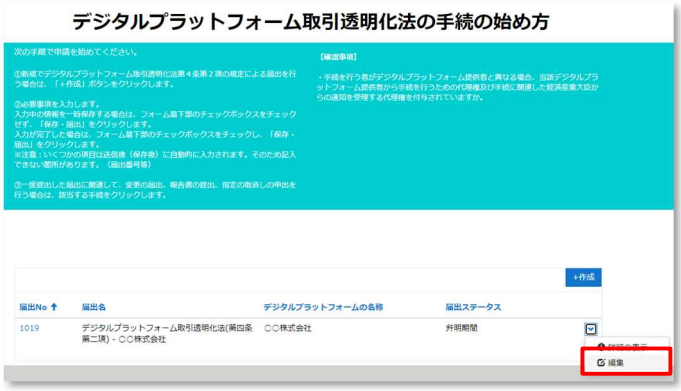
   入力内容を一時保存する場合は、「届出の準備が整いました」のチェックを入れずに「保存・届出」をクリックする。

   届出の準備が整ったら「届出の準備が整いました」にチェックを入れて「保存・届出」をクリックすることで、届出が提出される。

4. 弁明の提出

新規届出が受理され弁明期間に入ったら、Gビズフォームポータルサイトにアクセスし、弁明を提出します。提出する弁明がない場合でも「弁明無し」として届出の必要があるのでご注意ください。弁明の提出後の決裁で指定済となったら手続きは完了です。

1. 「電子申請を開始する」→「デジタルプラットフォーム取引透明化法上の手続」→「手続する」と進み、届出の一覧画面で、提出済みの届出のステータスが「弁明期間」になっていることを確認する。「V」を開き、「編集」をクリックする。



2. 編集フォームを開いたら、「弁明の届出」のタブを開く。届出に必要な項目を入力し、必要なファイルを添付する。

3. 「＋新規」をクリックする。

4. 「弁明の有無」を選択する。「有」の場合は「ファイルの添付」から弁明のファイルを添付して「届出」をクリックする。
「無」の場合は添付無しのまま「届出」をクリックする。

5. 弁明届出が完了すると、提出済みの届出のステータスが「弁明済」になり、弁明の提出が完了する。
※弁明の提出が反映されステータスが「弁明済」になるまでしばらく時間がかかることがあります（最大 15 分）。

5. 届出が差戻し又は指定不要となった場合

5-1.差戻し

提出した内容に不備や不足がある場合は届出が差し戻されます。差し戻された届出は修正ののち再提出できます。

1. 届出が差し戻された場合、ステータスが「一時保存」になっています。

編集フォームで届出の不備を修正し、再提出する。

新規届出のときと同様に、入力内容は一時保存することができる。一時保存する場合は、「届出の準備が整いました」のチェックを入れずに「保存・届出」をクリックする。

届出の準備が整ったら「届出の準備が整いました」にチェックを入れて「保存・届出」をクリックすることで、届出が提出される。

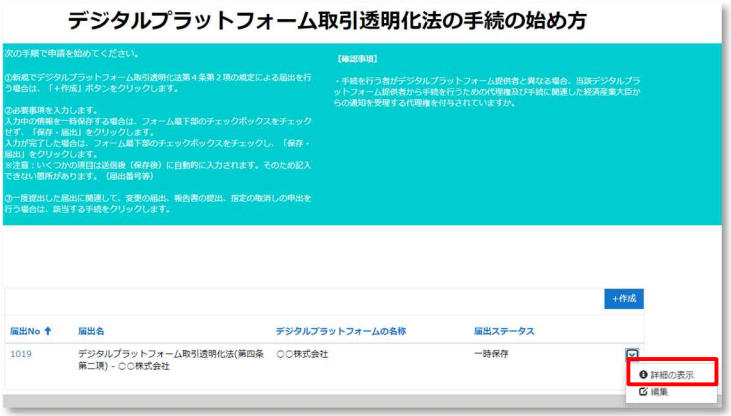
5-2.指定不要

届出処理のプロセスでは、新規届出後と弁明の提出後に、指定不要として決裁されることがあります。指定不要になった場合、届出の内容から事業者はデジタルプラットフォーム取引透明化法上の指定の必要がないと判断されたことを意味します。指定不要となったら手続は終了となります。

6. 届出の取り下げ

提出された届出は、事業者の任意のタイミングで取り下げることができます。取り下げられた届出については、その時点で省内担当者に通知が届き、指定のプロセスから除外されます。取り下げの手順は下記のとおりです。

1. 届出の一覧画面で「V」を開いて「詳細の表示」をクリックする。

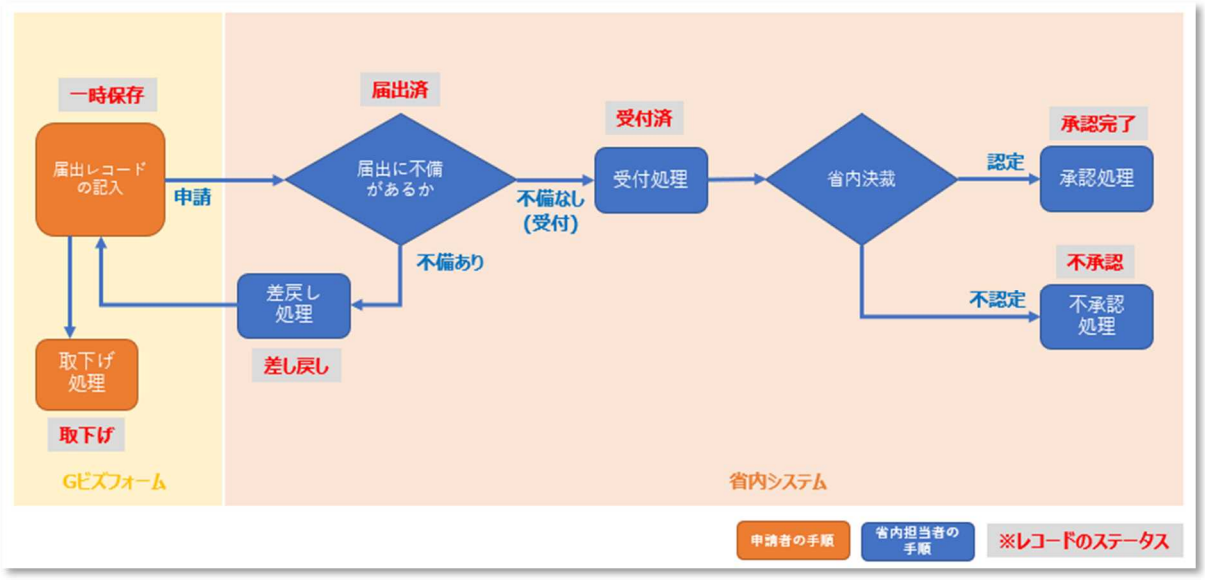


2. 参照フォームを最下部までスクロールし、「取下げ」をクリックする。

3. 届出ステータスが「取り下げ」に変更される。
※取り下げが反映されステータスが「取り下げ」になるまでしばらく時間がかかることがあります（最大 15 分）。

7. 変更の届出・報告書の提出・指定の取消申出

Gビズフォームポータルサイトでは指定を受けた届出に係る変更の届出、報告書の提出、指定の取消申出を行うことができます。それぞれの手続は下記の流れで処理されます。



1. 「電子申請を開始する」→「デジタルプラットフォーム取引透明化法上の手続」→「手続する」と進み、届出の一覧画面で「V」を開き、「編集」をクリックする。

2. 編集フォームを開いたら、「変更の届出」「報告書の提出」「指定の取消申出」から行う手続のタブを開く。

3. 「＋作成」をクリックする。

4. 新規届出のときと同様に必要項目の入力とファイルの添付を行い「保存・届出」をクリックする。

※「届出の準備が整いました」のチェックボックスがある届出では、チェックをして「保存・届出」をクリックすることで届出提出、チェックせずに「保存・届出」をクリックすることで一時保存の処理が行われる。チェックボックスがない届出では一時保存の機能はないため、そのまま提出される。

１４. [参考資料 2] デジタルプラットフォーム取引透明化法省内担当者（管理者）マニュアル

1. はじめに

この文書は、G ビズフォームポータルサイト（https://form.gbiz.go.jp ）から行なわれた経済産業省所管のデジタルプラットフォーム取引透明化法上の手続を取り扱う省内担当者向けのガイドです。

デジタルプラットフォームにおける取引の透明性と公正性の向上を図るために、「特定デジタルプラットフォームの透明性及び公正性の向上に関する法律」が令和２年５月 27 日に成立し、同年６月３日に公布されました。下記の条件に当てはまり、同法に関連するデジタルプラットフォーム提供者は、G ビズフォームポータルサイトで電子化された届出の手続きを行います。

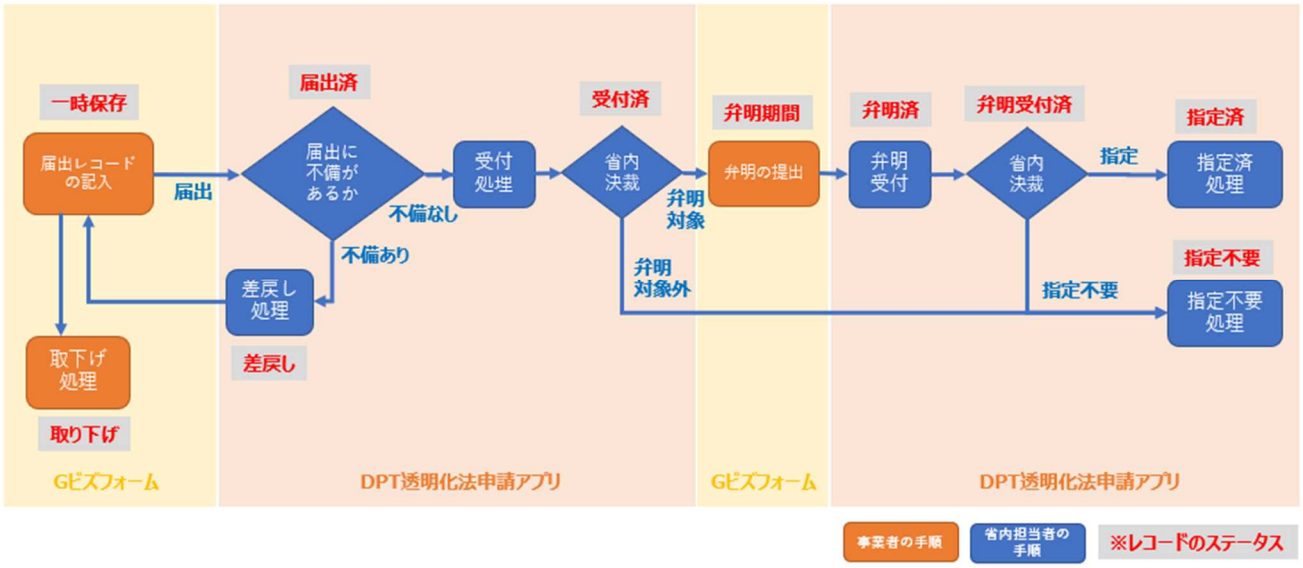
- 物販総合のオンラインモールを運営する事業者（前年度の国内売上額が 3,000 億円以上）
- アプリストアを運営する事業者（前年度の国内売上額が 2,000 億円以上）

省内担当者は、提出された届出を専用の「DPT 透明化法申請アプリ」を使って処理します。本文書では、G ビズフォームポータルサイトから提出された届出を DPT 透明化法申請アプリで処理する上で知っておく必要がある操作手順を手続の概要とともにステップバイステップで説明します。

2. 概要

2-1.手続の流れ

手続は、Ｇビズ ID でＧビズフォームポータルサイトにサインインした事業者が届出を作成することで開始されます。
手続開始から決裁までは下記の流れで行われます。省内担当者は DPT 透明化法申請アプリで届出のステータスを変更することで処理ステップを進めていきます。



- **新規届出の提出後**

  1. 受付処理（届出の内容に不備がない場合）
     または差戻し処理（届出の内容に不備があり修正後に再提出を依頼する場合）
  2. 弁明期間処理（届出が弁明対象と判断された場合）
     （または指定不要処理（弁明対象外と判断された場合）

- **弁明の提出後**

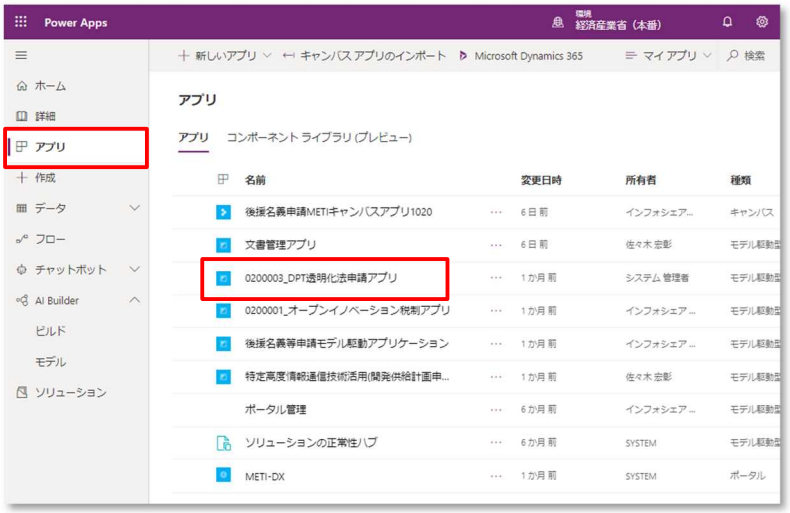
  1. 弁明受付処理
  2. 指定済処理（弁明が指定対象と判断された場合）
     または指定不要処理（弁明から指定不要と判断された場合）

2-2.DPT 透明化法申請アプリの使い方

処理を行う DPT 透明化法申請アプリの使用手順は下記のとおりです。各処理における個別の操作は次章以降の各項目を参照してください。

1. Power Apps にサインインし、「アプリ」のメニューから「DPT 透明化法申請アプリ」をクリックする。

   ※右上の環境が「経済産業省（本番）」になっていることを確認してください。



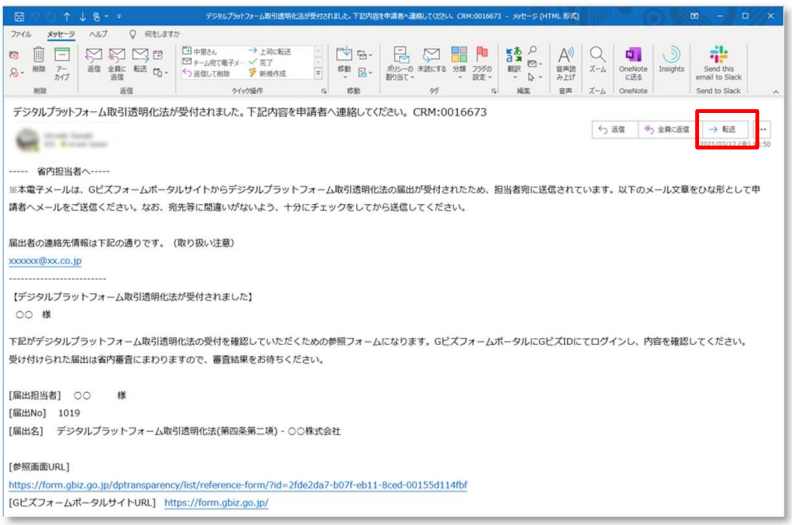
2. 左のメニューから処理を行う届出の区分を選択すると、選択した届出区分のレコードが一覧で表示される。処理を行うレコードをクリックする。

3. 選択したレコードがフォームで開き、詳細を確認・編集できる。

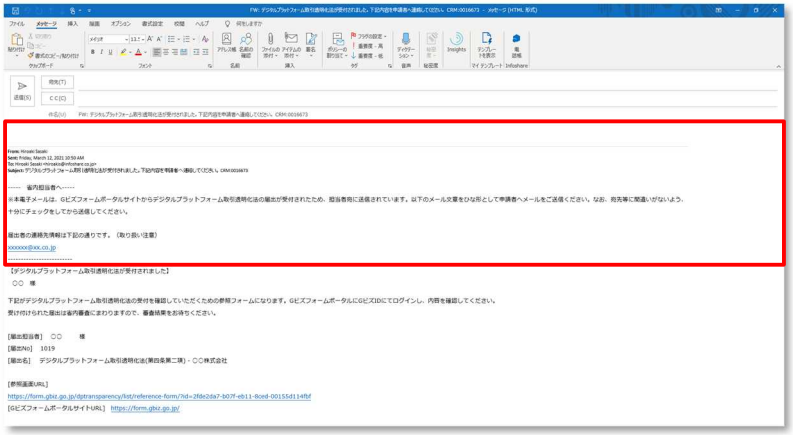
2-3.事業者への通知メールの転送

届出のステータスを変更する各処理を行った後は、省内のメーリングリストに送付されるシステムからの通知メールを事業者に転送する必要があります。各メールの転送手順は下記の通りです。

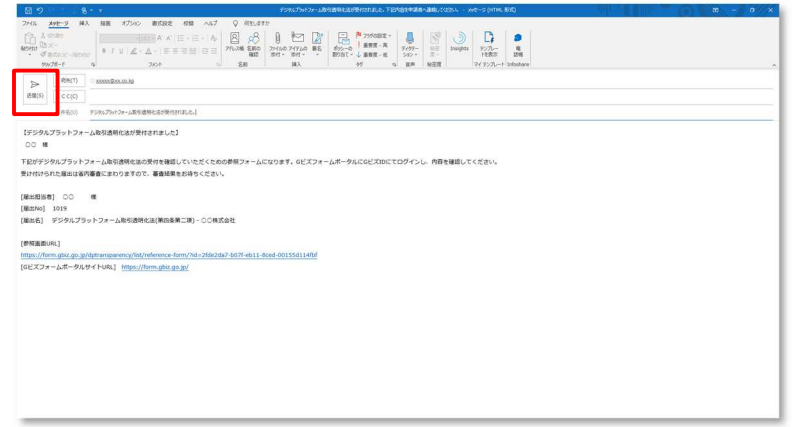
1. 「転送」をクリックする。



2. 右の赤枠部分の事業者メールアドレスを To に記載し、件名を調整し、省内担当者向けの赤枠部分（【デジタルプラットフォーム取引透明化法が受付されました】 より上の部分）を削除する。



3. 「送信」をクリックする。

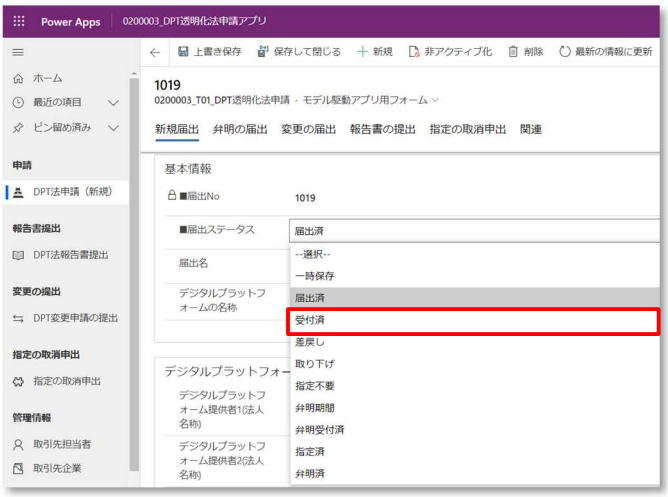


3. 新規届出の提出後の処理

3-1.受付

1. DPT 透明化法申請アプリの「DPT 法申請（新規）」をクリックし、レコードの一覧から該当のレコードを開く。入力内容と添付ファイルに不備がないか確認する。

2. 不備がないことが確認できたら届出ステータスで「受付済」を選択する。



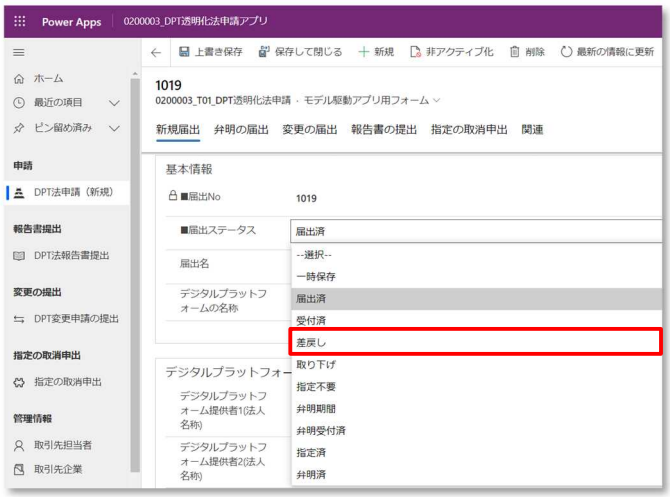
3. 「上書き保存」をクリックする。

4. 受付の完了を通知するメールが省内のメーリングリストに送付される。このメールをテンプレートとして、不必要な部分の削除などを行ったのち、事業者にメールを転送する。転送手順は[2-3.事業者への通知メールの転送]を参照してください。

3-2.差戻し

1. DPT 透明化法申請アプリの「DPT 法申請（新規）」をクリックし、レコードの一覧から該当のレコードを開く。入力内容と添付ファイルに不備がないか確認する。

2. 不備があり、事業者に差戻しで修正させる場合は、届出ステータスで「差戻し」を選択する。



3. 「上書き保存」をクリックする。

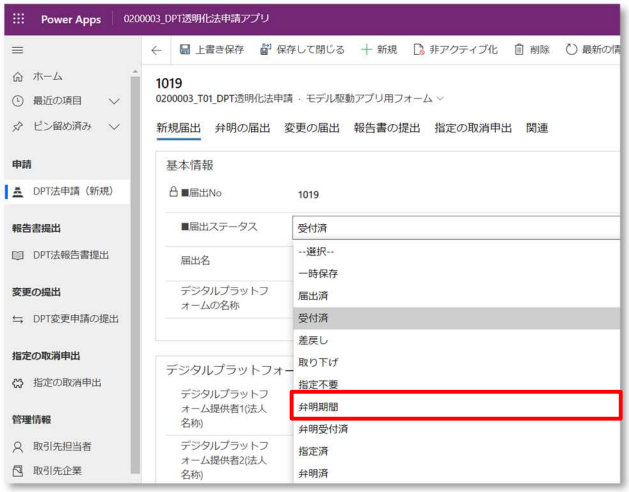
4. 差戻しを通知するメールが省内のメーリングリストに送付される。このメールをテンプレートとして、不必要な部分の削除などを行ったのち、事業者にメールを転送する。
転送手順は[2-3.事業者への通知メールの転送]を参照してください。

3-3.弁明期間

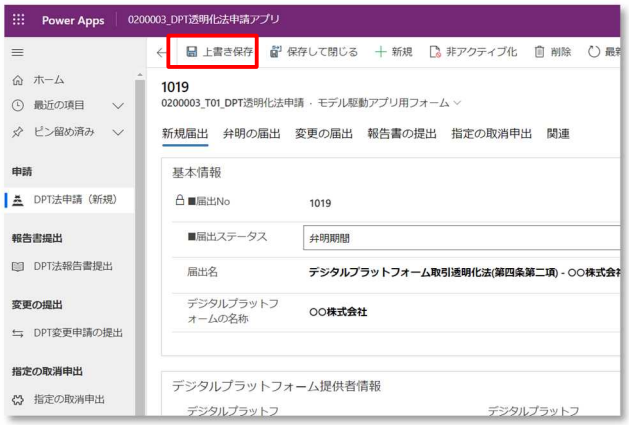
※弁明対象外と判断され、弁明期間にせず「指定不要」にする場合は[4-3.指定不要]を参照してください。

1. DPT透明化法申請アプリの「DPT法申請（新規）」をクリックし、レコードの一覧から該当のレコードを開く。

2. 事業者に弁明の提出を依頼する場合は、届出ステータスで「弁明期間」を選択する。



3. 「上書き保存」をクリックする。



4. 弁明期間になったことを通知するメールが省内のメーリングリストに送付される。このメールをテンプレートとして、不必要な部分の削除などを行ったのち、事業者にメールを転送する。
転送手順は[2-3.事業者への通知メールの転送]を参照してください。

4. 弁明提出後の処理

4-1.弁明受付

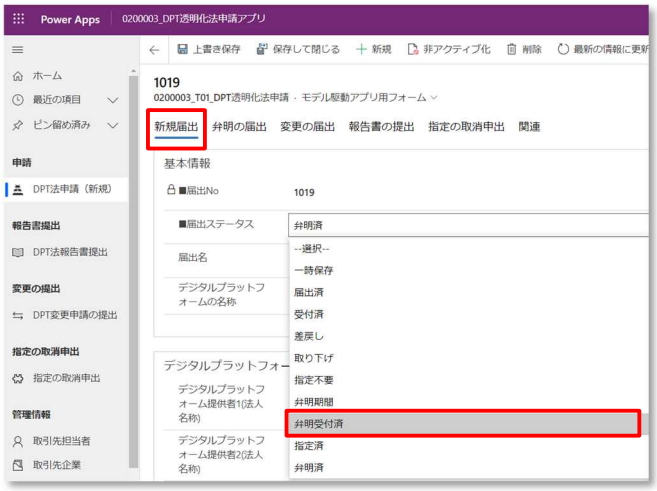
1. DPT 透明化法申請アプリの「DPT 法申請（新規）」をクリックし、レコードの一覧から該当のレコードを開く。

2. 「弁明の届出」タブを開き、提出された弁明のレコードを開く。

3. 弁明の有無を確認する。「有」の場合は添付ファイルをクリックして内容を確認する。

4. 弁明を確認したら「←」をクリックし、前の画面に戻る。

5. 「新規届出」のタブを開き、届出ステータスで「弁明受付済」を選択する。

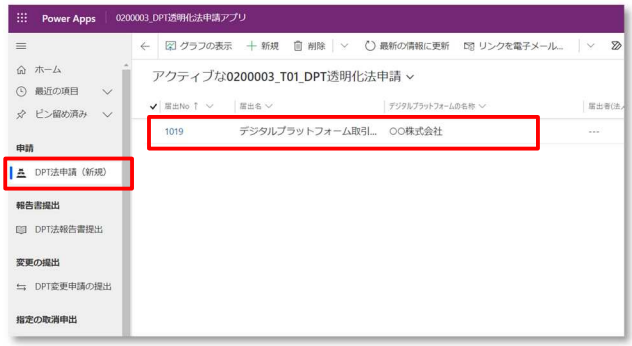


6. 「上書き保存」をクリックする。

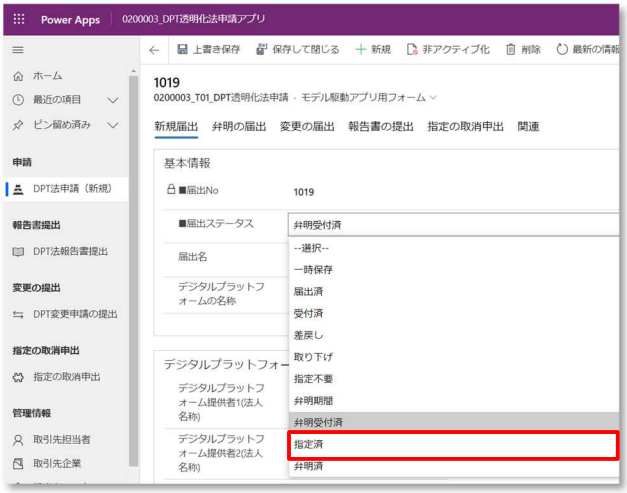
7. 弁明受付を通知するメールが省内のメーリングリストに送付される。このメールをテンプレートとして、不必要な部分の削除などを行ったのち、事業者にメールを転送する。
転送手順は[2-3.事業者への通知メールの転送]を参照してください。

4-2.指定済

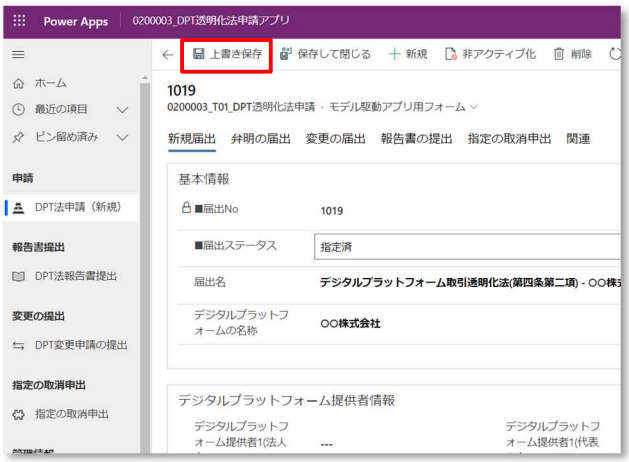
1. DPT透明化法申請アプリの「DPT法申請（新規）」をクリックし、レコードの一覧から該当のレコードを開く。



2. 省内決裁の結果指定となった場合は、届出ステータスで「指定済」を選択する。



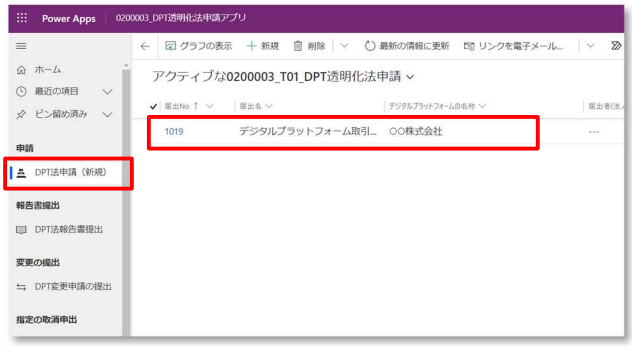
3. 「上書き保存」をクリックする。



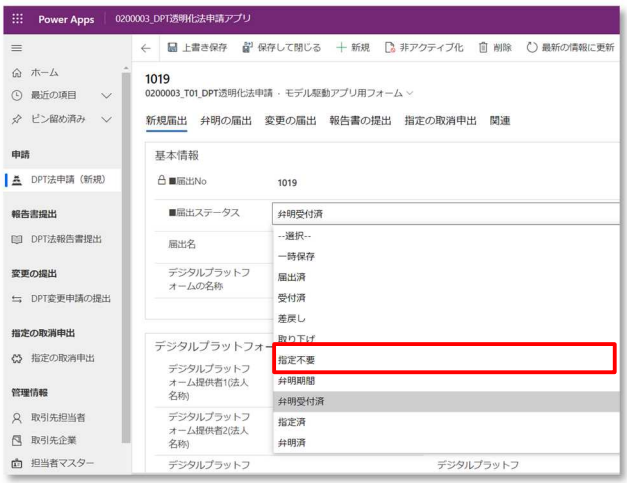
4. 指定されたことを通知するメールが省内のメーリングリストに送付される。このメールをテンプレートとして、不必要な部分の削除などを行ったのち、事業者にメールを転送する。
転送手順は[2-3.事業者への通知メールの転送]を参照してください。

4-3.指定不要

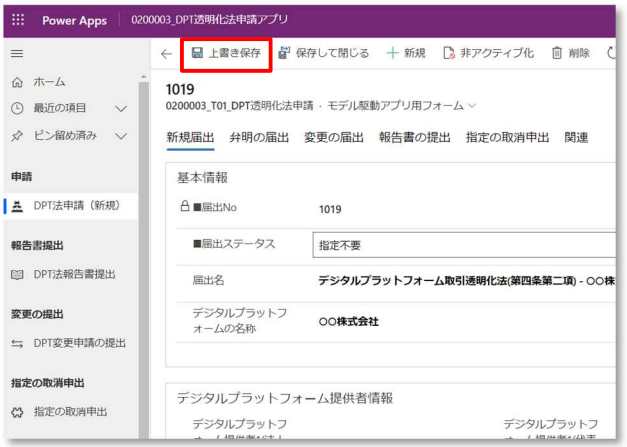
1. DPT 透明化法申請アプリの「DPT 法申請（新規）」をクリックし、レコードの一覧から該当のレコードを開く。



2. 省内決裁の結果指定不要となった場合は、届出ステータスで「指定不要」を選択する。



3. 「上書き保存」をクリックする。



4. 指定不要となったことを通知するメールが省内のメーリングリストに送付される。このメールをテンプレートとして、不必要な部分の削除などを行ったのち、事業者にメールを転送する。
転送手順は[2-3.事業者への通知メールの転送]を参照してください。

１５. [参考資料 3] 事業再編計画利用者マニュアル

1. はじめに

この文書は、経済産業省所管の事業である産業競争力強化法に基づく事業再編計画の認定申請を Ｇ ビズフォームポータルサイト（https://form.gbiz.go.jp）で行う申請者向けの利用者ガイドです。
産業競争力強化法では、産業競争力の強化に関する施策として産業活動における新陳代謝を促進するための措置を講じることとしており、その一環として事業再編の円滑化を図ることとしています。これは、我が国の経済社会全体における経営資材の有効活用を通じ、我が国の産業における生産性の向上を目指すものです。具体的には、生産性向上を目指し、事業再編を行う取組を事業再編計画として認定し、認定を受けた取組に対して、税制優遇や金融支援等の支援措置を講じることで当該取組を後押しします。

本文書では、Ｇ ビズフォームポータルサイトを使用する上で知っておくべき操作手順を、事業再編計画の認定申請とそれに関連する申請の概要とともにステップバイステップで説明します。下記の項目の手順がカバーされています。

- 申請手続き前に外形要件を満たしているか確認するセルフチェック
- 経済産業省担当者との申請前相談
- 事業再編計画認定申請の本申請手続き
- 事業再編計画の認定に係る租税特別措置法申請
- 事業再編計画の認定に係る実施状況の報告
- 実施状況の報告のリマインドメール設定

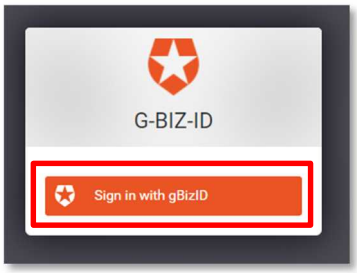
2. 概要

2-1.G ビズフォームへのサインイン

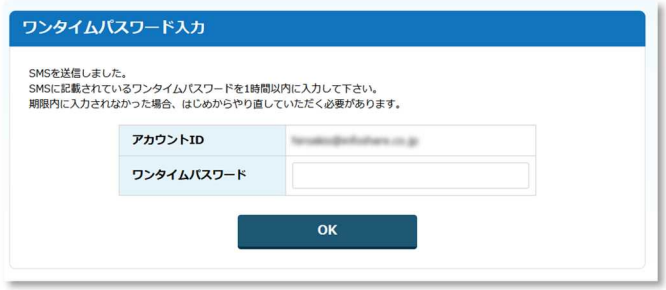
事業再編計画認定申請に係る手続きを行うには G ビズフォームにサインインする必要があります。G ビズフォームには G ビズ ID を使ってサインインします。サインインの手順は下記の通りです。
※事業再編計画の手続きには「プライム」またはプライム ID 保持者が発行する「メンバー」の G ビズ ID が必要です。G ビズ ID 未取得、または「エントリー」の G ビズ ID しか持っていない場合は、本手続きを行う前に、「プライム」または「メンバー」の G ビズ ID を取得してください。

1. G ビズフォームポータルサイト（https://form.gbiz.go.jp）にアクセスし、右上の「サインイン」をクリックする。

2. 「Sign in with gBizID」をクリックし、アカウント ID とパスワードを入力しログインする。



3. ワンタイムパスワードを入力し「OK」をクリックする。



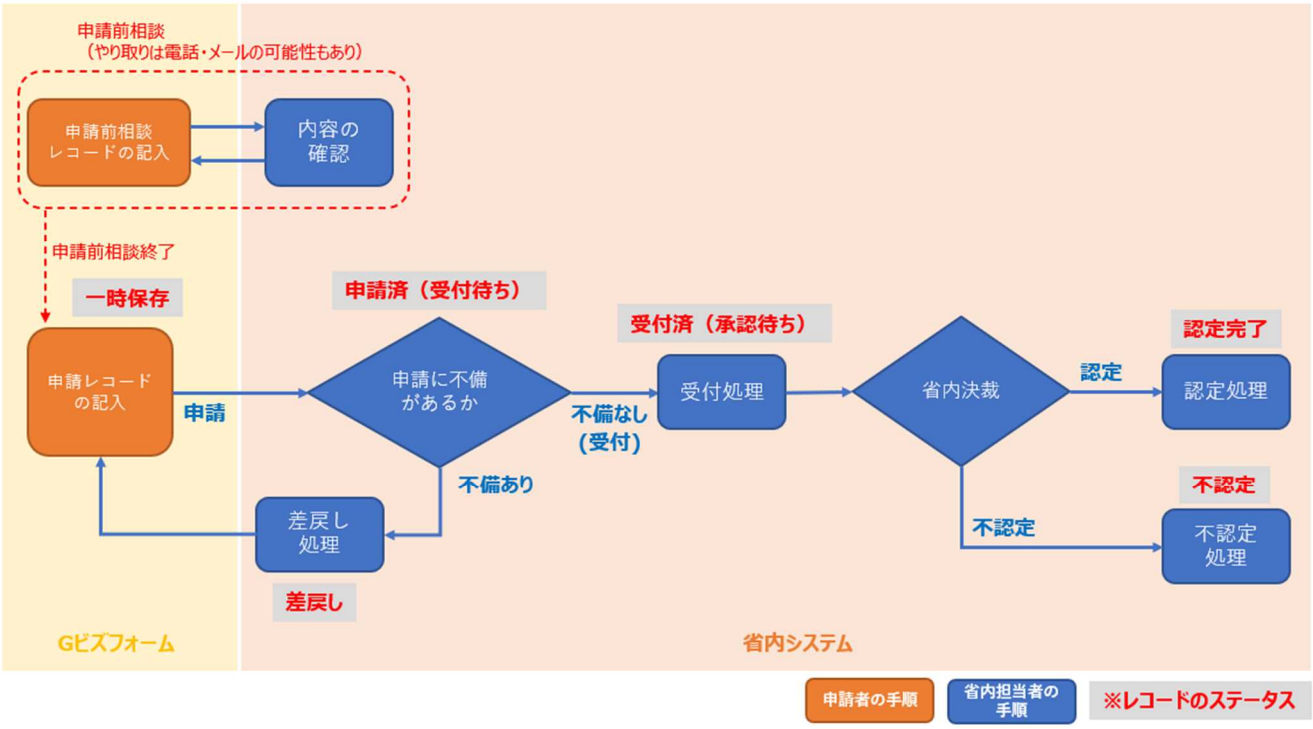
4. G ビズフォームに戻り、右上の「サインイン」がサインインした G ビズ ID の登録名に変わっていればサインイン完了となる。

2-2.申請の流れ

事業再編計画の申請は下記のステップに分かれています。

1. セルフチェック	申請する事業が外形要件を満たしているか、Web 上で簡単な質問に答えることで確認できます。必須の手続きではありません。
2. 申請前相談	本申請に進む前に経済産業省担当者との事前相談を実施します。セルフチェックをしない場合はこちらから手続きを開始してください。
3. 本申請	申請前相談を終えたら本申請を行います。本申請は下図の流れでステータスが処理され、省内で決裁されます。
4. 租税特別措置法適用証明申請	認定された本申請に係る租税特別措置法の適用証明申請を行います。本申請が認定された事業のみが対象です。該当する租税特別措置法に応じて様式を選択します。本申請と同様、下図の流れでステータスが処理され、省内で決裁されます。
5. 実施状況報告 （リマインドメールの設定を含む）	認定された本申請に係る実施状況報告を行います。本申請が認定された事業のみが対象で、最長５年間の実施状況報告が義務付けられています。実施状況報告は経済産業省に受理された時点で手続き完了となり、省内決裁などは行われません。不備があった場合は受理されずに提出者に差し戻されるので、不備を修正し再提出します。

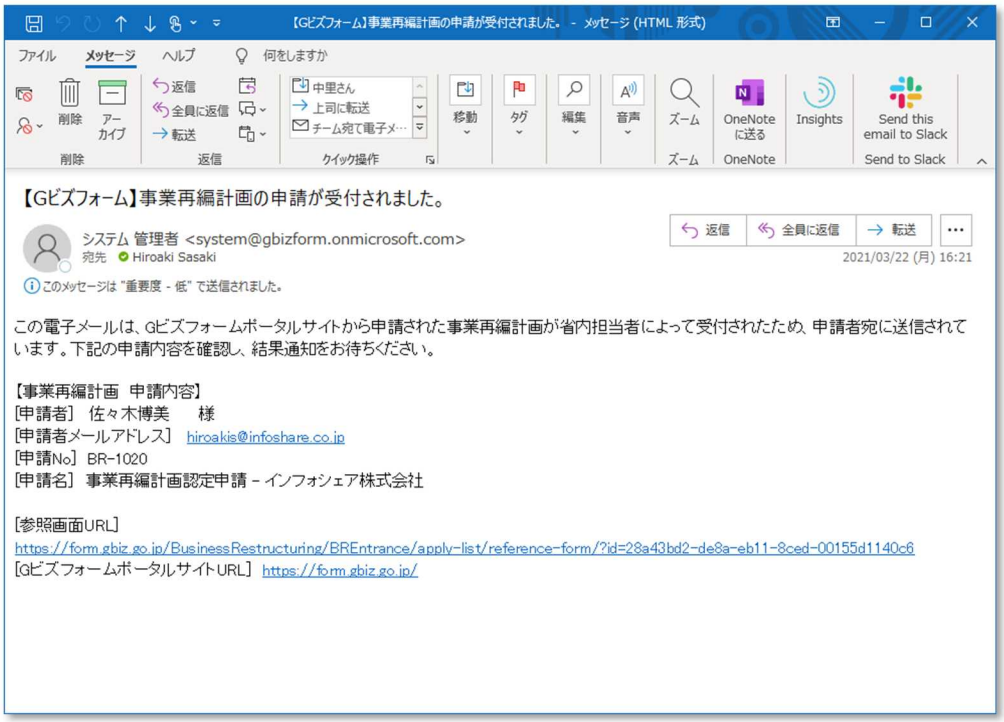
申請から決済までの流れ



2-3.申請者への通知

本システムにおける申請では、申請レコードのステータスが多段階に変更されます。申請ステータスが更新されるたびに事業者にメール通知が届きます。また、事業者はいつでもポータル上で申請ステータスを確認でき、申請の処理の進捗を把握することができます。

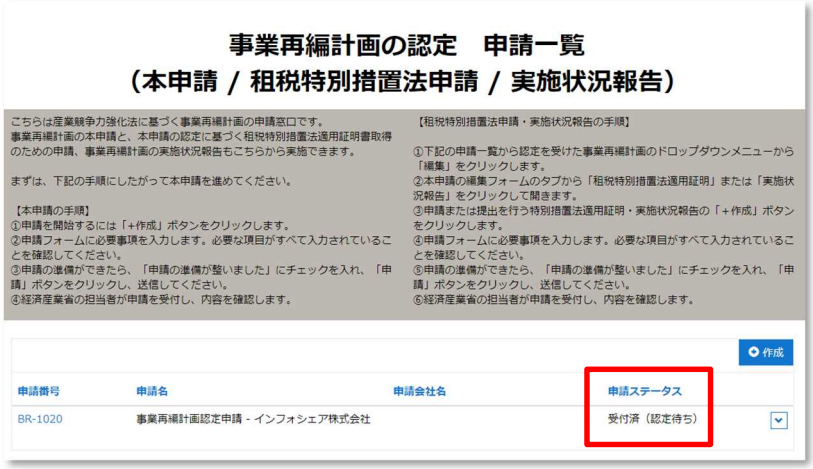
通知メールの例



<ポータル上のステータス>

ポータル上での申請レコードでは、ステータス列に下記のいずれかが表示され、申請の処理段階を確認することができます。

一時保存
申請済（受付待ち）
受付済（認定待ち）
差戻し
認定完了
不認定



3. セルフチェック

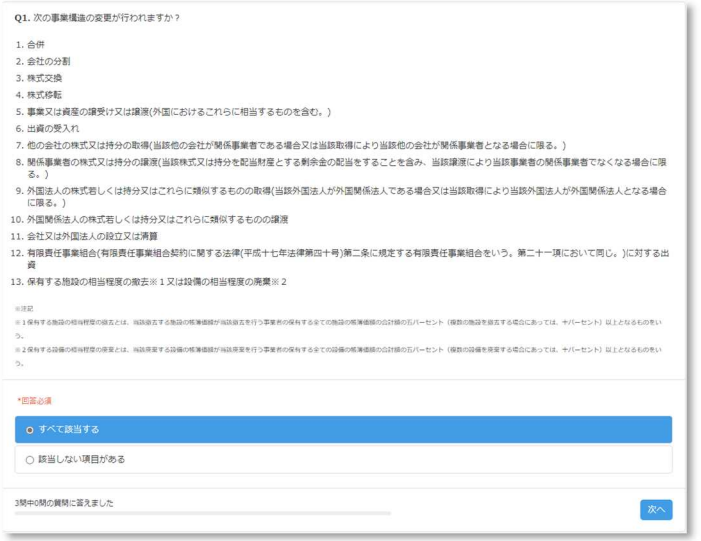
手続きを開始する前に、Web 上の質問にアンケート形式で回答することで、事業が本申請の外形要件を満たしているか確認することができます。セルフチェックの手順は下記の通りです。

4. GビズフォームポータルサイトにアクセスしGビズ ID でサインインする。

5. 「電子申請を開始する」→「事業再編計画の認定申請（産業競争力強化法）」→「申請する」と進み、事業再編計画申請手続きの窓口画面を開く。「セルフチェック」をクリックする。

6. 「回答する」をクリックする。

7. アンケートが開始する。各質問に回答し、「次へ」で回答を進める。（計３問あります。）



8. 回答に応じた結果が表示される。結果を確認したらブラウザを閉じる。

※セルフチェックの結果は保存されません。結果を再度確認したい場合は再度アンケートに回答する必要があります。

セルフチェックはあくまで外形要件を満たしているかという判断の目安です。ここで外形要件を満たしているからといって申請した事業再編計画が必ずしも認定されるわけではありません。

4. 申請前相談

本申請に進む前にＧビズフォーム上で事業再編計画の基本的な情報を省内担当者に共有することで、申請前相談を受けることができます。申請前相談の手順は下記の通りです。

1. Ｇビズフォームポータルサイトにアクセスし、Ｇビズ ID でサインインする。

2. 「電子申請を開始する」→「事業再編計画の認定申請（産業競争力強化法）」→「申請する」と進み、事業再編計画申請手続きの窓口画面を開く。
「申請前相談」をクリックする。

3. 「作成」をクリックする。

4. フォーム上の項目を入力し、「相談提出」をクリックする。相談が提出され、内容を確認した省内担当者から電話、メールまたはポータル上で連絡が入り、相談を実施する。

※入力内容を保存する機能はありません。

5. ポータル上で共有される省内担当者メッセージを確認するには、申請前相談の一覧から「編集」または「詳細の表示」をクリックし、フォームを下までスクロールするとみえる「省内担当者からのメッセージ」を確認する。

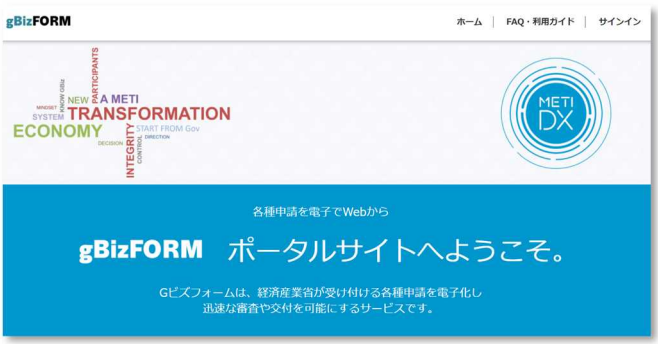
6. 相談が終了すると、省内担当者によって相談のステータスが「終了済み」に変更される。

5. 本申請

5-1.申請の手順

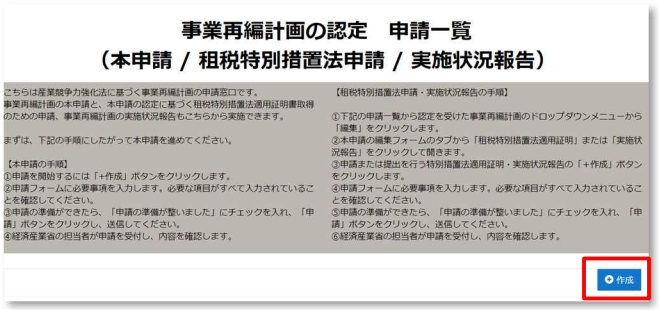
省内担当者との申請前相談を完了し、本申請に進むよう案内されたら下記の手順で本申請を行います。

1. GビズフォームポータルサイトにアクセスしGビズ ID でサインインする。



2. 「電子申請を開始する」→「事業再編計画の認定申請（産業競争力強化法）」→「申請する」と進み、事業再編計画申請手続きの窓口画面を開く。
「本申請」をクリックする。

3. 「作成」をクリックする。



4. 新規フォームを開いたら、申請に必要な項目を入力し、必要なファイルを添付する。

入力内容を一時保存する場合は、「申請の準備が整いました」のチェックを入れずに「申請・保存」をクリックする。

申請の準備が整ったら「申請の準備が整いました」にチェックを入れて「申請・保存」をクリックすることで、申請が提出される。

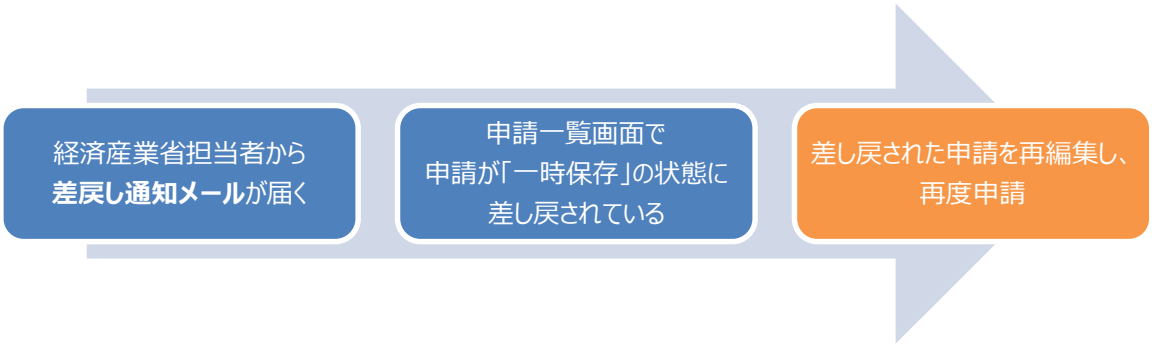
申請後は、省内担当者から通知メールを受け取り、申請の処理状況を確認し、決裁結果に応じて交付文書を受けるという

流れになります。申請に不備があり決裁に回せない場合は、申請レコードが差し戻されるので、適宜再申請の対応を取ります。申請後の流れについては、租税特別措置法の適用証明申請でも同様です。差戻しされた場合の処置については実施状況報告でも同様です。

5-2.差戻しされた場合

経済産業省担当者による申請内容の確認の結果、申請に不備などがあり決裁に回せないと判断されたら、申請が差戻されます。差戻しを受けた後、再申請する場合の対応は下記の通り。

【差戻しされた場合】



申請一覧画面で差し戻された申請レコードの申請ステータスが「一時保存」になっていることを確認し、「編集」で開く。

申請内容の不備を修正したら、初回の申請と同様に「申請の準備が整いました」にチェックを入れ、「申請・保存」をクリックすると、再申請が完了します。（再編集中に一時保存する場合は、「申請の準備が整いました」にチェックを入れず「申請・保存」をクリックします。）

※再申請したレコードが再度差し戻された場合も、再申請の手順は同様です。

5-3.交付文書の受領

省内担当者から認定通知または不認定通知のメールを受信したら、ポータル上の申請レコードを参照フォームで開き、省内担当者によって添付された交付文書をダウンロードし受領します。手順は下記の通りです。
※実施状況報告については、受付通知メールを受信した段階で手続き終了となり、交付文書はありません。

4. 申請の一覧画面で、該当する申請のステータスが「認定完了」または「不認定」になっていることを確認する。

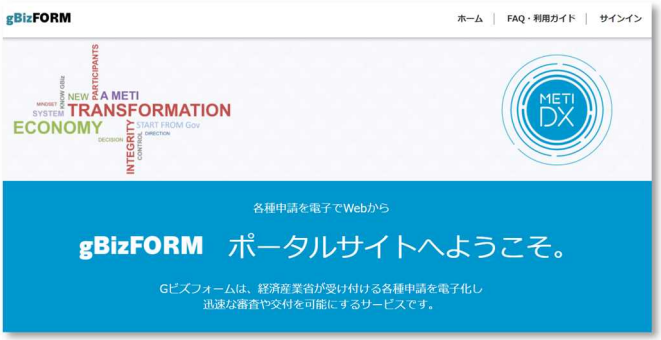
   「V」を開いて「詳細の表示」をクリックする。

5. 参照フォームを最下部までスクロールし、交付されたファイルをクリックし、ダウンロードする。

6. 租税特別措置法適用証明申請

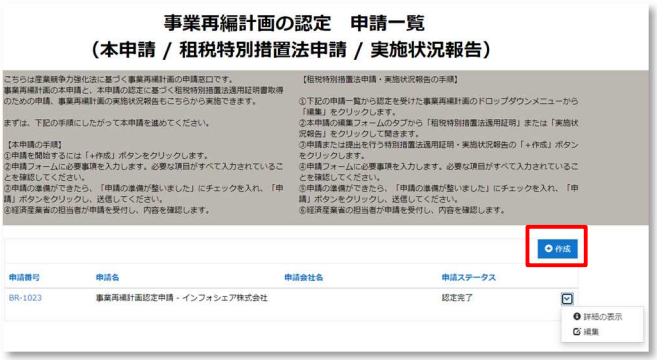
事業再編計画の本申請が認定されたら、事業再編計画の認定に係る租税特別措置法適用証明の申請を行うことができます。

1. GビズフォームポータルサイトにアクセスしGビズID でサインインする。



2. 「電子申請を開始する」→「事業再編計画の認定申請（産業競争力強化法）」→「申請する」と進み、事業再編計画申請手続きの窓口画面を開く。
「本申請」をクリックする。

3. 申請ステータスが「認定完了」になっていることを確認し、「編集」でレコードを開く。



4. 「租税特別措置法適用証明」のタブを開く。

5. 関係する租税特別措置法に応じて様式を選択し「作成」をクリックする。（第 1 号、第 2 号又は第 3 号関係なら様式第一。第 4 号、第 5 号又は第 6 号関係なら様式第二。）

6. 新規フォームを開いたら、申請に必要な項目を入力し、必要なファイルを添付する。

   入力内容を一時保存する場合は、「申請の準備が整いました」のチェックを入れずに「申請・保存」をクリックする。

   申請の準備が整ったら「申請の準備が整いました」にチェックを入れて「申請・保存」をクリックすることで、申請が提出される。

申請後の流れは本申請の場合と同様です。
差戻された場合と、認定後の交付文書の受領についても、租税特別措置法適用証明の申請レコードを開き、本申請と場合と同様の処理を行います。[5-2．差戻された場合][5-3．交付文書の受領]をそれぞれ参照してください。

7. 実施状況報告

認定された事業再編計画には、年ごとにそれに係る実施状況報告を行う必要があります。本申請が認定された事業のみが対象で、最長 5 年間の実施状況報告が義務付けられています。

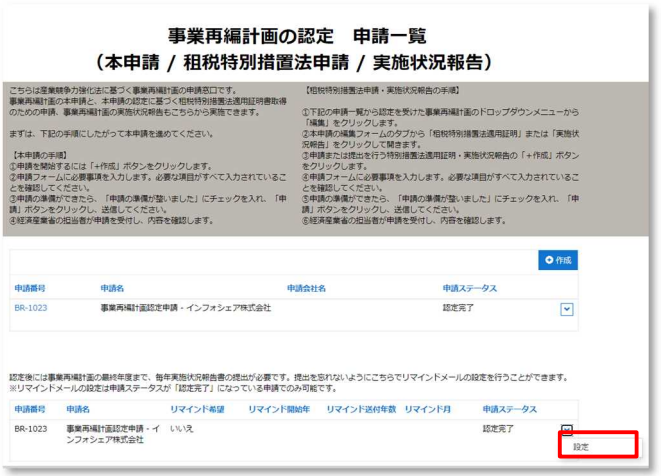
7-1.リマインドメールの設定

Gビズフォームでは、毎年の実施状況報告の時期になると事業者に報告をするようにリマインドするメールの設定ができます。こちらの設定は必須ではありませんが、実施状況報告を忘れることがないように設定していただくことを推奨します。

1. GビズフォームポータルサイトにアクセスしGビズID でサインインする。

2. 「電子申請を開始する」→「事業再編計画の認定申請（産業競争力強化法）」→「申請する」と進み、事業再編計画申請手続きの窓口画面を開く。
「本申請」をクリックする。

3. 申請ステータスが「認定完了」になったレコードは、リマインドメールの設定一覧（画面下の一覧）に表示される。「設定」をクリックする。



4. 「リマインドを希望しますか？」を「はい」に変更し、例を参考に希望するリマインドを「リマインド開始年」「リマインド送付年数」「リマインド月」を入力し設定する。
設定が完了したら「設定保存」をクリックする

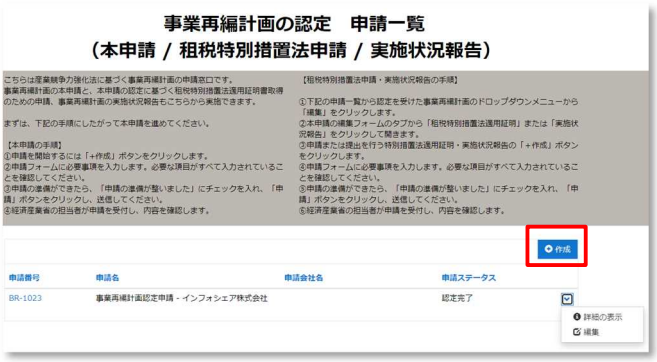
※リマインドは選択したリマインド月の初日にシステムから自動送付されます。送付年数は最長 6 年まで選択できます。

7-2.実施状況報告の提出

1. GビズフォームポータルサイトにアクセスしGビズ ID でサインインする。

2. 「電子申請を開始する」→「事業再編計画の認定申請（産業競争力強化法）」→「申請する」と進み、事業再編計画申請手続きの窓口画面を開く。
「本申請」をクリックする。

3. 申請ステータスが「認定完了」になっていることを確認し、「編集」でレコードを開く。



4. 「実施状況報告」のタブを開く。

5. 「作成」をクリックする。

6. 新規フォームを開いたら、申請に必要な項目を入力し、必要なファイルを添付する。

   入力内容を一時保存する場合は、「申請の準備が整いました」のチェックを入れずに「申請・保存」をクリックする。

   申請の準備が整ったら「申請の準備が整いました」にチェックを入れて「申請・保存」をクリックすることで、申請が提出される。

   ※必要に応じてここからダウンロードできる「（別紙１）様式第 48_年度終了時実施状況報告書」を参考に作成した別紙を添付してください。

１６. [参考資料 4] 事業再編計画省内担当者（管理者）マニュアル

1. はじめに

この文書は、G ビズフォームポータルサイト（https://form.gbiz.go.jp）から行なわれた経済産業省所管の事業である産業競争力強化法に基づく事業再編計画の認定申請を取り扱う省内担当者向けのガイドです。
産業競争力強化法では、産業競争力の強化に関する施策として産業活動における新陳代謝を促進するための措置を講じることとしており、その一環として事業再編の円滑化を図ることとしています。これは、我が国の経済社会全体における経営資材の有効活用を通じ、我が国の産業における生産性の向上を目指すものです。具体的には、生産性向上を目指し、事業再編を行う取組を事業再編計画として認定し、認定を受けた取組に対して、税制優遇や金融支援等の支援措置を講じることで当該取組を後押しします。

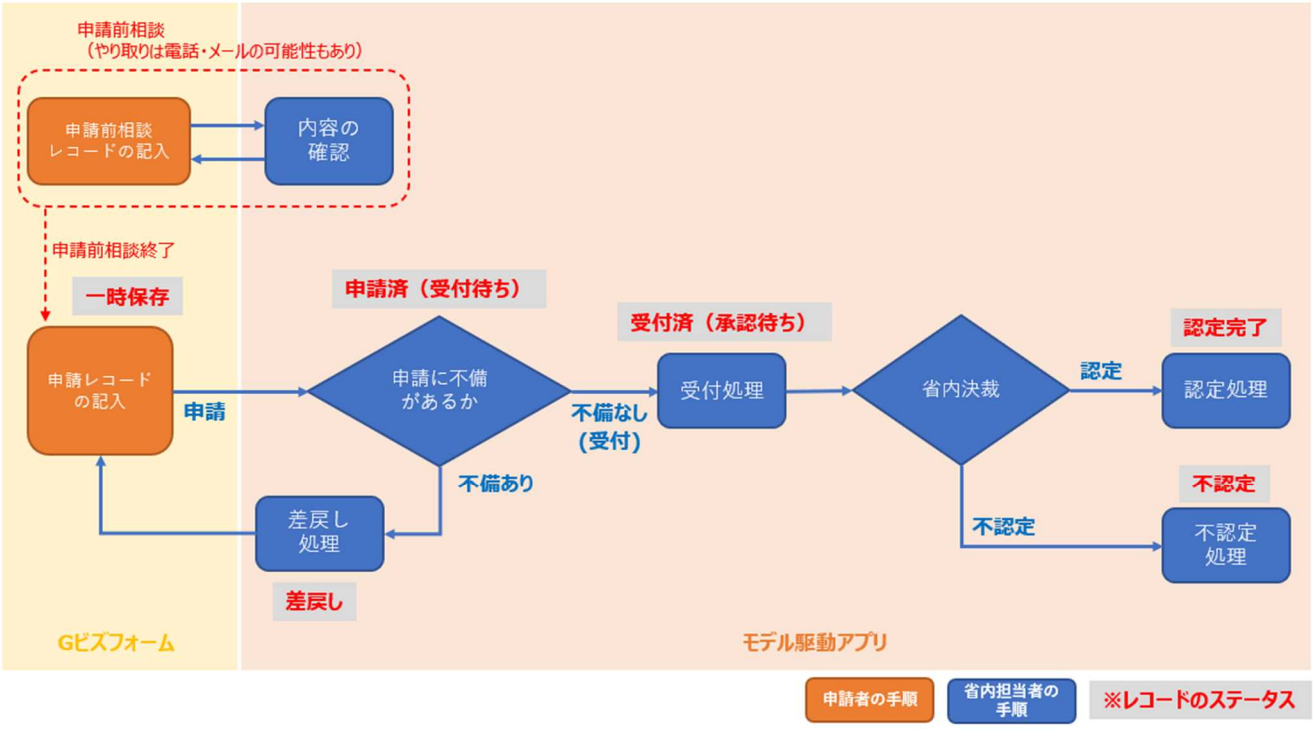
本文書では、G ビズフォームポータルサイトから提出された申請を処理する上で、経済産業省内担当者が知っておくべき操作手順を、事業再編計画の認定申請とそれに関連する申請の概要とともにステップバイステップで説明します。下記の項目の手順がカバーされています。

- 事業者との申請前相談の処理
- 事業再編計画認定申請の本申請の処理
- 事業再編計画の認定に係る租税特別措置法申請の処理
- 事業再編計画の認定に係る実施状況の報告の処理

2. 概要

2-1.申請の流れ

手続は、Ｇビズ ID でＧビズフォームポータルサイトにサインインした事業者が申請を作成することで開始されます。
手続開始から決裁までは下記の流れで行われます。省内担当者は産業競争力強化法事業再編の促進アプリ（モデル駆動アプリ）で申請のステータスを変更することで処理ステップを進めていきます。



- **申請前相談**

  相談者が記入した内容をもとに、ポータル上のコメントボックスまたは電話・メールで相談者とやり取りを行います。
  相談が終了したら、「相談終了」の処理を行い、申請に該当すると判断した場合、相談者に本申請に進むよう案内します。

- **本申請**

  本申請が提出されたら、受付処理（または申請の内容に不備があり修正後に再提出を依頼する場合は差戻し処理）を行います。受付された申請は省内決裁にかけられ、省内担当者は決裁によって認定処理または不認定処理を行います。

- **租税特別措置法適用証明申請**

  本申請の処理手順と同様に処理を行います。

- **実施状況報告**

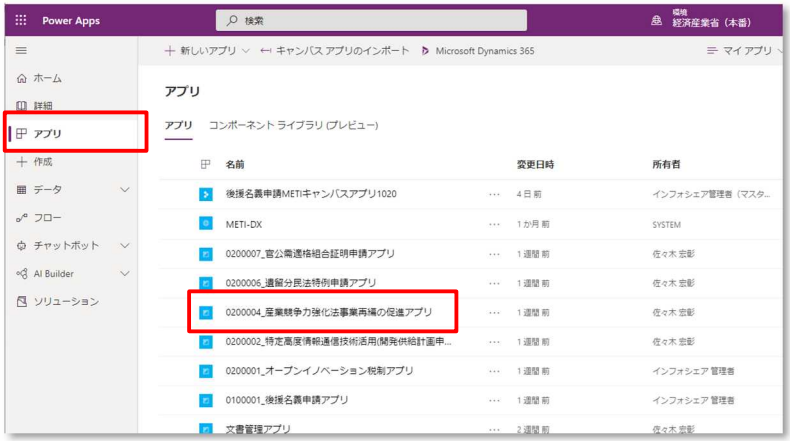
  報告が提出されたら、本申請と同様、受付または差戻しの処理を行います。報告には決裁はないため、受付された時点で処理完了となります。

2-2.産業競争力強化法事業再編の促進アプリの使い方

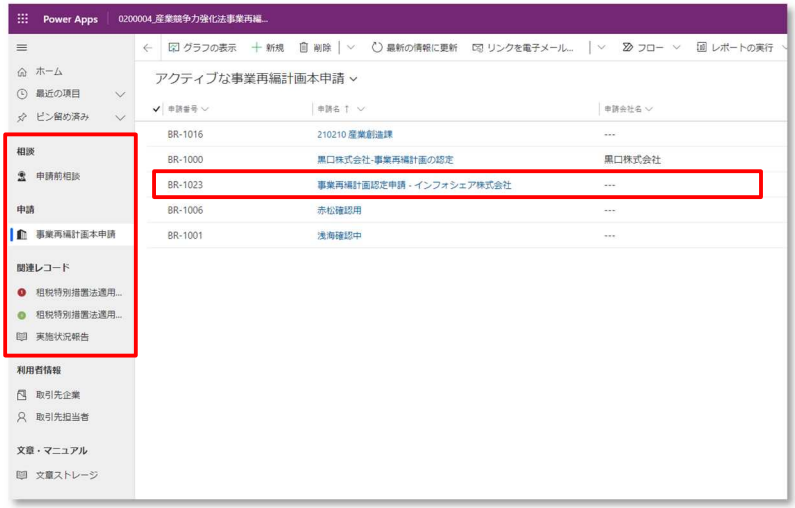
処理を行う産業競争力強化法事業再編の促進アプリの使用手順は下記のとおりです。各処理における個別の操作は次章以降の各項目を参照してください。

4. Power Apps にサインインし、「アプリ」のメニューから「産業競争力強化法事業再編の促進アプリ」をクリックする。

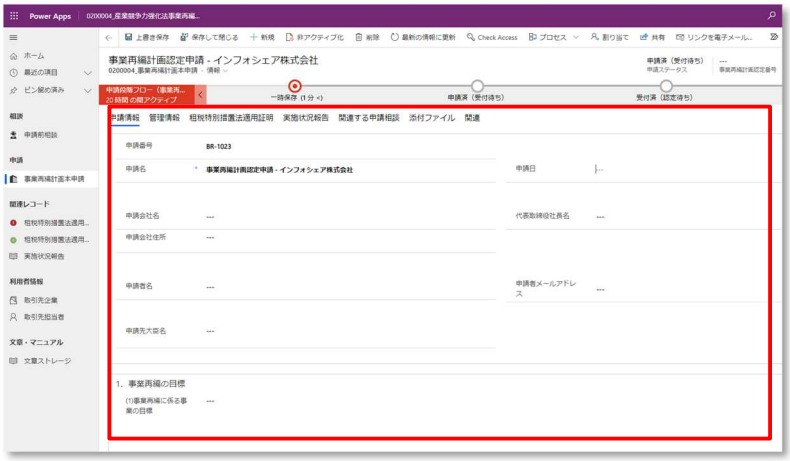
   ※右上の環境が「経済産業省（本番）」になっていることを確認してください。



5. 左のメニューから処理を行う届出の区分を選択すると、選択した届出区分のレコードが一覧で表示される。処理を行うレコードをクリックする。



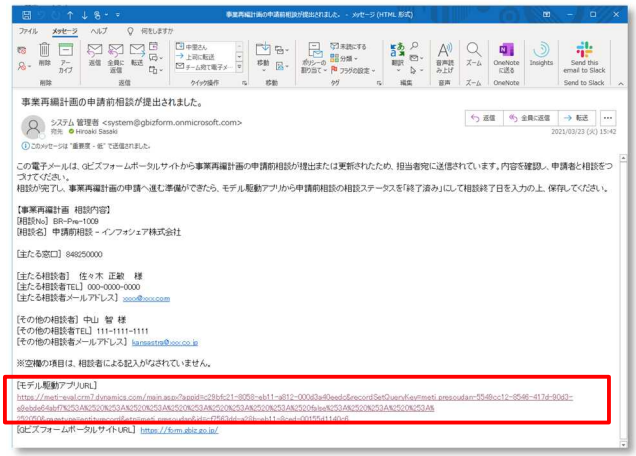
6. 選択したレコードがフォームで開き、詳細を確認・編集できる。



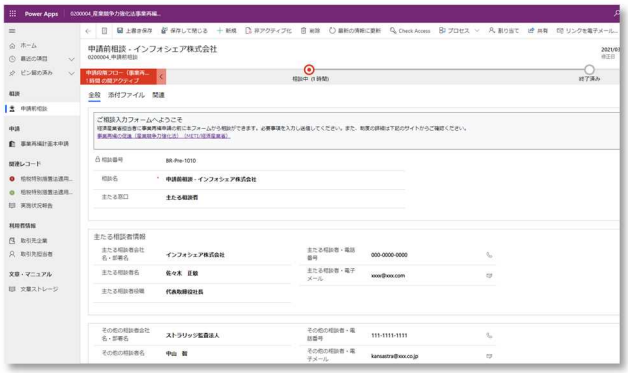
3. 申請前相談の処理

申請前相談は、G ビズフォームポータルサイトから相談者が相談レコードを作成することで開始されます。省内担当者はメーリングリストに届く申請前相談の提出通知を受け取ったら内容を確認し相談を実施します。

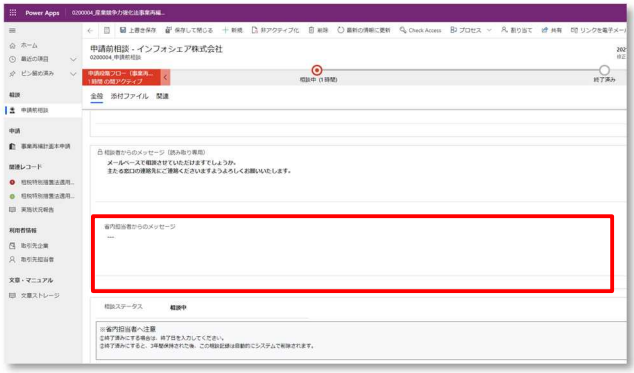
1. メーリングリストに申請前相談の提出通知が届く。記載されたモデル駆動アプリ URL をクリックする。



2. ブラウザでモデル駆動アプリが開く。提出された内容を確認し、記載された連絡先情報をもとに相談者と連絡を取る。



3. ポータル上で相談者にメッセージを返す場合は「省内担当者からのメッセージ」を入力する。ここに入力した内容は、相談者がポータル上で確認できる。



4. 相談が終了したら、相談ステータスを「終了済み」に変更し、「相談終了日」を入力する。「上書き保存」または「保存して閉じる」をクリックして申請前相談はクローズとなる。
   相談者が申請に該当する場合は、本申請の手続きに進むよう案内する。

4. 本申請・租税特別措置法適用証明・実施状況報告の処理

本申請・租税特別措置法適用証明・実施状況報告はそれぞれ、G ビズフォームポータルサイトから申請者がレコードを作成することで開始されます。省内担当者はメーリングリストに届く各手続きの提出通知を受け取ったら内容を確認し処理を実施します。
また、省内担当者は任意のタイミング（決裁に回すときなど）でレコードの内容を、様式に則った Word テンプレートに出力することができます。

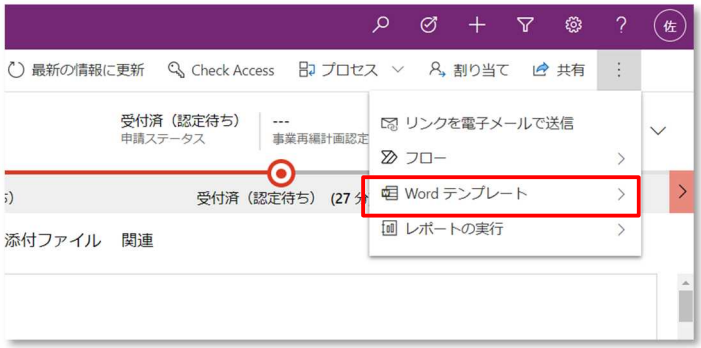
なお、実施状況報告に関しては決裁プロセスが存在せず、受付の時点で処理完了となります。

4-1.Word テンプレート（様式）への出力

作成されたレコードの入力内容を、定められた様式に則った Word テンプレートに出力する場合は、下記の手順にしたがいます。

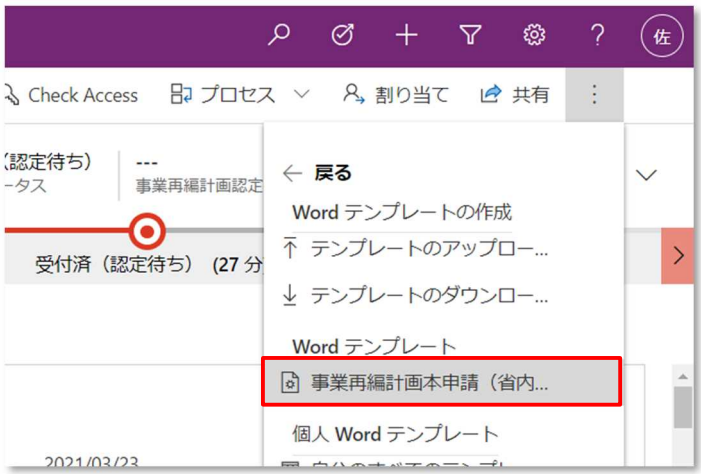
1. モデル駆動アプリを開き、メニューから処理を行う手続きの種別を選択する。レコードの一覧から出力する対象のレコードを開く。

2. 上部リボンメニューから「Word テンプレート」をクリックする。（ブラウザのサイズによって「:」にたたまれていることがあります。）



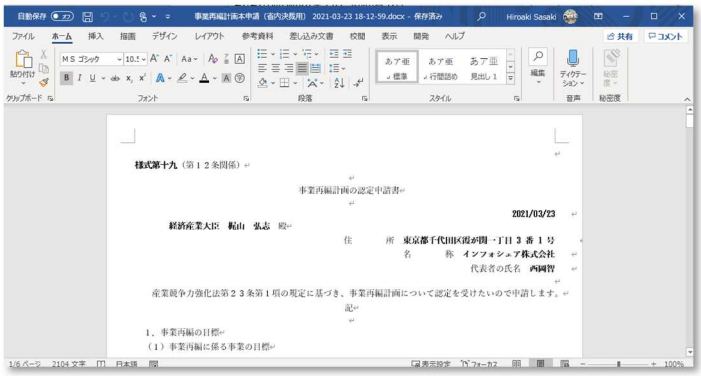
3. 「事業再編計画本申請（省内決裁用）」をクリックする。Word テンプレートがダウンロードされる。

   ※ここでは本申請の出力ですが、租税特別措置法適用証明や実施状況報告の場合はそれぞれ別の Word テンプレートが用意されています。



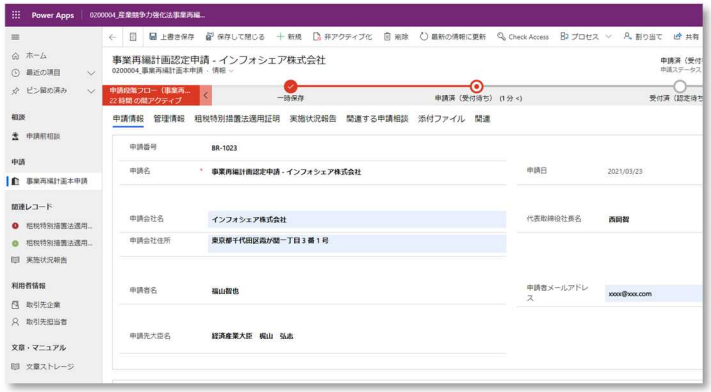
4. レコードの情報が様式に差し込み入力された形で Word テンプレートが出力される。

※必要に応じて編集も可能です。

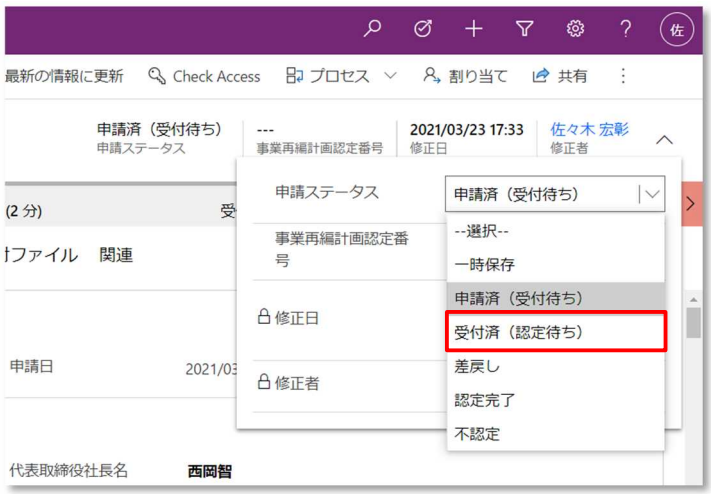


4-1.受付

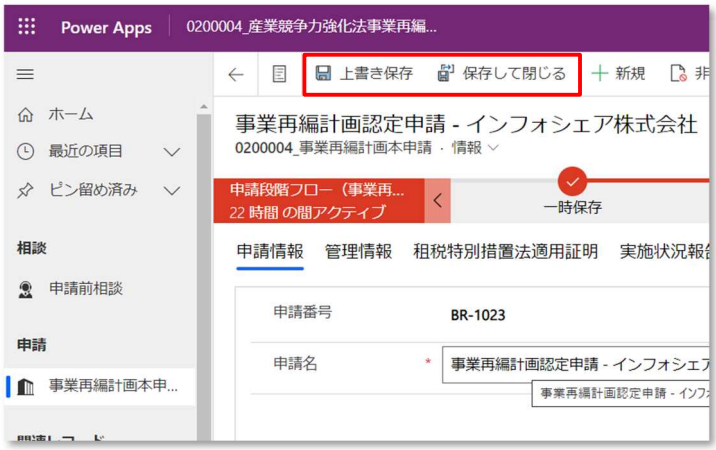
5. モデル駆動アプリを開き、メニューから処理を行う手続きの種別を選択する。レコードの一覧から処理の対象のレコードを開く。入力内容と添付ファイルに不備がないか確認する。
（添付ファイルは「添付ファイル」タブからダウンロードできます。）



6. 不備がないことが確認できたら、レコード右上の「修正者」の右にある「V」を開き、申請ステータスで「受付済（認定待ち）」を選択する。

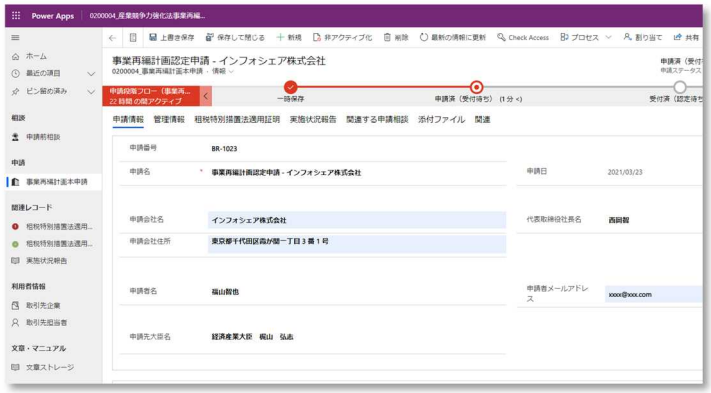


7. 「上書き保存」または「保存して閉じる」をクリックする。受付の完了を通知するメールが申請者宛に自動送付される。

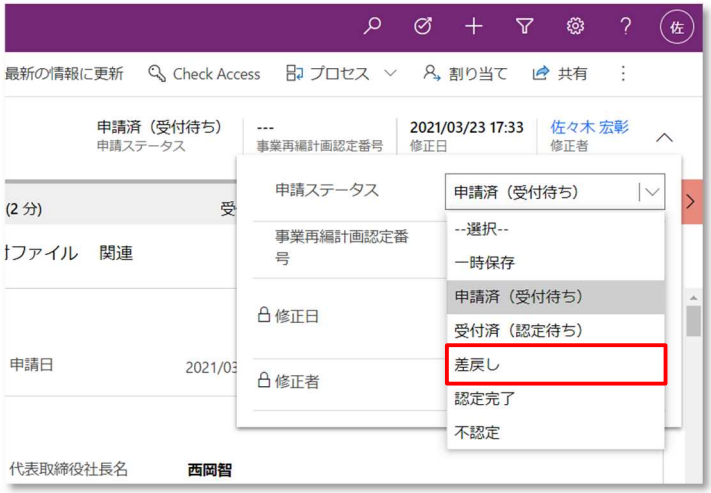


4-3.差戻し

5. モデル駆動アプリを開き、メニューから処理を行う手続きの種別を選択する。レコードの一覧から処理の対象のレコードを開く。入力内容と添付ファイルに不備がないか確認する。
（添付ファイルは「添付ファイル」タブからダウンロードできます。）

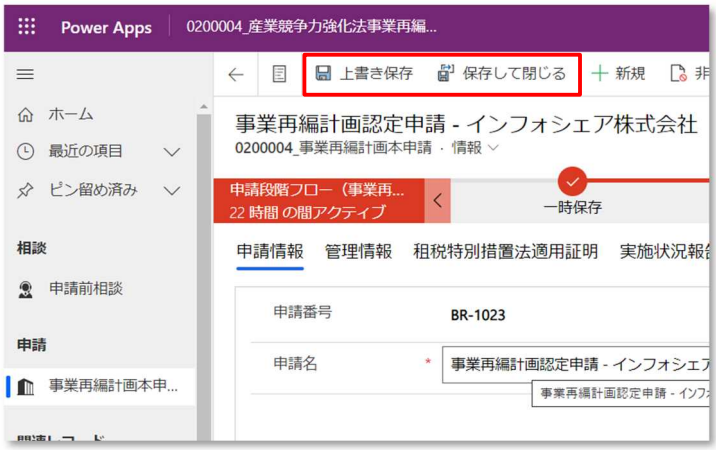


6. 不備が見つかり、レコードを申請者に差し戻すには、レコード右上の「修正者」の右にある「V」を開き、申請ステータスで「差戻し」を選択する。



7. 「上書き保存」または「保存して閉じる」をクリックする。差戻しを通知するメールが申請者宛に自動送付される。

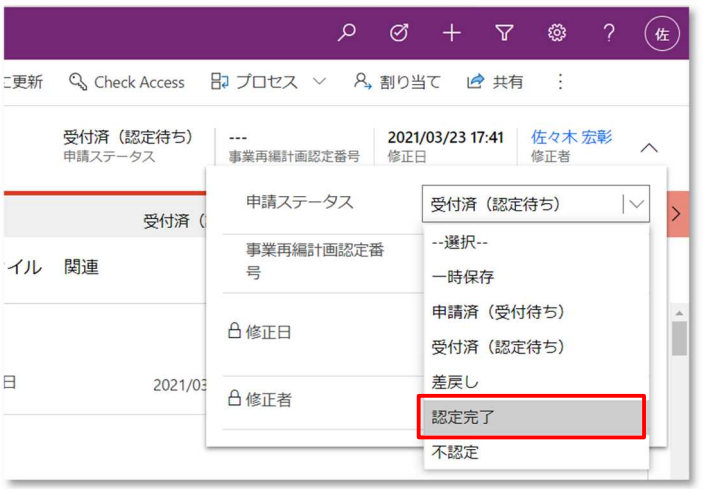
※しばらくたつとステータスが自動的に「一時保存」に変わりますが、システム上の正しい動作です。



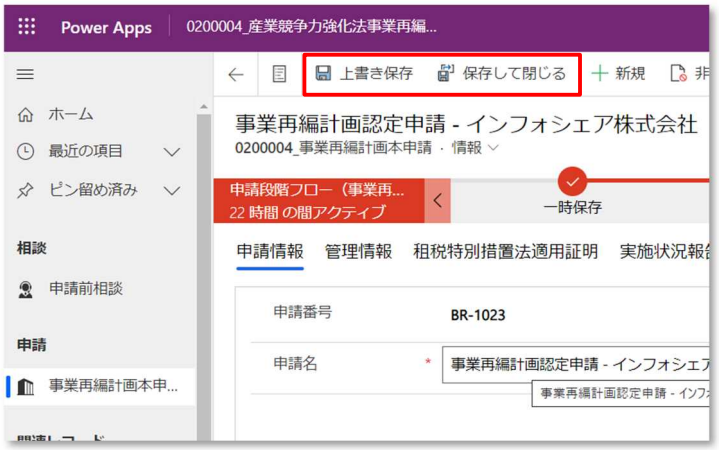
4-4.認定

8. モデル駆動アプリを開き、メニューから処理を行う手続きの種別を選択する。レコードの一覧から処理の対象のレコードを開く。

9. レコード右上の「修正者」の右にある「V」を開き、申請ステータスで「認定完了」を選択する。



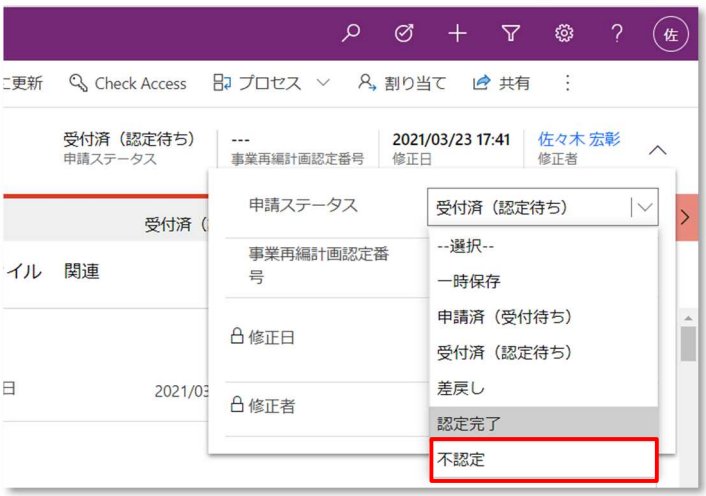
10. 「上書き保存」または「保存して閉じる」をクリックする。認定を通知するメールが申請者宛に自動送付される。



4-5.不認定

1. モデル駆動アプリを開き、メニューから処理を行う手続きの種別を選択する。レコードの一覧から処理の対象のレコードを開く。

2. レコード右上の「修正者」の右にある「V」を開き、申請ステータスで「不認定」を選択する。



3. 「上書き保存」または「保存して閉じる」をクリックする。不認定を通知するメールが申請者宛に自動送付される。

5. G ビズフォームへのファイルアップロード

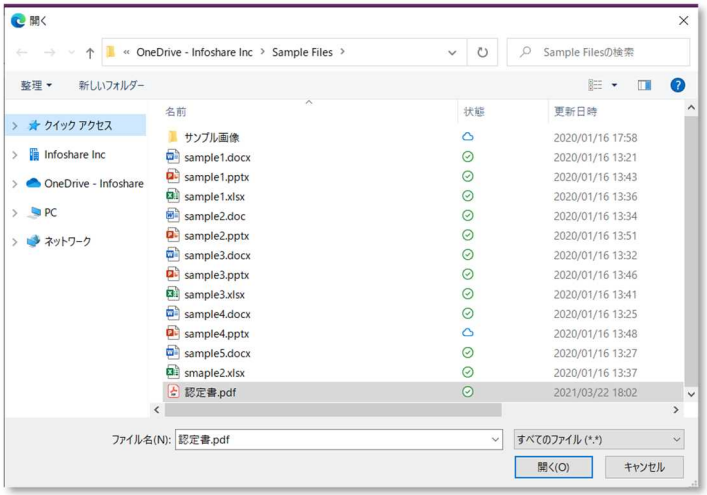
申請者に交付する認定書など、モデル駆動アプリを使用して G ビズフォームポータルサイトにファイルをアップロードする場合は下記の手順に従って実施します。

1. モデル駆動アプリを開き、メニューから処理を行う手続きの種別を選択する。レコードの一覧からファイルをアップロードする対象のレコードを開く。

2. 「添付ファイル」のタブを開く。

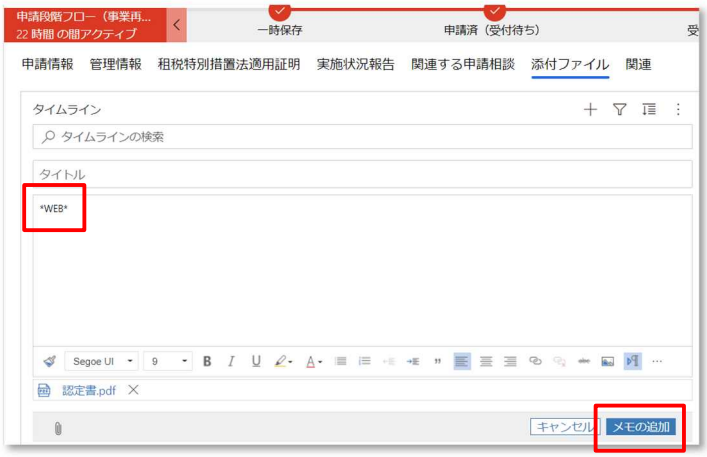
3. タイムラインのクリップアイコンをクリックする。

4. 添付ファイルするファイルを開く。

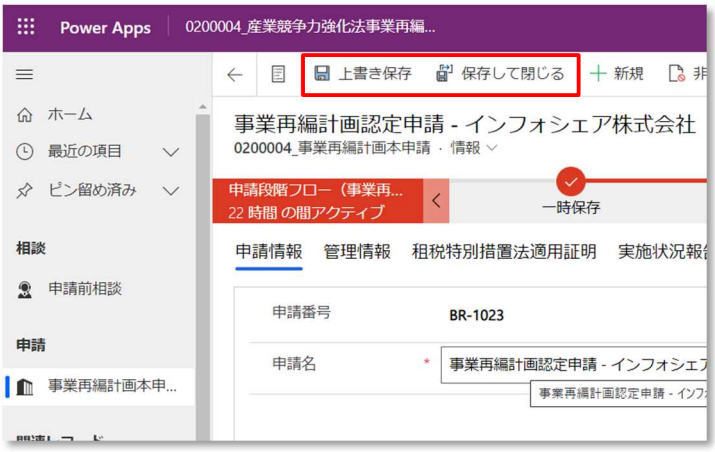


5. テキストボックスに「*WEB*」と入力し、「メモの追加」をクリックする。

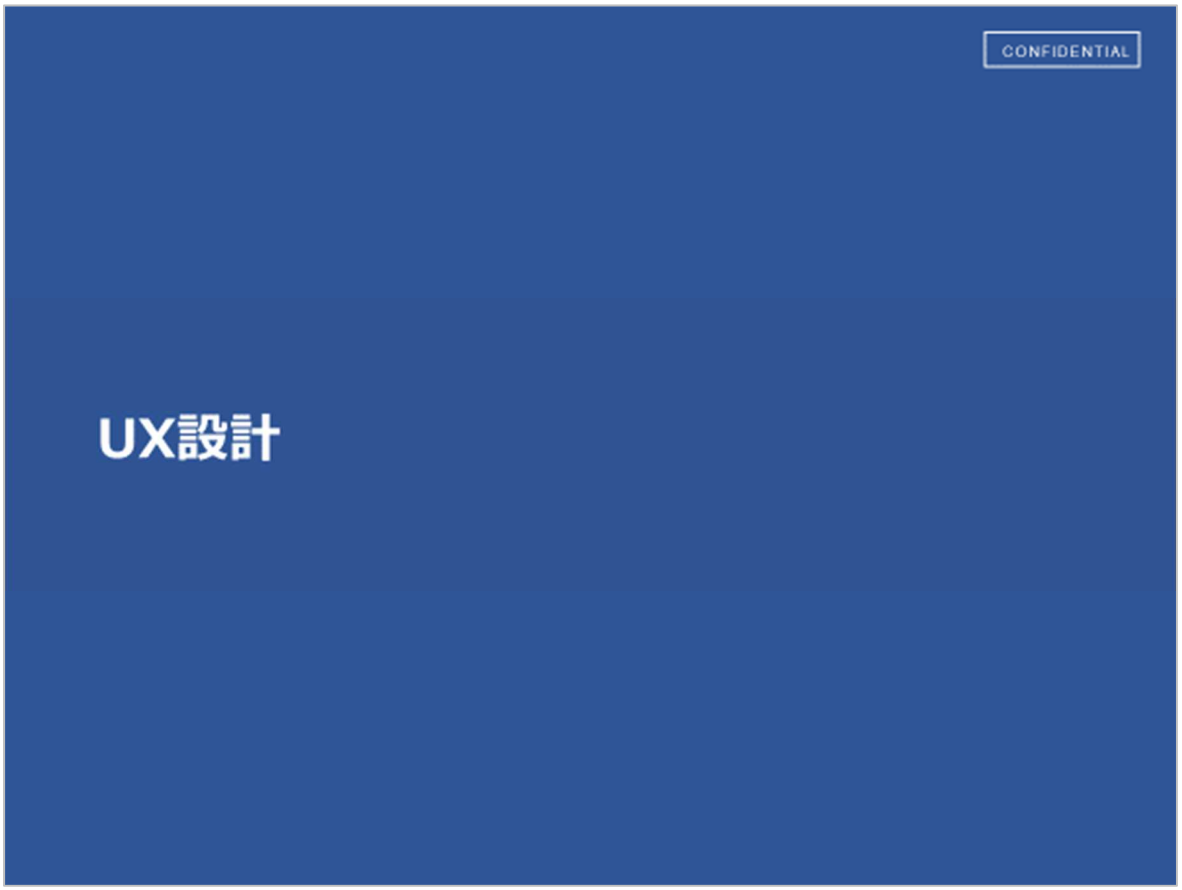
※「*WEB*」を入力しない場合、G ビズフォームポータルサイト上では申請者に対してファイルが表示されず、モデル駆動アプリのみで参照可能となります。



6. 「上書き保存」または「保存して閉じる」をクリックする。



１７. [参考資料 5] Ｇビズポータルデザインガイドライン



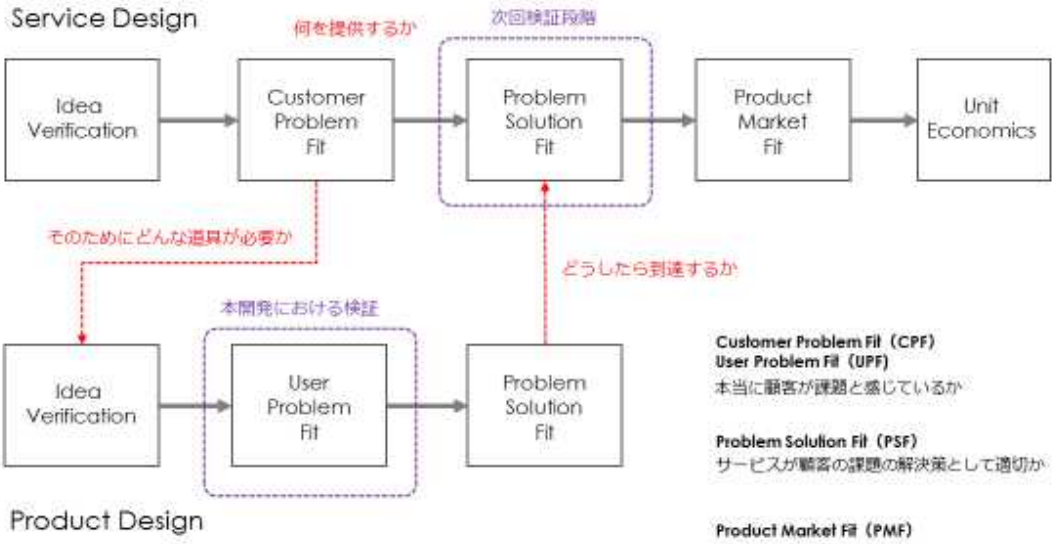
CONFIDENTIAL

UXデザインプロセスとPJ全体像

Service DesignとProduct Designの検証プロセス

CONFIDENTIAL

サービスが社会に浸透する（PMF達成)ために、ユーザーが何を求めているか、どのようなプロダクトが必要なのかを検証する段階を表しています。本開発は、サービスの初期段階の開発であり、CPFの検証のためアイデアを出し、ユーザーの課題を解決する（と予想される）プロダクトを設計することとなります。



Customer Problem Fit（CPF）
User Problem Fit（UPF）
本当に顧客が課題と感じているか

Problem Solution Fit（PSF）
サービスが顧客の課題の解決策として適切か

Product Market Fit（PMF）
サービスが参入しようとしている市場は最適か

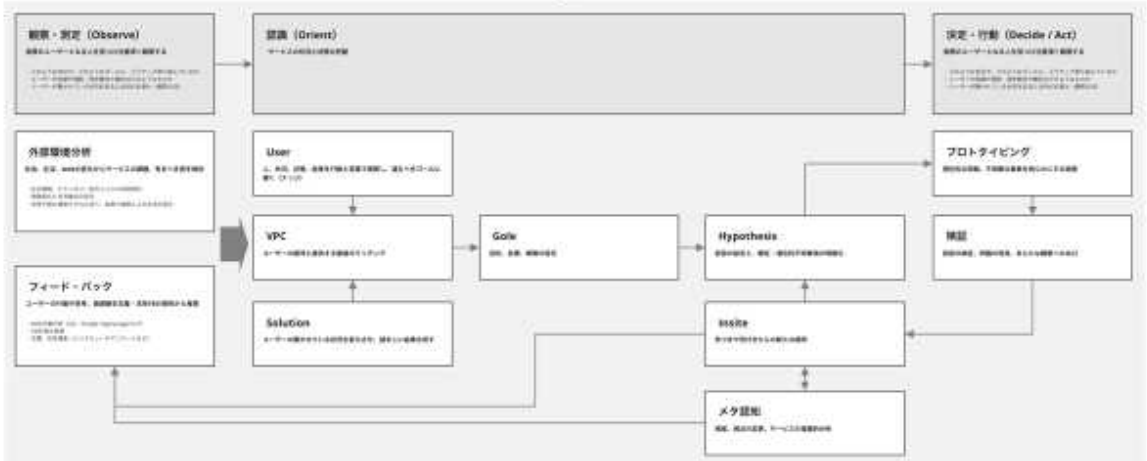
4

プロジェクト実行プロセス

CONFIDENTIAL

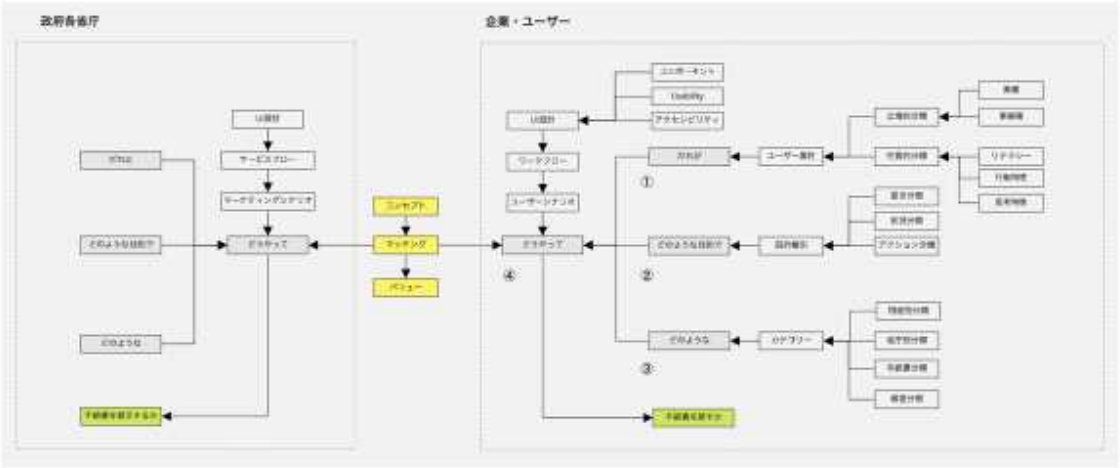
デザイン思考のプロセス

本開発では、ターゲットユーザーと問題の仮説を定義し、アイデアをプロトタイピングによって具体化することで、今後のサービスの提供価値検証っをする、データ取得基盤の最初の構築をおこないました



UX、UI全体像

CONFIDENTIAL



①～③がサービスロジックのコアとなる部分、④は実装や表示、ナビゲートなど仕掛けに該当する
①～③は検索カテゴリーとロジックの構築に必要な情報となります

①利用ユーザーのうち、対象となるターゲットを選定する→**UX設計**
②ユーザーが目的としていること、ニーズ（潜在）とウォンツ（顕在）と照らし合わせ選定する→**UX設計**
③ユーザーの目的の対象となる手続書の分類を選定する→**IA、システム設計**
④ユーザーが目的を達成するための仕掛けを設計する→**UI設計、システム設計**

サイトの有用性
SEO対策施策

CONFIDENTIAL

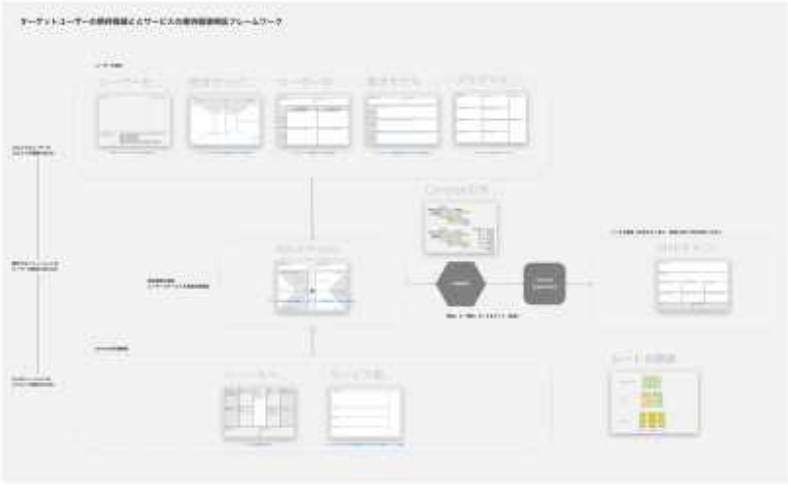
ターゲットユーザーと、問題抽出からの提供価値創造

ワークショップ

CONFIDENTIAL

サイトを利用するユーザー像と彼らが抱える問題を抽出するワークショップを有識者、関係者を募って行いました。
サービス提供価値とユーザーの期待価値を抽出するフレームワークを簡略化し、短い期間で皆さまの知見、アイデアを構造化することができました。

※基本フレームワークのテンプレートは別紙PDFにまとめました。次フェーズや新サービス企画時にご活用下さい。
Portal_UXStrategy_FW.pdf

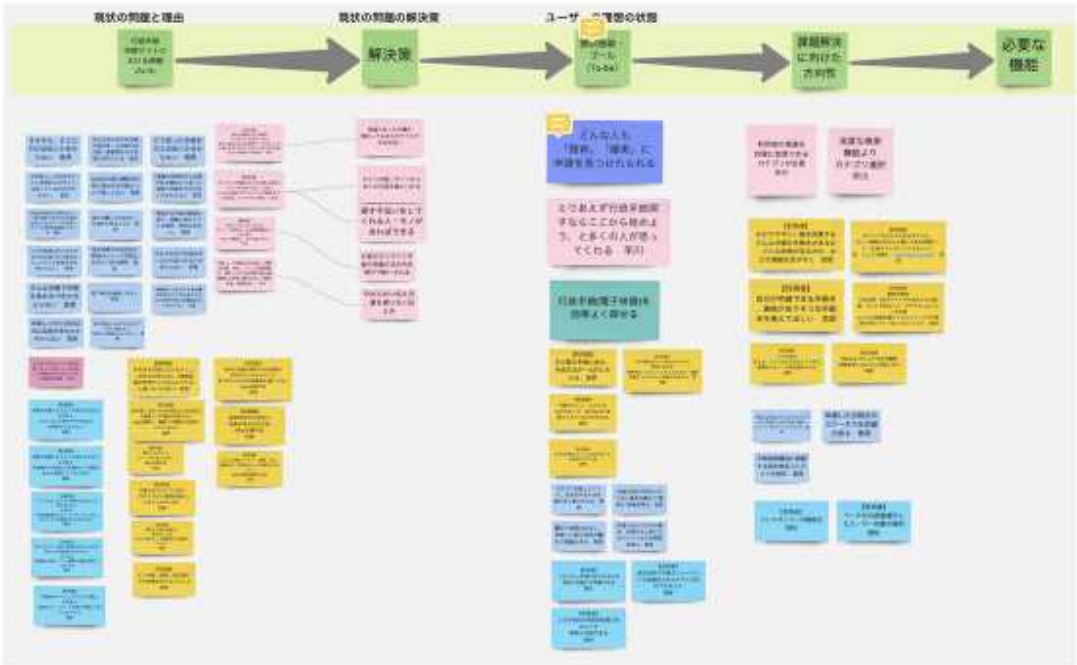


課題整理　ワークショップ　想定ユーザーと問題抽出

CONFIDENTIAL

課題整理　ワークショップ　価値・機能検討

CONFIDENTIAL



提供価値と課題のディスカッション

CONFIDENTIAL

「探す」に関連したご意見

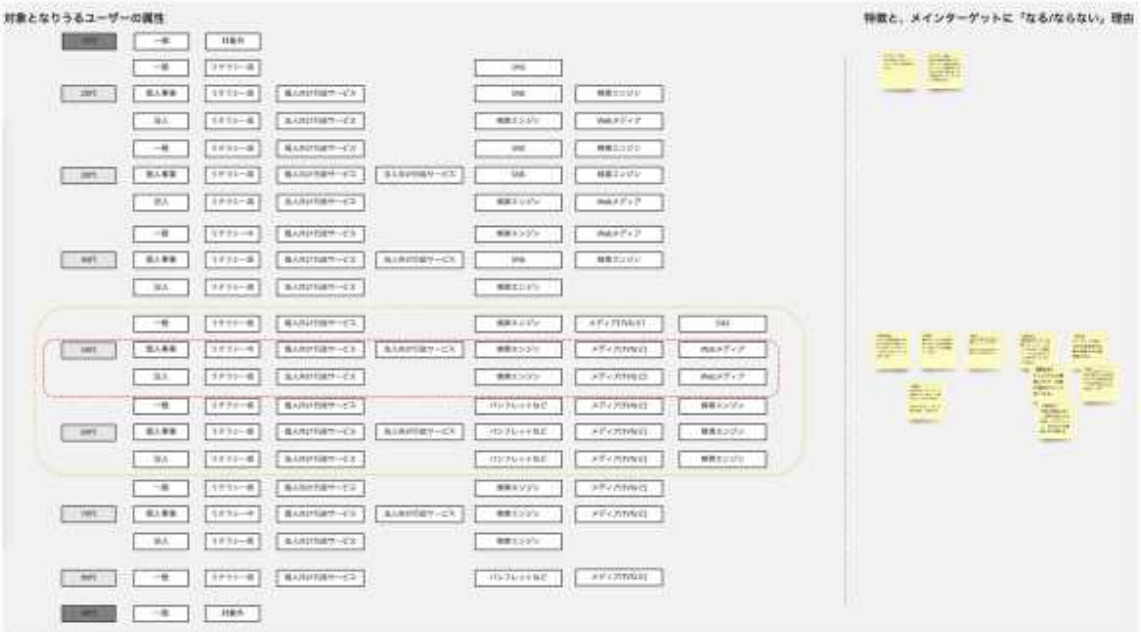
1. どんな人も「簡単」「確実」に申請をみつけられる
2. とりあえず行政手続き探すならここはら始めよう、と多くの人が思ってくれる
3. 行政手続き（電子申請）を効率よく探せる
4. まだ紙の申請を含め、申請方法が一元的にわかる
5. その手続きをして何がうれしいか簡単にわかる
   （補助金だったらいくらもらえるのか、後援名義だったらどんな効果があるのかなど）
6. 行政のメニューにどんなものがあって、自分はどれをうけられそうなのかわかる
7. わざわざ探さなくても自分にあった手続きに気づける
8. カテゴリを絞っていくと自分がやるべき手続きが全て表示される

「手続き自体」に関連したご意見

1. 手続の流れや気を付けておく事項を纏めて“簡単に”把握できる
2. 纏めて申請できるし、申請した後の状況がまとめて把握できる
3. 申請しないとダメな理由、申請すると得られるメリットなどが理解できる
4. どのくらい手間がかかるのか、事前に把握でき準備できる
5. 政府全体で手続きフォーマットの共通化とカスタマイズ化ができること
6. 入力や添付の手間が削減できることを事前に把握できる

想定ターゲットユーザー抽出

CONFIDENTIAL



ディスカッションで抽出した、データをもとに、ユーザーの属性をカテゴライズして、ターゲットとなるユーザー像を抽出しました。

ターゲットユーザー仮説

CONFIDENTIAL

年代、ITリテラシー、情報検索の傾向等を元に今回のポータルのターゲット像を検討しました。
50~60代で、経営に携わっており、申請や情報を活用しなければならないが、目的を導くための情報（検索キーワードなど）が閃かず、またメディアもアナログ媒体を主に利用しているため、取得スピードやキッカケがつかめない。

・50代：管理職（経営者含む）ちょっとだけ使える
・60代：管理職（経営者含む）　Webで情報収集しない
・流入：検索エンジン、少：ビジネスメディア
・主な情報収集先：ニュース、新聞（従来メディア）
・SNS利用：FB、Line、利用していない（FBとLineの利用可能性は有る）
- 企業ユーザーの場合には実際の申請手続きについてはもっと若い部下が行う事を想定。
- 個人事業主に近い中小企業の経営者では自分自身で対応するもしくは外注する事を想定

上記の両者とも、下記の理由で本サイトを利用すると想定しています。
1．手続きの資料をさがして指示をする。
2．手続きがあることに気が付き、申請を行うもしくは指示をする。

ターゲットユーザーのプラグマティックペルソナ１

CONFIDENTIAL

氏名：田中 太郎
年齢：55歳、既婚
- 大卒
- 入社32年目
- 中堅製造業　業務執行役員
- 労働時間（フルタイムで残業多め）

年収：1000万円
居住地域：神奈川県横浜市
使用デバイス：会社支給でノートPC、iPhone　SEを使用。自宅でもノートPCがある
ITリテラシー：中

概要情報
上位管理職として経営に携わっており、申請や情報を活用しなければならないが、目的を導くための情報（検索キーワードなど）が閃かず、またメディアもアナログ媒体を主に利用しているため、取得スピードやキッカケがつかめない。
- PCを一般的な事務作業レベルで使える。メール、ブラウザ、Officeアプリをメインで使用
- 情報収集手段：ビジネスメディア、インターネット検索も多少使用
- 主な情報収集先：ニュース、新聞（従来メディア）Line News、Facebook
- SNS利用：Facebook、Line

ターゲットユーザーのプラグマティックペルソナ２

CONFIDENTIAL

氏名：佐藤 次郎
年齢：61歳、既婚

- 高卒
- 先代からの41歳のときに中小企業を引継ぎ、100人規模の会社を経営20年目
- 小規模製造業　代表取締役社長
- 労働時間（フルタイムで残業少なめ）

年収：1500万円
居住地域：東京都大田区
使用デバイス：会社でデスクトップPCを利用、ガラケーを使用。
（孫を見るためにタブレットももっているがふだんはほぼ使用していない）
ITリテラシー：低

概要情報

中小企業の経営に長年携わっている代表取締役社長。後継者問題に悩む。各種申請を行う場合には主に紙で処理しており、必要な情報は契約している会計士や中小企業診断士から情報をもらう程度。メディアもアナログ媒体を主に利用している。Webは案内されたものを見る程度

- PCを仕事の一部で使うがWebでの情報収集はあまり行わない。
  Officeアプリ、ブラウザをたまに利用する。メールは読む事中心であまり書かない。
- 情報収集手段：ビジネスメディア(従来メディア)
- 主な情報収集先：ニュース、新聞（従来メディア）
- SNS利用：利用していない

ターゲットユーザーから抽出した提供価値の仮説

CONFIDENTIAL

[メインターゲットとなるユーザーの方向性]

ITリテラシーは「低」から「中」程度
自分でネット検索してみつけづらく検索したものが該当するか判断できない方

1番PC、2番スマホを使う社会人世代。
性別での区別なし
主に検索エンジンを使う世代だが一部SNS世代も含まれる

主に企業内の社員もしくは事業を営んでいるビジネスユーザーまたは特定条件下での個人

[全体コンセプトとしての方向性]

行政手続きの難易度を下げる
手続を統一し、分かりやすく「申請・届出・登録」しやすくする

行政手続きの利用率を上げる
手続きに気が付き、正しく認識してもらう

行政手続きの価値や必要性を理解してもらう

[上記コンセプトを踏まえてポータルとして提供可能な価値]

「みつからない」と「みわけられない」の課題を解決

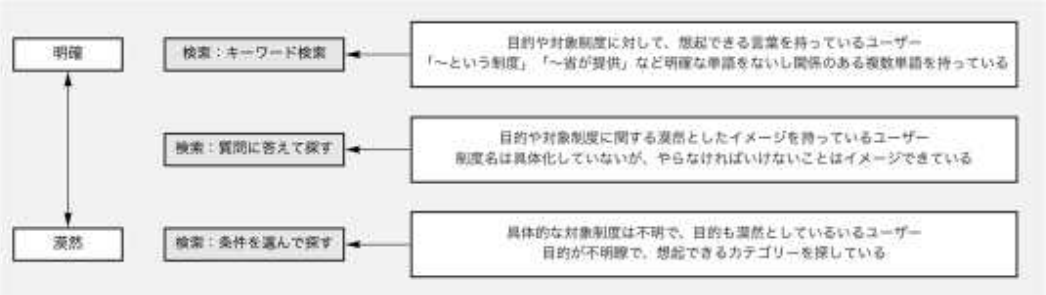
「能動的に探せる」と自分から気が付く」事を促進

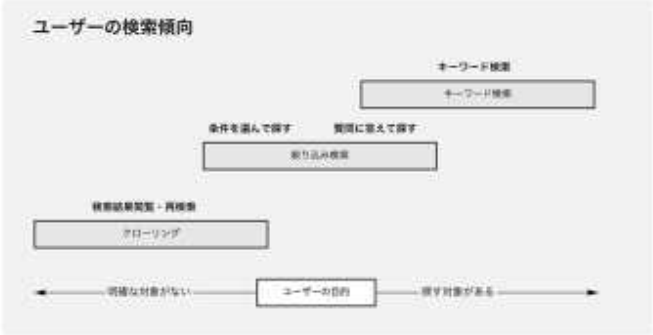
CONFIDENTIAL

ターゲットユーザーの思考と、検索活動

ターゲットユーザーの検索活動傾向

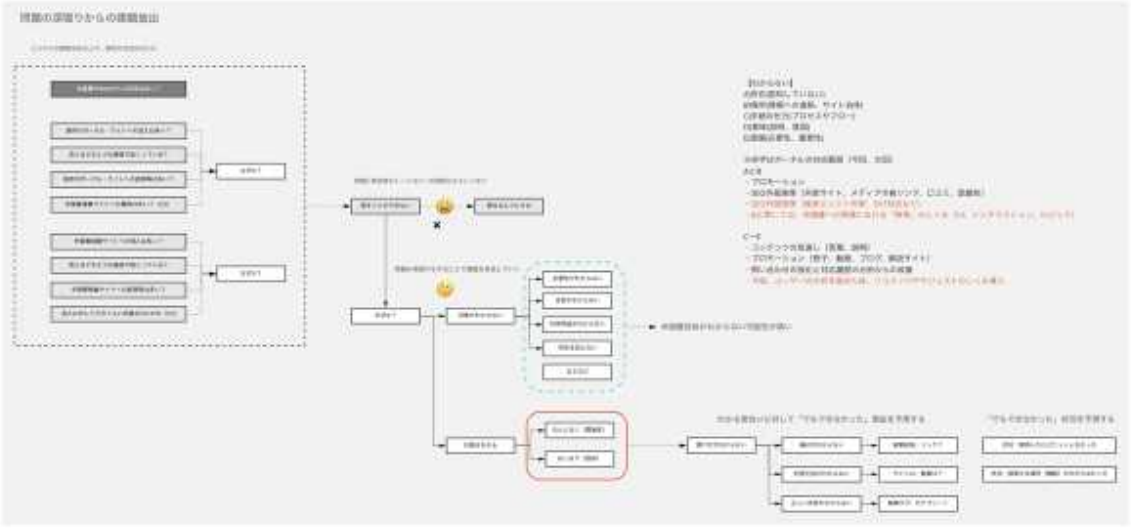
CONFIDENTIAL





課題のための問題抽出

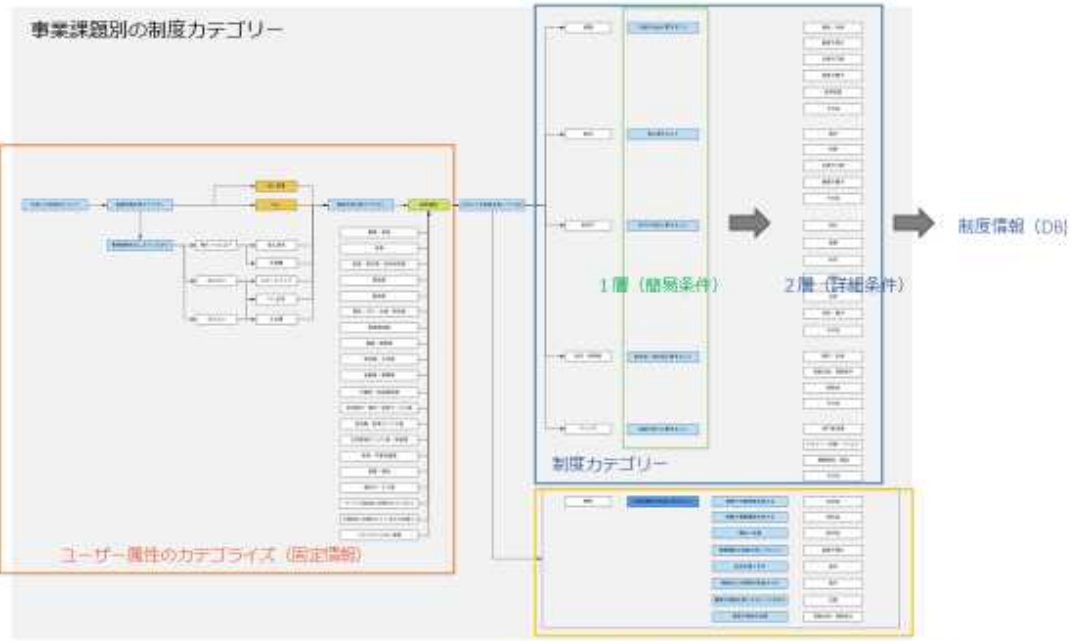
CONFIDENTIAL



ユーザー属性と制度情報カテゴリーの構造化１

CONFIDENTIAL

ターゲットユーザーの「探しやすさ」のモチベーション（敷居）を下げる工夫のため、制度情報を大きなカテゴリ単位でまとめていきました。
日常の業務活動や生活で想起しやすいヒントとなる分類項目を設計しました。



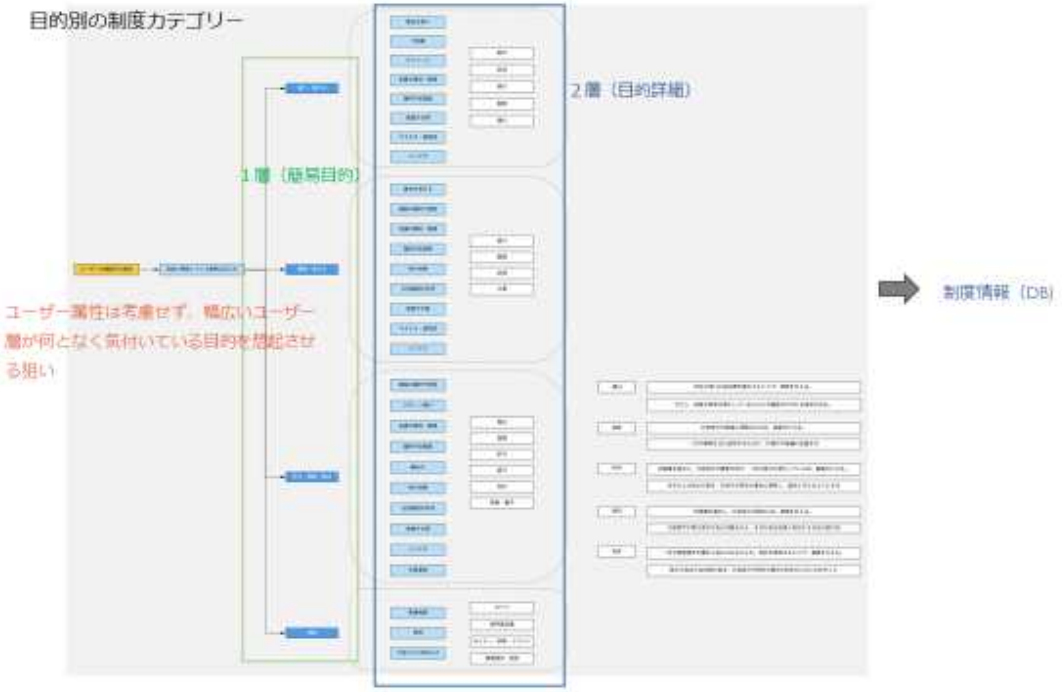
妊婦や病気など緊急性の高い条件（別枠としてカテゴライズ）

ユーザー属性と制度情報カテゴリーの構造化２

CONFIDENTIAL

また事業の活動ではなく、もう少しフランクに、事業における悩みやニーズ、顕著化しつつ有る課題を想起するような、大きな分類で検索を促す仕組みを考えました。こちらは、目的が顕著化していない場合のキーワード検索に似ています。

目的別の制度カテゴリー



ユーザー属性と制度情報カテゴリーの構造化２

CONFIDENTIAL

これら２種のカテゴリー分類を、わかりやすい（理解しやすいと想定する）項目で分類し検索フィルターの設計をしました。
検索フィルタのタイトルも「質問に答えてさがす」、「条件を選んでさがす」というわかりやすいエントリーとしました。

事業課題別の制度検索フィルター

目的別の制度検索フィルター

CONFIDENTIAL

目的と目標の設計

目標設定　KGI、KPI、KFS

CONFIDENTIAL

KGI

「ユーザーに必要な制度が見つかること」

条件

制度情報が記載されている外部サイトへ、ユーザーが推移した

KGIを実現するためのKPI（行動推移順）

1. gBizPortalホーム画面への流入数・閲覧数
   KSF：外部施策の強化（SEO,チャネル拡充など）

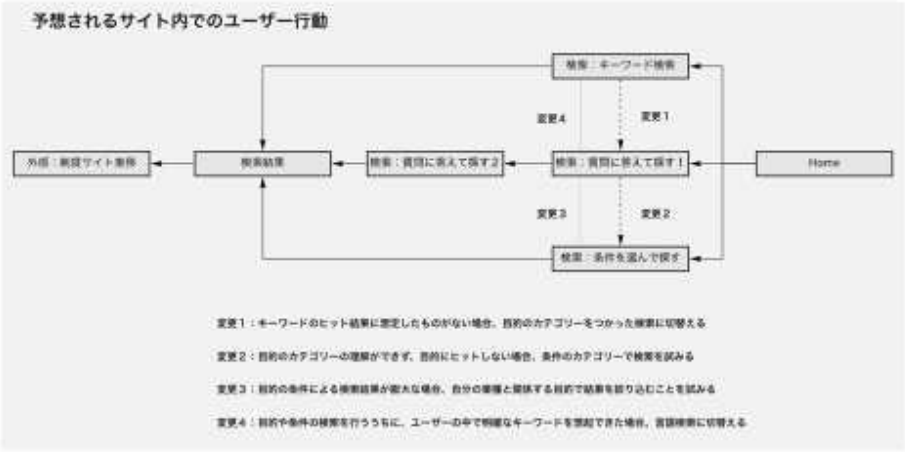
2. 各種検索条件ページへの遷移数・閲覧数
   KSF：各種検索方法の選択、ページ表示（到達）

3. 各種検索結果ページへの遷移数・閲覧数
   KSF：各種検索実行の選択、ページ表示（到達）

4. 外部サイトへのリンクボタンのClick（イベント）Y/N
   KSF：外部リンクボタンのClick

サイト利用において予想されるユーザーの行動

CONFIDENTIAL



サイトストラクチャを構築し　サイト内でのユーザーの検索行動を予測しました。
本サイトの目的は「ユーザーが必要な制度情報を見つける」ことであるため、どのようにナビゲートをするか（改修）、どのように行動を理解するかの（分析）のサイクルをまわす必要があります

OODAループによる提供価値の向上

CONFIDENTIAL

Observe 観察

社会や環境の変化、ユーザーのニーズ、サイトの利用動向から、サイトの現在の状況を観察する
GAから定量的なユーザー行動の結果を収集し、GFから定性的なユーザーの思考、意図のデータを収集する。

Orient 状況判断

定期的なユーザー調査などを行い得た知見から、ユーザの課題を抽出し、ユーザーのニーズを予測する。現在の状況を第三者的な視点と、ユーザー自身の視点をつかいながら、できるだけ性格に把握し、問題の抽出から課題を検討、解決策のアイデアを出す。

Decide 意志決定

社会や環境の変化、ユーザーのニーズ、サイトの利用動向から、サイト改修のプランを設計する。
ボトルネックの解消に必用なのが、体験の改修なのか機能の改修または追加なのか、現在の状況と比較して、最も効果がある解決策はなにかを検討する。

ACTION 行動

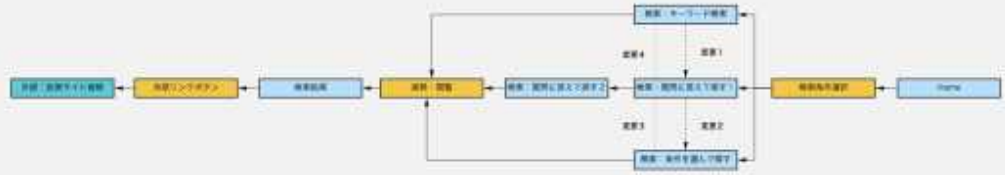
もっとも効果のあると予想した解決策に必要な、体験の仕掛け、機能をサイトに実装すると同時に、効果計測の設計と、情報収集用のセンサーを配置する（GAであればイベントや計測タグと管理コンソールの計測設定を行う）

KGI、KPI、 KSF構造

CONFIDENTIAL

KGIを達成するためのKPIとそれぞれのKFSを設定

予想されるサイト内でのユーザー行動



ユーザー行動から導出した目標設定

※現在は比較となる過去の目標値、実績値がないため、KPIの仮説目標値の検討が必要です

２つの計測データ基盤

CONFIDENTIAL

ユーザーの日常（日、月、年間）のサイト利用体験を以下の２つのデータの相関から紐解き、
サイトを改善していきます。
GAのデータ取得は１週間に１回確認で月ごとにサマリーをまとめると良いと思われます。

Google AnalyticsによるUser Tracking

サイトにおけるユーザーの体験を、行動から評価する、定量的な指標
直帰率、離脱率、滞在時間など

What happened ?

ご意見・問い合わせフォーム（Google Form）

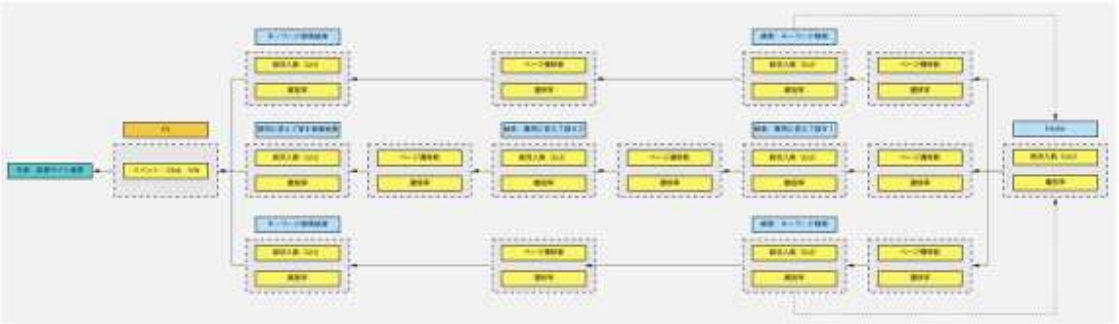
サイトにおけるユーザーの体験結果を、感情から評価する、定性的な指標
満足度や苦労、不満など

Why ?

計測データ２つは、改善の糸口を探るため、改善データ２つは、改善の具体案を考えるためです。
※改善に関しては、この他にABテスト、ヒートマップ、ユーザビリティテストを提案します。

KGI、KPIを実現するために収集する主要データ構造

CONFIDENTIAL



UUが１**セッション**で、どのページから（**被遷移数**）どのページ（**遷移数**）に移動したかを、**PV**と合わせて分析することで、サイト内でのユーザーの活動を予測します

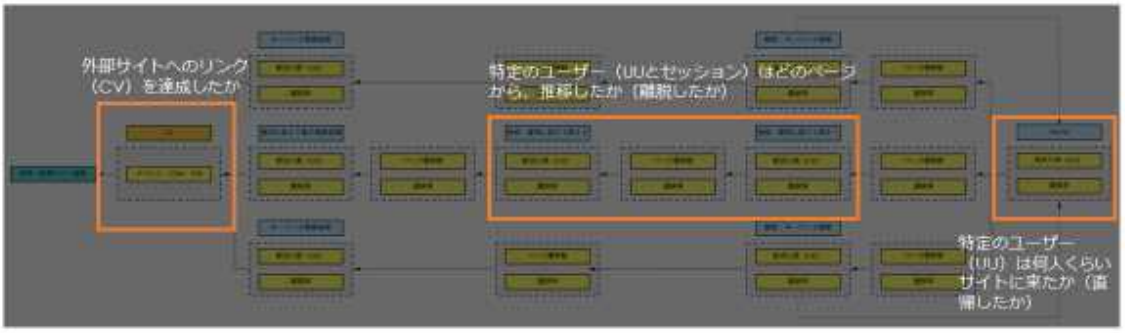
※遷移率（せんいりつ）とは、サイトの、あるページを閲覧し、その後サイトを離脱せずに別のページへ移動した割合のことです。

・何人のユーザーがサイト（ランディングページから）、流入し
・どの程度、他のページへ遷移させ、
・最終的にどの程度、コンバージョンをアシストしたか

上記を計測し、離脱したページ、離脱の理由を予測して改善していきます。

基本的な分析の仕組み

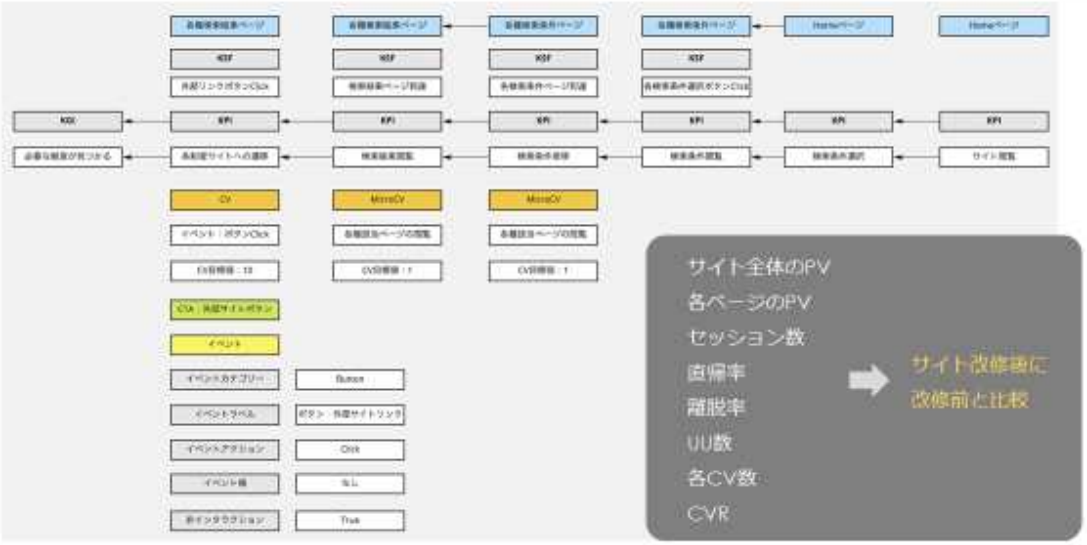
CONFIDENTIAL



本サイトは、現段階では検索サイトであることから、サイト全体の離脱率が高い傾向になります。
これは、「検索作業を行い、外部サイトに移動すること」が本サイトの役割であるためです。
そのため、個別ページの推移と離脱のトラッキングが、重要な指標となります。
また、検索結果ページ表示後は（条件が達成された場合）離脱となりますので、成果指標（CV）を外部サイトへのリンクボタンに設定します。これにより、どの経路をたどって検索結果にたどり着き、外部サイトへ移行したか（またはしなかったか）が、予測できるようになります。
サイト内での移動（ページ間の流入と推移）状況と、離脱ポイントを分析することにより、改善の課題を発見していく取組となります。
個々のページ、特に検索条件のチェックをイベントとして取得することにより、詳細な分析が可能となりますが、分析運用が複雑になるため、担当者のリソース確保や分析手法の学習など事前の戦略が必要なため、スモール＆クイックスタートではじめられるよう設計しました。

CVとCVR

CONFIDENTIAL



本サイトでは、CVとCVを達成するための要因となるMicro CVを上記のように設定しました。
サイト全体および各ページのPV数、UU数とセッション数、各CV獲得数及びCVRを比較していくことで、サイトの改善状況を把握することができます。
CVRの計算式は以下のとうりです。
CVR(%)= WebサイトでCVしたユーザー数 ÷ Webサイトに流入したユーザー数 × 100

ユーザー満足度３つの指標

CONFIDENTIAL

Google Formの３つの設問は、ユーザーのサービス満足度の変化を測定するものです。

CSAT（Customer Satisfaction Score：顧客満足度）

サービスがユーザーに「喜ばれているのか」、「利便を感じているか」を測定する指標
継続的に尋ねることで、満足度の変化を測定し、具体的な改善のきっかけにする

CES（Customer Effort Score：顧客努力指標）

ユーザーが目的を達成するためにどれ程の労力がかかったかを測定する指標
達成するまでの、過程の改善を行う

Why？

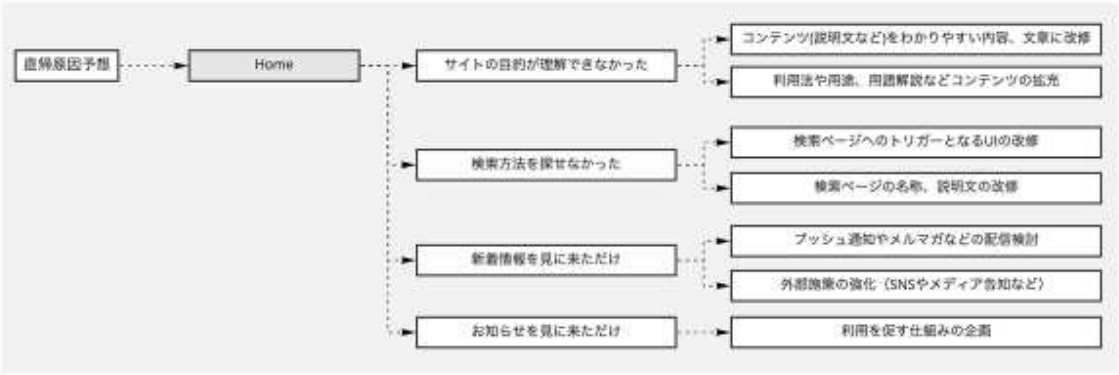
GCR（Goal Completion Rate：目標達成率）

ユーザーの目的やニーズを満たしているかを測定し改善するための指標
本来望んでいる目的の想起や、目的を達成する仕組みの改善を行う

How？

予想されるユーザーの直帰原因

CONFIDENTIAL

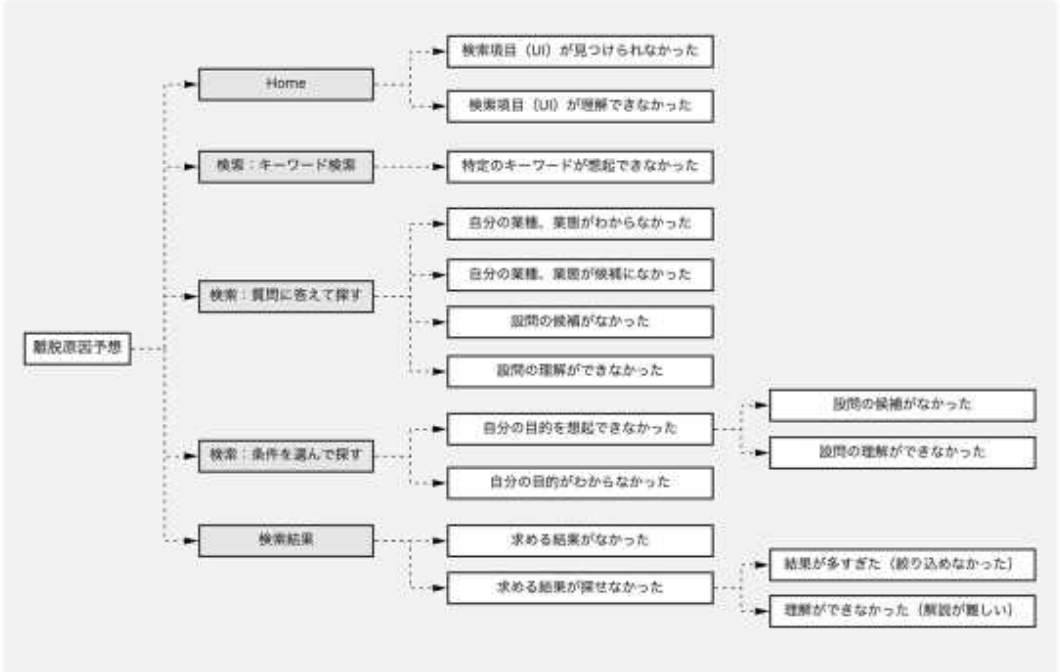


ユーザーのランディングページからの直帰を防ぐために、なにが原因かを予想します
この他にも、「ページの読み込み速度が遅い」ことも考えられます。操作開始時間が1秒のサイトが3秒になると、ページビューが22%低下、コンバージョン率は38%低下、直帰率は50%も上昇するというデータもあります。
モバイル機器での見づらさも、操作の為難さも直帰の原因につながると考えられます。
どのようなユーザー（UU)が、どのような機器で、何回くらいサイトにアクセス（セッション）したか、その結果は他のページへ遷移したのか、直帰したのかをGAのデータから読み取ることが可能です。

予想されるユーザーの離脱原因

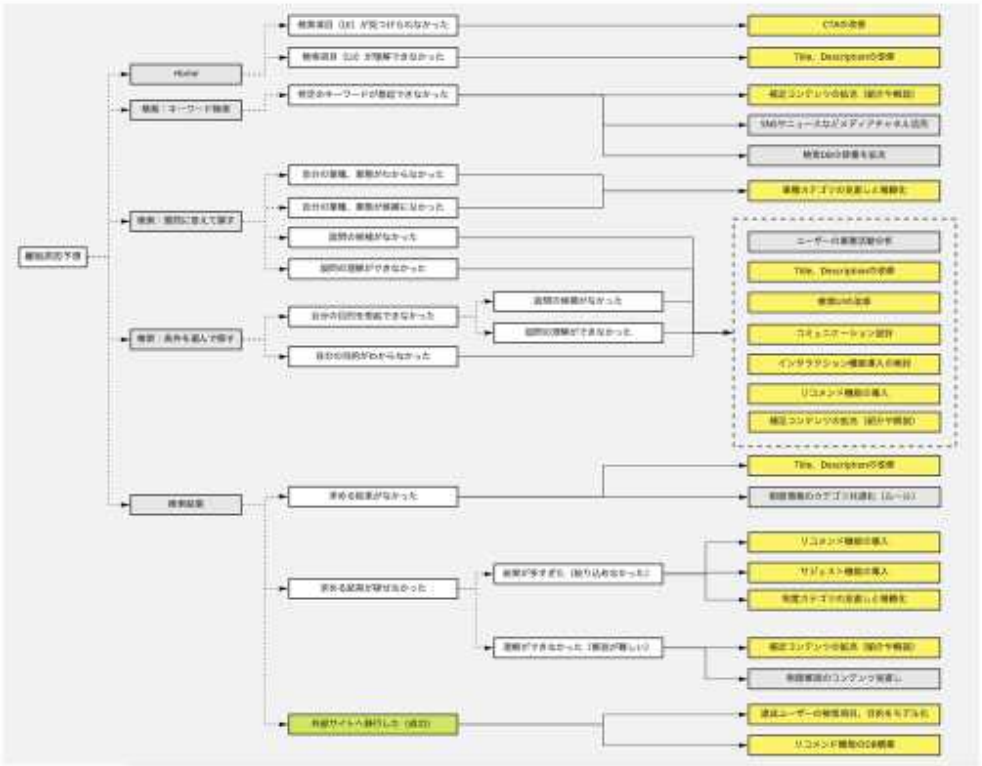
CONFIDENTIAL

ユーザーのページ離脱を防ぐために、なにが原因かを予想します



予想されるユーザーの離脱原因の対策

CONFIDENTIAL



CONFIDENTIAL

Google Formによる、定性的データ収集

設問項目設計

ご意見・お問合わせ

CONFIDENTIAL

「皆さまのご意見・お問合わせを、ご記載下さい」
皆さまのご意見、お問い合わせ内容をもとに、サイトの使いやすさ、見やすさの改善を行ってまいります。サイトのご利用目的、ご利用状況も合わせて、ご記載いただけると助かります。
ご協力をお願い申し上げます。

問い合わせ内容記載
記入：必須
UI：テキストボックス
文言：「お問い合わせ内容を、記入して下さい」

ご意見内容記載
記入：任意
UI：テキストボックス
文言：「サイトに関するご意見やご感想を、記入して下さい」

アンケート　CSAT

CONFIDENTIAL

顧客満足度（CSAT）
記入：任意
UI：ラジオボタン　横列５段階
文言：このサイトのご利用に、ご満足いただけましたか？
選択１：とても満足
選択２：やや満足
選択３：ふつう
選択４：やや不満
選択５：すごく不満

CSAT T理由
記入：任意
UI：テキストボックス
文言：満足度を決めた理由をお聞かせ下さい

アンケート　CES

CONFIDENTIAL

CES（Customer Effort Score：顧客努力指標）
記入：任意
UI：ラジオボタン　横列７列
文言：手続きや制度の情報は簡単に手間なく見つかりましたか？
選択１：全く手間はなかった
選択２：手間はなかった
選択３：あまり手間はなかった
選択４：ふつう、どちらでもない
選択５：多少の手間を感じた
選択６：手間があった
選択７：非常に大変だった

CES理由
記入：任意
UI：テキストボックス
文言：上記の結果に至った理由をお聞かせ下さい

アンケート　GCR

CONFIDENTIAL

GCR（目標達成率）
記入：任意
UI：ラジオボタン　横列３列（見つかった、見つけられたが不十分だった、見つからなかった）
文言：お探しの制度や手続きは見つかりましたか

「見つからなかった」のユーザーの理由
記入：任意
UI：チェックボックス、テキストボックス
文言：「見つからなかった」と回答された方は、お手数ですが理由を教えて下さい（複数回答可）
チェック項目１：どこから検索するのかよくわからなかった
チェック項目２：自分の業種が選択肢になかった
チェック項目３：目的や困りごとが選択肢になかった
チェック項目４：自分が何を探しているのかわからなかった
チェック項目５：検索結果の説明が難しく理解できなかった
チェック項目６：検索する単語（キーワード）を思いつかなかった
チェック項目７：その他
その他を選択された方は、理由をご記入ください（テキストボックス）

CONFIDENTIAL

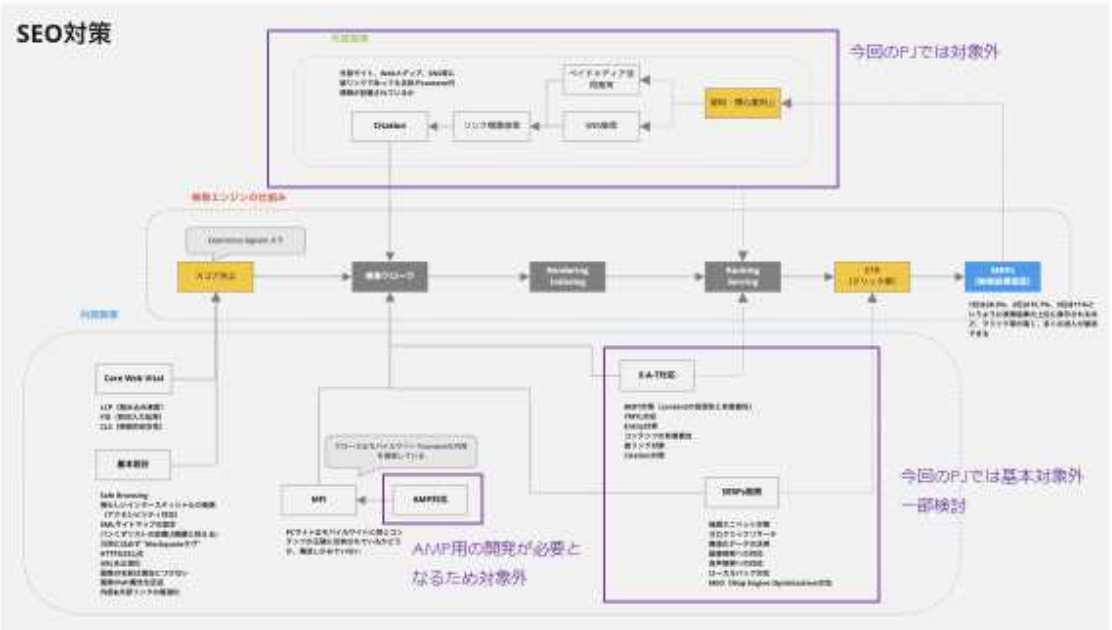
サイトの利用体験をより良いものとする機能的施策

SEO対策とアクセシビリティ対応方針

課題整理　SEO対策

CONFIDENTIAL

SEO対策



4つのSEO戦略

CONFIDENTIAL

本開発にあたって、以下のSEOの対策を行いました（赤枠）

テクニカルSEO
主にクローラビリティ・インデキサビリティ・アクセシビリティを改善する。
一般ユーザーが目にすることはない箇所を最適化。

コンテンツ
コンテンツがなければSEOの上位表示は見込めない。対策したいキーワードの検索意図を満たしたコンテンツ作りが必要。昨今は独自性、専門性、権威性、信頼性が重要視される傾向にあり、網羅性を高めた記事では上位表示できなくなっている。

リンク構築（被リンク）
他サイトからの被リンクをGoogleなど検索エンジンは評価する。サイトにどうやって被リンクを集めるかは重要な戦略。
被リンク数が多いことが重要なのではなく、ドメインパワーが大きいサイトからの被リンクが効果的。

トラフィック分析
SEOで上位表示することができても、ビジネス成果が生まれなければ意味がない。ビジネス成果に繋がるキーワードを発掘する。またSEO経由の直帰率や検索インテント、KWの順位測定などPDCAサイクルを回しながら最適化を行う。

SEOの対応

CONFIDENTIAL

【テクニカルSEO】
Core Web Vitalの対応（サーチエンジンがクローリングの際にサイトのUXを評価する重要指標）
LCP：0.44s（良好値：2.5s未満）、FID：2.05ms（良好値：100ms未満）、CLS：0.001（良好値：0.1未満）

MFIの対応（モバイルファーストインデックス）
開発時点のサイトでは、計測ができないため、公開後の計測が必要となるが以下の基準をクリアしていると予想する
・スマートフォン対応→リキッドデザインを使ったレスポンシブ対応
・サイト情報、コンテンツ情報の統一及び、モバイルデバイス向けのUI設計
・構造化マークアップ記述
・モバイルでの表示データ量および表示速度

基本設計
煩わしいインタースティシャルの削除　インタースティシャルに該当する機能実装をしない
パンくずリストの設置またパンくずリストを最大3階層までとする
Https化の対応
URLの正規化対応
画像の名称統一及びalt属性の記述

【コンテンツSEO】
コンテン

ユーザビリティ・アクセシビリティ

CONFIDENTIAL

本開発にあたって、以下のアクセシビリティ項目を検討し対策を行いました

・Webアクセシビリティ JIS X 8341-3の対応規準（A、AA）
・可読性（文章の読みやすさ）、視認性（文字の認識のしやすさ）、判読性（誤読のしにくさ）に優れたフォントの選定
・アイコンとラベルと併記（意味の学習）
・色のルールおよびCUD（カラーユニバーサルデザイン）の利用
・視線誘導を意識したレイアウトおよびゾーニング（配置領域の設計）
・情報構造のシンプル化（多層構造は三階層以下）
・情報、選択肢のグルーピング（マジックナンバー　7±2または4±1を指標とする）
・グローバルナビゲーションの位置の検討
・アクションのアフォード（通知の有効活用）
・サイトナビゲーション設計（パンくずリストやステップの表示）
・テーブル内の情報の表示設計（情報量、スクロール位置、移動、ソートなど）

CONFIDENTIAL

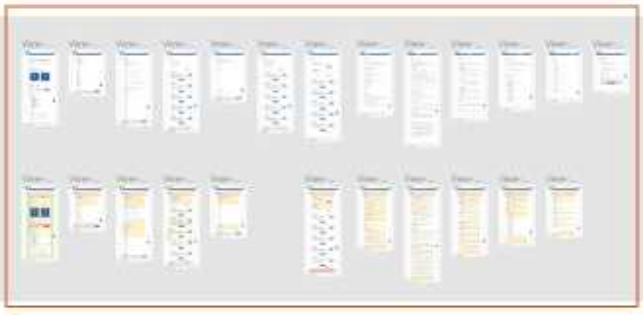
UI設計

画面設計図

CONFIDENTIAL

本開発はBootstlapをベースとし、エレメントのカスタマイズを行っている。
詳細は、Figmaのファイルを参照して下さい。

Elements（Assets、Components）



画面デザイン一覧、及び画面設計図

今後のｇBizシリーズを構築して行く際は、共通のエレメントの拡充と利用、基本画面構成（レイアウトパターン）
コンテンツ構造化のルールを構築していくことにより、Serviceのビジュアル・アイデンティティ、ユーザビリティ、アクセシビリティの有効性が共有され、Serviceブランドの発展につながることとなる。
本開発は、サービスブランド強化の構築第一歩としてのPoC開発とも言える。

画面設計方針

CONFIDENTIAL

本サイトは、リキッドデザインを採用しPCとモバイル端末ともに視認性、活用性の有効化をめざした。

SCPを意識した画面設計

【Simple】最小限の要素で、必要な情報を適切に提示する
【Clean】色、文字、余白を整えるなど、情報の識別がしやすい工夫
【Powerful】すぐ理解できるだけでなく、利用のMotivationの喚起を促す

JIS X8341-3を基準とした設計

日本工業規格JIS X8341シリーズ(高齢者・障害者等配慮設計指針-情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス)のガイドラインを基に設計を行う。
基本的概念
ウェブコンテンツは、可能な限り高齢者・障害者が操作又は利用できるように配慮する
ウェブコンテンツは、できるだけ多くの利用環境に配慮する
企画から運用に至るプロセスで情報アクセシビリティを常に確保し、更に向上するように配慮する

ユーザビリティ　行動喚起をユーザーに促す仕掛け

ユーザーが、制度検索を行うMotivationと、検索項目を選択することで、検索結果の絞り込みが可能となり、必要な制度を発見しやすくなることをナビゲートする仕掛け。更に継続的な利用による操作学習の向上を促し、キーワード検索等を利用して、特定の制度情報に素早くアクセスできるようになる仕掛けの設計

CONFIDENTIAL

色彩設計

文字コントラストの達成基準

CONFIDENTIAL

Web Content Accessibility Guidelines(WCAG)2.0の勧告に準じた、文字のコントラストの達成基準算出方法

コントラスト比= (L1 + 0.05) / (L2 + 0.05)
※L1は明るい方の色の相対輝度、L2は暗い方の相対輝度
相対輝度L = 0.2126 x R + 0.7152 x G + 0.0722 x B

RGB算出
if RsRGB <= 0.03928 then R = RsRGB/12.92 else R = ((RsRGB+0.055)/1.055) ^ 2.4
if GsRGB <= 0.03928 then G = GsRGB/12.92 else G = ((GsRGB+0.055)/1.055) ^ 2.4
if BsRGB <= 0.03928 then B = BsRGB/12.92 else B = ((BsRGB+0.055)/1.055) ^ 2.4

RGB定義
RsRGB = R8bit/255
GsRGB = G8bit/255
BsRGB = B8bit/255

計算結果は1:1～21:1の間の値を取得し、この比が4.5:1を超えていれば達成基準AAをクリア、
7:1を超えていれば達成基準AAAをクリアしているという解釈

参照：W3C　https://www.w3.org/WAI/standards-guidelines/wcag/

AAAまたはAAの取得を目的とした、有効色の選出

CONFIDENTIAL

Baseの色と、TextまたはIcon Colorのコントラストを算出し、UI（Elements）やコンテンツに反映させる

テキストカラー

CONFIDENTIAL

背景色とのコントラストを十分に確保しつつ、視覚的にやわらかなイメージをもつ文字色

Text Color

Contrast =(L1 + 0.05) / (L2 + 0.05)

Text	#181A1D	Contrast Ratio / 13.04 : 1	Normal Text / AAA	Large Text / AAA	（本文）	
Caption Text 1	#181A1D	Contrast Ratio / 13.04 : 1	Normal Text / AAA	Large Text / AAA	（ボタンやテキストボックスなど）	
Caption Text 2	#FFFFFF	Contrast Ratio / 13.04 : 1	Normal Text / AAA	Large Text / AAA	（ボタン）	
Link Text	#003D9B	Contrast Ratio / 7.67 : 1	Normal Text / AAA	Large Text / AAA	（本文中のリンク）	
Disable Text	#B2B2B2	Contrast Ratio / 13.04 : 1	Normal Text /FAIL	Large Text / FAIL	（ボタンやテキストボックスなど）	

コンテンツのコントラスト比は、17.43 : 1
文字サイズの大小に関わらず、アクセシビリティスコアAAAを確保

基本カラースキーム

CONFIDENTIAL

ビジネスを意識しつつ、威圧感を与えない柔らかな色彩の選定

Basic Color Set

Base: #F9F9F9

Main: #FFFFFF

Accent: #D4E3EC

Base
コンテンツ（Body）にフォーカスを向ける背景色

Main
コンテンツの視認性を高め、内容の理解を促す背景色

Accent
メイン導線となるアクションを強調する
Call To Action（行動喚起）を促すことで、コンバージョンを達成する効果を向上させるアクセントカラー

※後述するNext Actionを促すボタンの色もAccentカラーとして機能する

CONFIDENTIAL

タイポグラフィー設計

Typography Guide

CONFIDENTIAL

コントラストAAAを確保しつつ、視認性を高め、Web Fontメインフォントとし選択することにより、表示機種にに依存しない読みやすさと美しさを実現する

TYPEFACE

Noto Sans JP

Desktop				Mobile			
STYLE	WEIGHT	SIZE	SAMPLE	STYLE	WEIGHT	SIZE	SAMPLE
H1	Bold	36	おもしろきこともなき世を面白く	H1	Bold	44	おもしろきこともなき世を面白く
H2	Bold	28	おもしろきこともなき世を面白く	H2	Bold	34	おもしろきこともなき世を面白く
H3	Bold	25	おもしろきこともなき世を面白く	H3	Bold	31	おもしろきこともなき世を面白く
H4	Bold	20	おもしろきこともなき世を面白く	H4	Bold	24	おもしろきこともなき世を面白く
H5	Bold	19	おもしろきこともなき世を面白く	H5	Bold	22	おもしろきこともなき世を面白く
Body1	Bold	16	おもしろきこともなき世を面白く	Body1	Bold	19	おもしろきこともなき世を面白く
Body1	Regular	16	おもしろきこともなき世を面白く	Body1	Regular	19	おもしろきこともなき世を面白く
Body2	Regular	14	おもしろきこともなき世を面白く	Body2	Regular	17	おもしろきこともなき世を面白く
Body2	Bold	14	おもしろきこともなき世を面白く	Body2	Bold	17	おもしろきこともなき世を面白く
Caption1	Bold	12	おもしろきこともなき世を面白く	Caption1	Bold	14	おもしろきこともなき世を面白く
Caption1	Regular	12	おもしろきこともなき世を面白く	Caption1	Regular	14	おもしろきこともなき世を面白く
Caption2	Regular	11	おもしろきこともなき世を面白く	Caption2	Regular	13	おもしろきこともなき世を面白く

通常時のコンテンツにおけるテキストの基準は16pt、サポートで14ptが利用される

Font CSS Style 1

CONFIDENTIAL

PC(Win/Mac)、Tablet、スマートフォン（iPhone/Android）等の機種による表示の乱れがないよう、OS登載フォントの置き換えも対処している

Fonts

HEADINGS

"noto sans jp", helvetica, "ヒラギノ角ゴ pro w3", "hiragino kaku gothic pro", メイリオ, Meiryo, Osaka, "ＭＳ Ｐゴシック", "ms pgothic", sans-serif

BODY

"noto sans jp", helvetica, "ヒラギノ角ゴ pro w3", "hiragino kaku gothic pro", メイリオ, Meiryo, Osaka, "ＭＳ Ｐゴシック", "ms pgothic", sans-serif

※Noto Sans JP（Web Font）を基本として利用
https://fonts.google.com/specimen/Noto+Sans+JP?preview.text_type=custom

Font CSS Style 2

CONFIDENTIAL

remによるサイズ指定

htmlタグの文字サイズ設定を以下のように指定
※ブラウザのデフォルトフォントサイズ：16pt（基準値）
16px×0.625＝10px

```
html { font-size: 62.5%; } /* font-sizeは16pxの62.5%の10px */
body { font-size: 1.4rem; } /*font-size : 14px と同等*/
h1 { font-size: 4.4rem; } /* font-size: 44px と同等 */
h2 { font-size: 3.4rem; } /* font-size: 34px と同等 */
```

Font CSS Style 3

CONFIDENTIAL

ユーザビリティの考慮

画面サイズ（解像度）の小さい端末で見たときの文字サイズ設定のまま、画面サイズの大きな機種で見ると各要素の文字サイズが小さく感じてしまう場合があるため、メディアクエリ（画面幅に応じて表示するCSSを切り替える記述）を使って画面サイズごとに文字サイズの調整を行う必要がある。720pxのスマートフォンでは62.5%、それ以上のスマートフォン、及びタブレットの時に同じ比率で1.2倍に拡大したい場合、htmlのサイズを75%にする。
ブラウザデフォルト16pxの62.5% = 10px
ブラウザデフォルト16pxの75% = 12px（ベースの1.2倍）

```
@media screen and (min-width: 721px) {
   html {
      font-size: 75%;
   }
}
@media screen and (max-width: 720px) {
   html {
      font-size: 62.5%;
   }
}
```

Font CSS Style 4

CONFIDENTIAL

ウェブアクセシビリティを考慮した文字サイズ切り替え

標準サイズ：ブラウザデフォルト16pxの62.5% = 10px
「大」サイズ：ブラウザデフォルト16pxの87.5% = 14px（ベースの1.4倍）

```
html {
font-size: 62.5%; /*標準サイズ*/
}
html.small {
font-size: 50%; /*小サイズ*/
}
html.big {
font-size: 87.5%; /*大サイズ*/
}
```

※Chromeではデフォルトでの最小表示文字サイズが10pxに設定されているので上記小サイズの設定をしても適用されないことを考慮して、本サイトは「標準/拡大」で設定する

コンテンツ構造

CONFIDENTIAL

見出しタグは、SEOに関しての影響を受けないことは、分かっているが、ユーザビリティの観点からルールの有る構造化は望ましい。そのため以下のようなコンテンツの構造ルールを採用した。

CONFIDENTIAL

UI エレメント設計

Components Buttons1

CONFIDENTIAL

メニューボタン、並びにコンテンツのボタンは、マテリアルデザインを採用し、かつコントラスト比AAA基準をクリアする配色となっている

またActionのフローを促すよう、次の操作を期待するボタンと、「戻る」「やり直す」等のボタンを分け、直感的な操作体系を設計した。Call to Action（行動喚起）を促すサブアクセントカラーでもある。

Components Buttons 2

CONFIDENTIAL

本サイトにおいて、重要な役割を担う検索方式の選択ボタンは、他のボタンとサイズや形式の違う特殊なボタンを設定した。コントラスト比はAAA。タイトルは各検索方法が想起できるわかりやすく、かつ短い文章に、またピクトグラムとDescriptionを掲載することで、自分にあった簡単な検索を選択することができるよう考慮している。

Normal（下方向４pxの影が付きます）

Hover（Strokeがつきます）

Pressed（影が消えます）

Components Buttons 3

CONFIDENTIAL

その他のボタン及びタグのComponents

Go to Top Button

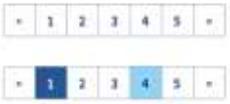
4pxの影が付きます

Tags

キャプションは12ptです

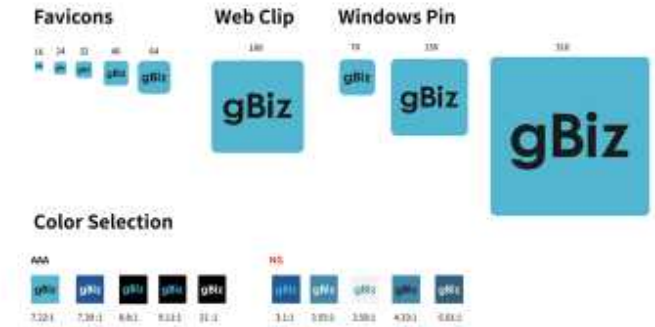
Pagenation

16px Boldです

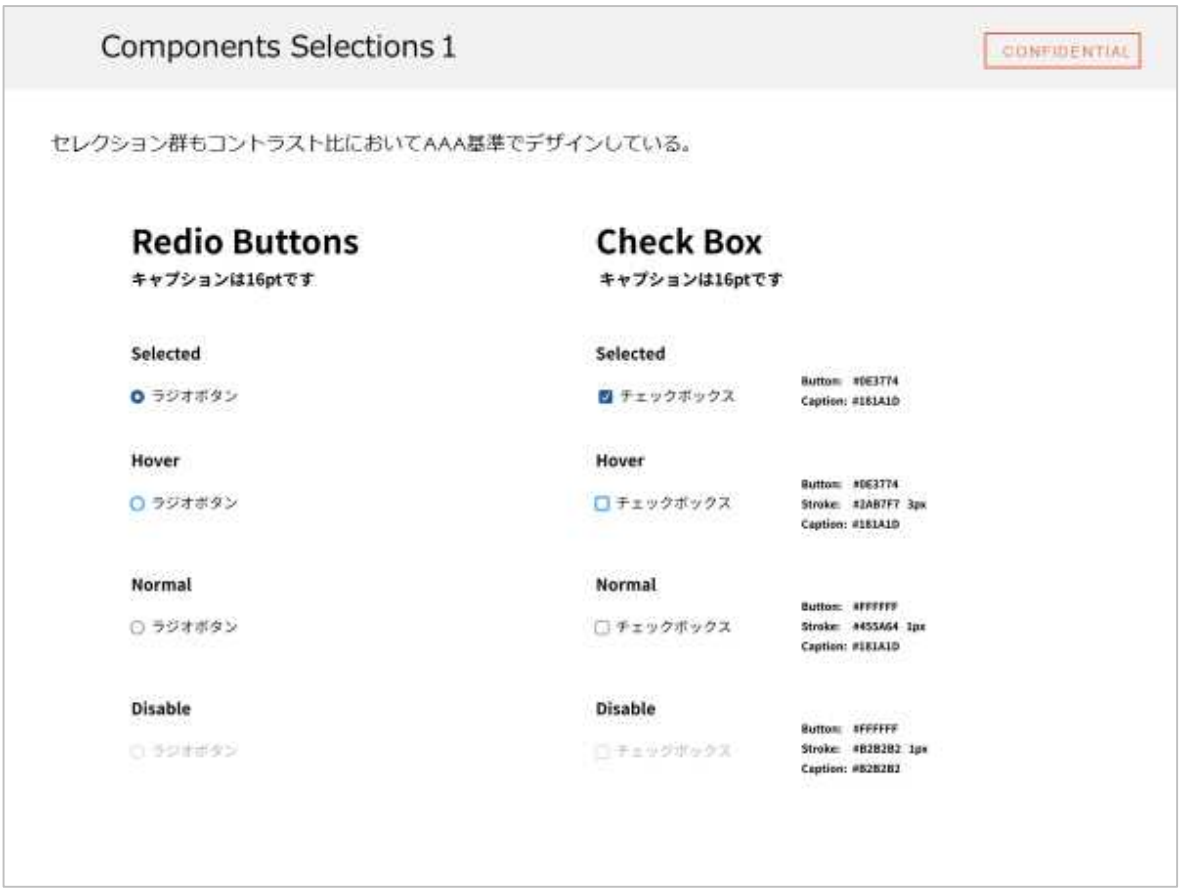


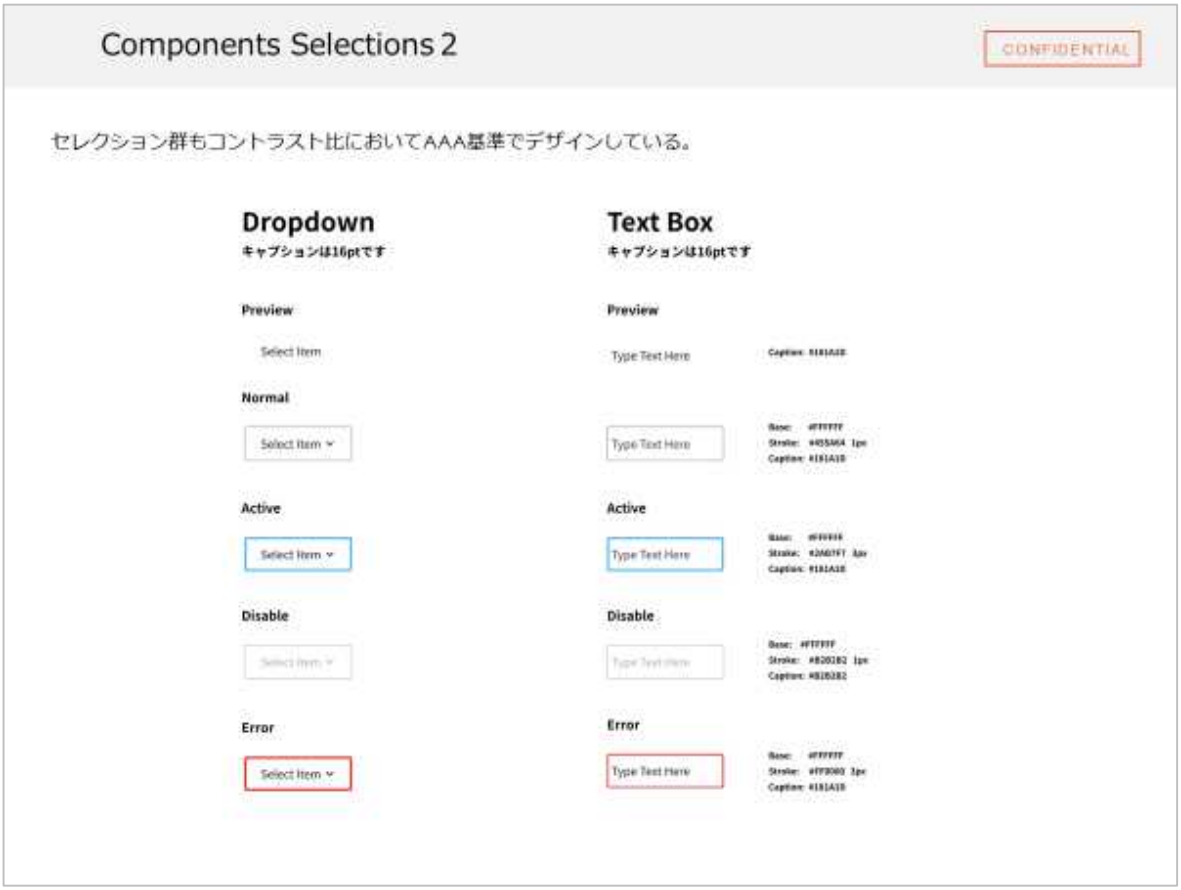
Faviconその他

CONFIDENTIAL



Web Favicon


Components Selections 1
CONFIDENTIAL
セレクション群もコントラスト比においてAAA基準でデザインしている。
Redio Buttons
キャプションは16ptです
Selected
ラジオボタン
Hover
ラジオボタン
Normal
ラジオボタン
Disable
ラジオボタン
Check Box
キャプションは16ptです
Selected
チェックボックス
Button: #0E3774
Caption: #181A1D
Hover
チェックボックス
Button: #0E3774
Stroke: #2AB7F7 3px
Caption: #181A1D
Normal
チェックボックス
Button: #FFFFFF
Stroke: #455A64 1px
Caption: #181A1D
Disable
チェックボックス
Button: #FFFFFF
Stroke: #B2B2B2 1px
Caption: #B2B2B2


Components Selections 2
CONFIDENTIAL
セレクション群もコントラスト比においてAAA基準でデザインしている。
Dropdown
キャプションは16ptです
Preview
Select Item
Normal
Select Item
Active
Select Item
Disable
Error
Select Item
Text Box
キャプションは16ptです
Preview
Type Text Here
Caption: #181A1D
Type Text Here
Active
Type Text Here
Disable
Error
Type Text Here

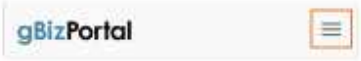
Components　Header

CONFIDENTIAL

過度な装飾は抑え、シンプルだが、ビジネス色を感じさせるデザインを行った。
コントラスト比においてAAA基準でデザインしている。
Information Barのセクションは、現在表示されていないが、今後の実装を見越してデザインしている

モバイル端末表示時のHeader表示とメニューの挙動

モバイル端末の利用時の表示に際しては、メニューがハンバーガーメニューに内包され、タップによってモーダル表示される。端末を握りながら指で操作しやすいよう、ハンバーガーメニュー（トリガー）位置は右上とした。
また、メニュー項目も選択しやすいよう、上下左右の幅、余白を考慮した配置となっている。



Components　Footer

CONFIDENTIAL

コントラスト比においてAAA基準でデザインしている。
経済産業省のロゴ及び、表記は検索エンジンのクローリングの際に「サイトの権威性」を明らかにするSEO対策でもある。

モバイル端末表示時のFooter表示とメニューの挙動

モバイル端末の利用時の表示に際しては、メニューは縦列に標示される。端末を握りながら指で操作しやすいよう、メニュー項目の上下左右の幅、余白を考慮した配置となっている。

Components　Cookie利用（Modal）

CONFIDENTIAL

本サイトはユーザーの利用行動データ取得のためCookieを利用する。
コントラスト比においてAAA基準でデザインしている。

Components　該当検索表示バー

CONFIDENTIAL

２つの検索方法選択時に、サイト下部に表示される。選択された項目により検索結果の該当件数が標示される。
また、次のActionにつながるナビゲーションの役割を持つ。
コントラスト比においてAAA基準でデザインしている。

モバイル端末表示時

Components　問い合わせフォームアクティベーション

CONFIDENTIAL

問い合わせフォーム（Google Form、外部サービス）へのリンクにあたり、プライバシーポリシーへの同意を求め、
承認されるとリンクボタンがアクティベートする。
コントラスト比においてAAA基準でデザインしている。（ボタンDisable時はコントラスト比AAになる）

CONFIDENTIAL

画面設計

画面設計

CONFIDENTIAL

サイトのフレームの基本レイアウト
行のmargin、paddingのルールはパターンを最小限にすることで、見出しタグとわせて、コンテンツブロックの構造を明確化し、視認性と可読性を高めるデザインになっている。

画面設計　Home

CONFIDENTIAL

画面設計の詳細は、Figmaのファイルを参照して下さい。

画面設計　キーワード検索結果

CONFIDENTIAL

画面設計の詳細は、Figmaのファイルを参照して下さい。

画面設計　質問に答えて探す１

CONFIDENTIAL

画面設計の詳細は、Figmaのファイルを参照して下さい。

画面設計　質問に答えて探す２

CONFIDENTIAL

画面設計の詳細は、Figmaのファイルを参照して下さい。

画面設計　質問に答えて探す　検索結果

CONFIDENTIAL

画面設計の詳細は、Figmaのファイルを参照して下さい。

画面設計　条件を選んで探す

CONFIDENTIAL

画面設計の詳細は、Figmaのファイルを参照して下さい。

画面設計　条件を選んで探す　検索結果

CONFIDENTIAL

画面設計の詳細は、Figmaのファイルを参照して下さい。

画面設計　このサイトについて

CONFIDENTIAL

画面設計の詳細は、Figmaのファイルを参照して下さい。

画面設計　プライバシーポリシー

CONFIDENTIAL

画面設計の詳細は、Figmaのファイルを参照して下さい。

画面設計　サイトマップ

CONFIDENTIAL

画面設計の詳細は、Figmaのファイルを参照して下さい。

画面設計　サイトマップ

CONFIDENTIAL

画面設計の詳細は、Figmaのファイルを参照して下さい。

CONFIDENTIAL

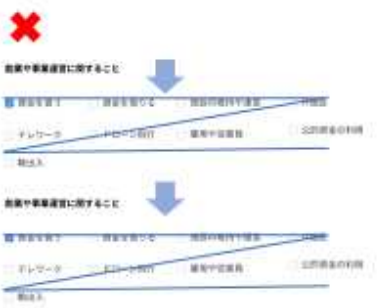
CTA（行動喚起）を促す仕組みの設計

行動喚起をユーザーに促す仕掛け１

CONFIDENTIAL

検索体験をスムーズかつ簡易的に行える仕掛け

検索がユーザーのサイト内での主な行動となる本サイトでは、選択項目情報の認知と、一貫した流れによる選択活動によってスムーズかつ、簡易的に検索条件を選択できる仕組みを採用している



条件選択がセクションごとに断片化する2型視線誘導を採用しない

直線的に配置することで、選択肢の認知、選択を直観的に行うことができる
また選択肢の行間を広くとることで、情報識別度を向上させる仕掛けを持っている

行動喚起をユーザーに促す仕掛け２

CONFIDENTIAL

Call to Action（CTA；行動喚起）による外部サイトへの遷移を促す仕組み（CVの達成）

ランディングページの上部に近い場所から、検索への遷移を促す仕組み

該当する条件を選択し、検索結果に推移を促す仕組み（ボタン色の違いが次のページへの遷移を促す）

検索結果から、外部サイトへの推移を促す仕組み
また、条件を変えて再検索を促す仕組み

行動喚起をユーザーに促す仕掛け３

CONFIDENTIAL

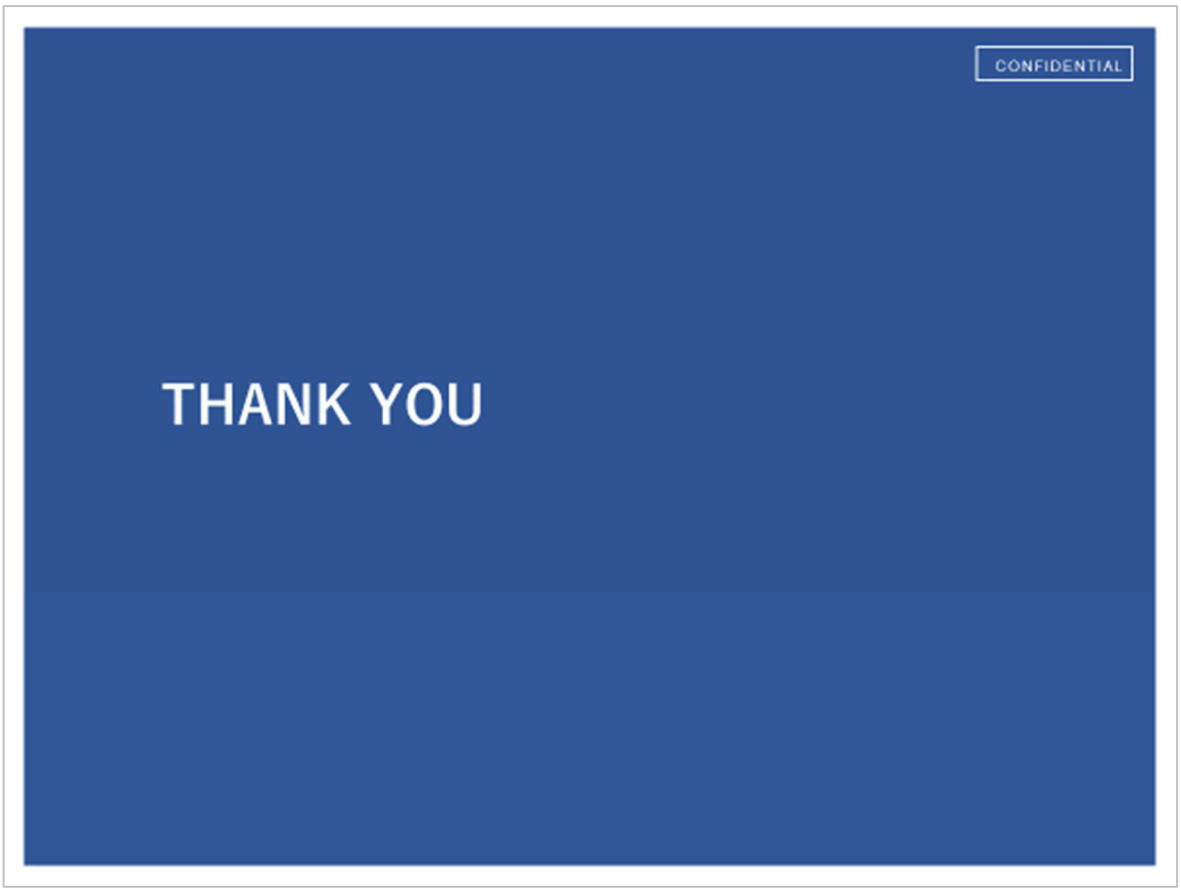
検索体験をスムーズかつ簡易的に行える仕掛け

煩わしい再検索の仕組みを廃して、選択中はユーザー自身が、自分のタイミングでスクロールしながら選択肢を選択し、該当する制度の件数を見ながら調整が可能、すべての選択項目を確認後、ワンタップでページトップに戻り、選択項目の見直しや、やり直しをすることで、検索精度をあげられるよう配慮した設計

条件を変えるときはワンクリック（タップ）で選択項目の最初（Page Top）に戻れる

条件の選択による該当制度情報のヒット件数を確認しながら条件を選ぶことができる

ページトップで、ユーザー自身が選択した項目を確認できる


CONFIDENTIAL
THANK YOU